

医療機関における外国人患者の
受入に係る実態調査
結果報告書

平成 31 年 3 月
厚生労働省

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の背景目的	3
2. 調査の目的	3
3. 調査の対象及び調査時期	3
3. 調査実施方法	3
4. 回収結果	4
5. 報告書を見る際の注意事項	4
第2章 調査結果（病院）	5
I. 調査票 A 結果	7
1. 回答者属性	7
（1） 許可病床数（FA）	7
（2） 総患者数（外来）（FA）	7
（3） 総患者数（入院）（FA）	8
（4） 医療機関の種別（MA）	8
（5） 診療科目（MA）	9
2. 外国人患者に対応する体制について	10
（1） 外国人患者対応の専門部署の有無（SA）	10
（1）－1 専門職員の人数（FA）	10
（1）－2 外国人対応マニュアルの整備状況（SA）	11
（1）－3 外国人対応マニュアルを利用できる職員の範囲（SA）	11
（1）－4 外国人対応マニュアルを利用できる職員部門（MA）	12
（2） 外国人向け医療コーディネーターの配置状況（SA）	13
（2）－1 コーディネーターの人数（FA）	13
（2）－2 コーディネーターの専任・兼任の別（SA）	14
（2）－3 コーディネーターの兼職（MA）	14
（2）－4 コーディネーターの専任・兼任別の人数（FA）	15
（2）－5 コーディネーターの常勤・非常勤の別（SA）	15
（2）－6 コーディネーターの常勤・非常勤別の人数（FA）	16
（2）－7 コーディネーターがカバーしている範囲（平日、休日）（SA）	16
（2）－8 コーディネーターがカバーしている時間帯（SA）	17
（2）－9 コーディネーターの役割（MA）	17
（2）－10 コーディネーターの対応言語（MA）	18
（3） 医療通訳の配置状況（SA）	19
（3）－1 医療通訳の人数（FA）	19

(3) - 2	医療通訳の専任・兼任の別 (SA)	20
(3) - 3	医療通訳の兼職 (MA)	20
(3) - 4	医療通訳の専任・兼任別の人数 (FA)	21
(3) - 5	医療通訳の常勤・非常勤の別 (SA)	21
(3) - 6	医療通訳の常勤・非常勤別の人数 (FA)	22
(3) - 7	医療通訳がカバーしている範囲(平日、休日) (SA)	22
(3) - 8	医療通訳がカバーしている時間帯 (SA)	23
(3) - 9	医療通訳の対応言語 (MA)	23
(4)	電話通訳(遠隔通訳)の利用状況 (SA)	24
(4) - 1	電話通訳がカバーしている範囲(平日、休日) (SA)	24
(4) - 2	医療通訳がカバーしている時間帯 (SA)	25
(4) - 3	電話通訳の対応言語 (MA)	25
(4) - 4	多言語に対応するためのその他の取組 (FA)	26
(5)	院内案内図、院内表示の多言語化状況 (SA)	27
(5) - 1	院内案内図、院内表示の対応言語 (MA)	27
(6)	タブレット端末等の利用状況 (SA)	28
(6) - 1	タブレット端末等を利用できる職員部門 (MA)	28
(6) - 2	タブレット端末等に備わっている機能 (MA)	29
(6) - 3	翻訳機能の対応言語 (MA)	29
3.	医療費等について	30
(1)	医療費の請求方法 (SA)	30
(1) - 1	診療報酬点数「1点」あたりの金額 (FA)	30
(1) - 2	追加的費用の内容 (MA)	31
(1) - 3	追加請求の金額 (FA)	32
4.	キャッシュレス決済について	33
(1)	カード(クレジットカード・デビットカード)を利用した決済の導入状況 (SA)	33
(1) - 1	導入している対応ブランド (MA)	33
(2)	非接触カードを利用した決済の導入状況 (SA)	34
(2) - 1	対応している電子マネー (MA)	34
(3)	QRコードを利用した決済の導入状況 (SA)	35
(3) - 1	対応しているサービス (MA)	35
(4)	その他の決済サービスの利用状況 (FA)	36
5.	未収金等への対策について	37
(1)	外国人患者に対して実施している取組 (MA)	37
(1) - 1	同意書の同意内容 (MA)	37
(2)	在留外国人への本人確認実施の有無 (SA)	38
(2) - 1	本人確認時に提示を求めているもの (MA)	38
II.	調査票 B 結果	39

1. 外国人患者の受入実績	39
(1) 在留外国人患者受入の有無 (SA)	39
(1) - 1 在留外国人患者の把握方法 (SA)	40
(1) - 2 受け入れた在留外国人患者の延べ人数 (FA)	41
(1) - 3 受け入れた在留外国人患者の国籍 (MA)	42
(1) - 4 未収金を生じた在留外国人患者 (FA)	43
(1) - 5 公的医療保険利用の有無 (在留外国人) (FA)	45
(1) - 6 民間医療保険利用の有無 (在留外国人) (SA)	45
(2) 訪日外国人患者 (医療渡航を除く) 受入の有無 (SA)	46
(2) - 1 受け入れた訪日外国人患者 (医療渡航を除く) の延べ人数 (FA)	47
(2) - 2 受け入れた訪日外国人患者 (医療渡航を除く) の国籍 (MA)	48
(2) - 3 未収金を生じた訪日外国人患者 (医療渡航を除く) (FA)	49
(2) - 4 公的医療保険利用の有無 (訪日外国人患者 (医療渡航を除く)) (FA)	51
(2) - 5 民間医療保険利用の有無 (訪日外国人患者 (医療渡航を除く)) (SA)	51
(3) 訪日外国人患者 (医療目的) 受入の有無 (SA)	52
(3) - 1 受け入れた訪日外国人患者 (医療目的) の延べ人数 (FA)	53
(3) - 2 受け入れた訪日外国人患者 (医療目的) の国籍 (MA)	54
(3) - 3 受け入れた訪日外国人患者 (医療目的) の ICD 分類 (FA)	55
(3) - 4 未収金を生じた訪日外国人患者 (医療目的) (FA)	56
(3) - 5 公的医療保険利用の有無 (訪日外国人患者 (医療目的)) (FA)	58
(3) - 6 民間医療保険利用の有無 (訪日外国人患者 (医療目的)) (SA)	58
2. 未収金を生じた患者について	59
(1) 未収金を生じた患者の有無 (FA)	59
III. 調査票 C 結果	60
1. 外国人患者の受入実績	60
(1) 妊娠 12 週以降に分娩に至った妊婦の有無 (FA)	60
(1) - 1 訪日外国人の有無 (妊娠 12 週以降に分娩) (SA)	60
(2) 妊娠 12 週より前の流産に対して手術を実施した患者の有無 (FA)	61
(2) - 1 訪日外国人の有無 (妊娠 12 週より前の流産に対して手術を実施) (SA)	61
(3) 異所性妊娠の手術を実施した患者の有無 (FA)	62
(3) - 1 訪日外国人の有無 (異所性妊娠の手術を実施) (SA)	62
2. 訪日外国人に係る周産期医療の患者について	63
(1) 妊娠 12 週以降に分娩に至った妊婦について (FA)	63
(2) 妊娠 12 週より前の流産に対して手術を実施した患者について (FA)	64
(3) 異所性妊娠の手術を実施した患者について (FA)	65
(4) 訪日外国人が分娩した新生児について (FA)	66
第 3 章 調査結果 (診療所)	67
I. 調査票 A 結果	69

1. 回答者属性	69
(1) 許可病床数 (FA)	69
(2) 総患者数 (外来) (FA)	69
(3) 総患者数 (入院) (FA)	70
(4) 医療機関の種別 (MA)	70
(5) 診療科目 (MA)	71
2. 外国人患者に対応する体制について	72
(1) 外国人患者対応の専門部署の有無 (SA)	72
(1) - 1 専門職員の人数 (FA)	72
(1) - 2 外国人対応マニュアルの整備状況 (SA)	72
(1) - 3 外国人対応マニュアルを利用できる職員の範囲 (SA)	73
(1) - 4 外国人対応マニュアルを利用できる職員部門 (MA)	73
(2) 外国人向け医療コーディネーターの配置状況 (SA)	74
(2) - 1 コーディネーターの人数 (FA)	74
(2) - 2 コーディネーターの専任・兼任の別 (SA)	75
(2) - 3 コーディネーターの兼職 (MA)	75
(2) - 4 コーディネーターの専任・兼任別の人数 (FA)	76
(2) - 5 コーディネーターの常勤・非常勤の別 (SA)	76
(2) - 6 コーディネーターの常勤・非常勤別の人数 (FA)	77
(2) - 7 コーディネーターがカバーしている範囲 (平日、休日) (SA)	77
(2) - 8 コーディネーターがカバーしている時間帯 (SA)	78
(2) - 9 コーディネーターの役割 (MA)	78
(2) - 10 コーディネーターの対応言語 (MA)	79
(3) 医療通訳の配置状況 (SA)	80
(3) - 1 医療通訳の人数 (FA)	80
(3) - 2 医療通訳の専任・兼任の別 (SA)	81
(3) - 3 医療通訳の兼職 (MA)	81
(3) - 4 医療通訳の専任・兼任別の人数 (FA)	82
(3) - 5 医療通訳の常勤・非常勤の別 (SA)	82
(3) - 6 医療通訳の常勤・非常勤別の人数 (FA)	83
(3) - 7 医療通訳がカバーしている範囲 (平日、休日) (SA)	83
(3) - 8 医療通訳がカバーしている時間帯 (SA)	84
(3) - 9 医療通訳の対応言語 (MA)	84
(4) 電話通訳 (遠隔通訳) の利用状況 (SA)	85
(4) - 1 電話通訳がカバーしている範囲 (平日、休日) (SA)	85
(4) - 2 医療通訳がカバーしている時間帯 (SA)	86
(4) - 3 電話通訳の対応言語 (MA)	86
(4) - 4 多言語に対応するためのその他の取組 (FA)	87
(5) 院内案内図、院内表示の多言語化状況 (SA)	88

(5) - 1 院内案内図、院内表示の対応言語 (MA)	88
(6) タブレット端末等の利用状況 (SA)	89
(6) - 1 タブレット端末等を利用できる職員部門 (MA)	89
(6) - 2 タブレット端末等に備わっている機能 (MA)	89
(6) - 3 翻訳機能の対応言語 (MA)	90
3. 医療費等について	91
(1) 医療費の請求方法 (SA)	91
(1) - 1 診療報酬点数「1点」あたりの金額 (FA)	91
(1) - 2 追加的費用の内容 (MA)	91
(1) - 3 追加請求の金額 (FA)	92
4. キャッシュレス決済について	93
(1) カード (クレジットカード・デビットカード) を利用した決済の導入状況 (SA)	93
(1) - 1 導入している対応ブランド (MA)	93
(2) 非接触カードを利用した決済の導入状況 (SA)	94
(2) - 1 対応している電子マネー (MA)	94
(3) QR コードを利用した決済の導入状況 (SA)	95
(3) - 1 対応しているサービス (MA)	95
(4) その他の決済サービスの利用状況 (FA)	96
5. 未収金等への対策について	97
(1) 外国人患者に対して実施している取組 (MA)	97
(1) - 1 同意書の同意内容 (MA)	97
(2) 在留外国人への本人確認実施の有無 (SA)	98
(2) - 1 本人確認時に提示を求めているもの (MA)	98
II. 調査票 B 結果	99
1. 外国人患者の受入実績	99
(1) 在留外国人患者受入の有無 (SA)	99
(1) - 1 在留外国人患者の把握方法 (SA)	99
(1) - 2 受け入れた在留外国人患者の延べ人数 (FA)	100
(1) - 3 受け入れた在留外国人患者の国籍 (MA)	101
(1) - 4 未収金を生じた在留外国人患者 (FA)	102
(1) - 5 公的医療保険利用の有無 (在留外国人) (FA)	103
(1) - 6 民間医療保険利用の有無 (在留外国人) (SA)	103
(2) 訪日外国人患者 (医療渡航を除く) 受入の有無 (SA)	104
(2) - 1 受け入れた訪日外国人患者 (医療渡航を除く) の延べ人数 (FA)	104
(2) - 2 受け入れた訪日外国人患者 (医療渡航を除く) の国籍 (MA)	105
(2) - 3 未収金を生じた訪日外国人患者 (医療渡航を除く) (FA)	106
(2) - 4 公的医療保険利用の有無 (訪日外国人患者 (医療渡航を除く)) (FA)	107
(2) - 5 民間医療保険利用の有無 (訪日外国人患者 (医療渡航を除く)) (SA)	107
(3) 訪日外国人患者 (医療目的) 受入の有無 (SA)	108

(3) - 1 受け入れた訪日外国人患者（医療目的）の延べ人数（FA）	108
(3) - 2 受け入れた訪日外国人患者（医療目的）の国籍（MA）	109
(3) - 3 受け入れた訪日外国人患者（医療目的）の ICD 分類（FA）	110
(3) - 4 未収金を生じた訪日外国人患者（医療目的）（FA）	111
(3) - 5 公的医療保険利用の有無（訪日外国人患者（医療目的））（FA）	112
(3) - 6 民間医療保険利用の有無（訪日外国人患者（医療目的））（SA）	112
2. 未収金を生じた患者について	113
(1) 未収金を生じた患者の有無（FA）	113
< 巻末資料 >	114
調査票	116

第 1 章 調査の概要

1. 調査の背景目的

我が国の訪日外国人旅行者は年間約 3,119 万人（2018 年）、在留外国人は約 263 万人（2018 年 6 月）と、近年著しい増加傾向にある。

政府においては、内閣官房健康・医療推進本部（本部長：内閣総理大臣）が「訪日外国人に対する適切な医療等の確保に関するワーキンググループ」を開催し、2018 年（平成 30 年）6 月に「訪日外国人に対する適切な医療等の確保に向けた総合対策」を取りまとめた。

本総合対策に基づき、各都道府県の衛生主管部（局）と観光部（局）が連携し、地域の関係者の協力を得つつ、課題の解決に向け積極的に取り組む事が重要と考えられる。この際、外国人に対する医療提供体制の現状を把握する必要があることから、厚生労働省において全国の病院と一部の診療所を対象とし、医療機関の外国人患者受入能力向上のための基礎資料を得ることを目的として、実態調査を行うこととした。

2. 調査の目的

本調査は、その目的によって調査票を調査票 A、調査票 B、調査票 C の 3 つに分けて行った。

それぞれの調査票は以下の様な目的で調査した。

- ・調査票 A：医療機関における外国人患者受入体制に関する調査
- ・調査票 B：医療機関における外国人患者受入に関する調査
- ・調査票 C：周産期医療に係る外国人患者受入れの現状に関する調査

調査票 B では、受診された患者を一ヶ月間追跡調査している。

また、本調査では未収金について、診療の対価を請求したにも関わらず、請求日より 1 ヶ月を経ても診療費の全額を支払っていない場合としている。

3. 調査の対象及び調査時期

調査の対象とした医療機関は、調査対象者は全国の病院及び京都府及び沖縄県に所在する診療所である。

周産期医療に関する調査票 C は全国の地域周産期母子医療センターおよび総合周産期母子医療センターである。

調査時期は以下のとおりである。

(ア) 病院

- ・調査票 A 及び C 平成 30 年 9 月 4 日～平成 30 年 9 月 28 日
- ・調査票 B 平成 30 年 9 月 4 日～平成 30 年 12 月 14 日

(イ) 京都府及び沖縄県に所在する診療所

- ・調査票 A 及び C 平成 30 年 10 月 26 日～平成 30 年 11 月 14 日
- ・調査票 B 平成 30 年 10 月 26 日～平成 31 年 1 月 14 日

3. 調査実施方法

アンケート協力依頼を郵送、調査票を厚生労働省ホームページからダウンロード、メールにより電子的に回収

4. 回収結果

本調査での回収結果は下表に示すとおりである。

表1 回収結果

調査票種類	対象数	回収数	回収率
病院を調査対象とした調査票 A	8,417 件	5,611 件	66.7%
病院を調査対象とした調査票 B	8,417 件	3,980 件	47.3%
地域周産期母子医療センター及び総合周産期母子医療センターを調査対象とした調査票 C	406 件	318 件	78.3%
京都府及び沖縄県の診療所を調査対象とした調査票 A	5,240 件	1,082 件	20.6%
京都府及び沖縄県の診療所を調査対象とした調査票 B	5,240 件	901 件	17.2%

5. 報告書を見る際の注意事項

- (1) 図表中の n は設問に対する回答者数で、比率計算の基数を示している。
- (2) 回答比率 (%) は、その質問の回答者数を基数として算出している。なお、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100% を上下する場合がある。
- (3) グラフ内の数値は「割合 (施設数)」で表している。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) クロス集計の合計は、当該質問に対する全ての内訳ではないので、全体の合計とは合わない場合がある。
- (6) 回答数が少ないものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。
- (7) 本報告書で「救急医療機関」は、第 2 次救急医療機関及び救命救急センターを指す。

また、「外国人患者受入医療機関」は、「外国人受入れ環境整備事業の対象医療機関 (※1)」「訪日外国人旅行者受入可能な医療機関 (※2)」「ジャパンインターナショナルホスピタルズ (※3)」「JMIP 認証病院 (※4)」を指す。

- ※1 厚生労働省が行ってきた、「外国人患者受入れ環境整備推進事業」で整備された医療機関。
- ※2 訪日外国人受入れ医療機関として都道府県から観光庁に登録された医療機関。
- ※3 一般社団法人 Medical Excellence JAPAN により推奨されている医療機関。
- ※4 一般財団法人日本医療教育財団により認証された医療機関。

- (8) 報告書中の略語は以下を指す。

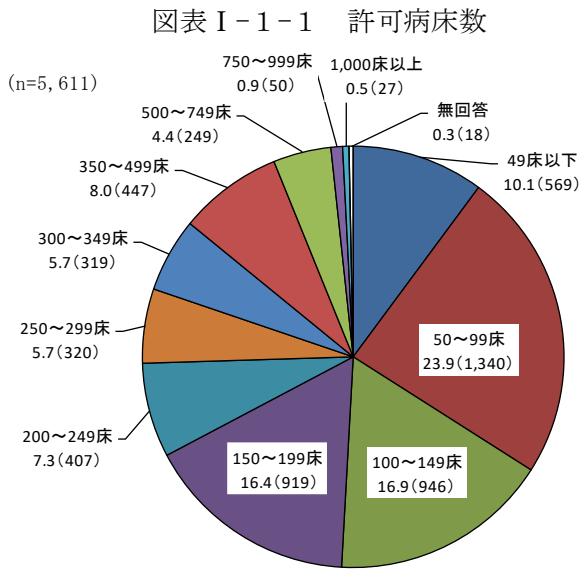
- * FA 自由回答
- * MA 複数回答
- * SA 単一回答

第2章 調査結果（病院）

I. 調査票 A 結果

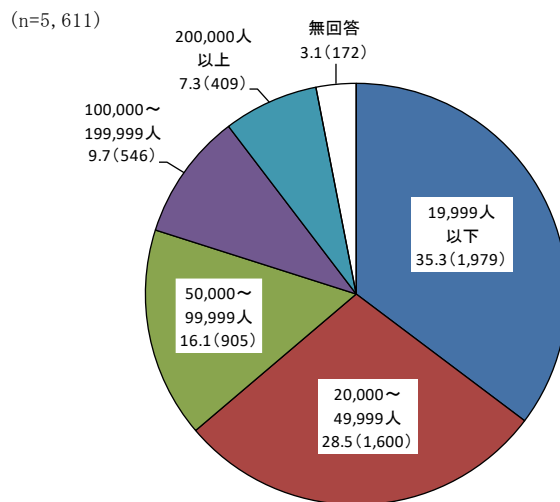
1. 回答者属性

(1) 許可病床数 (FA)



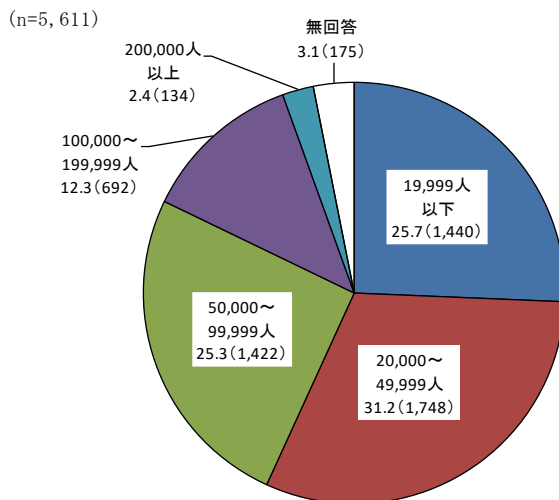
(2) 総患者数 (外来) (FA)

図表 I-1-2 総患者数 (外来)



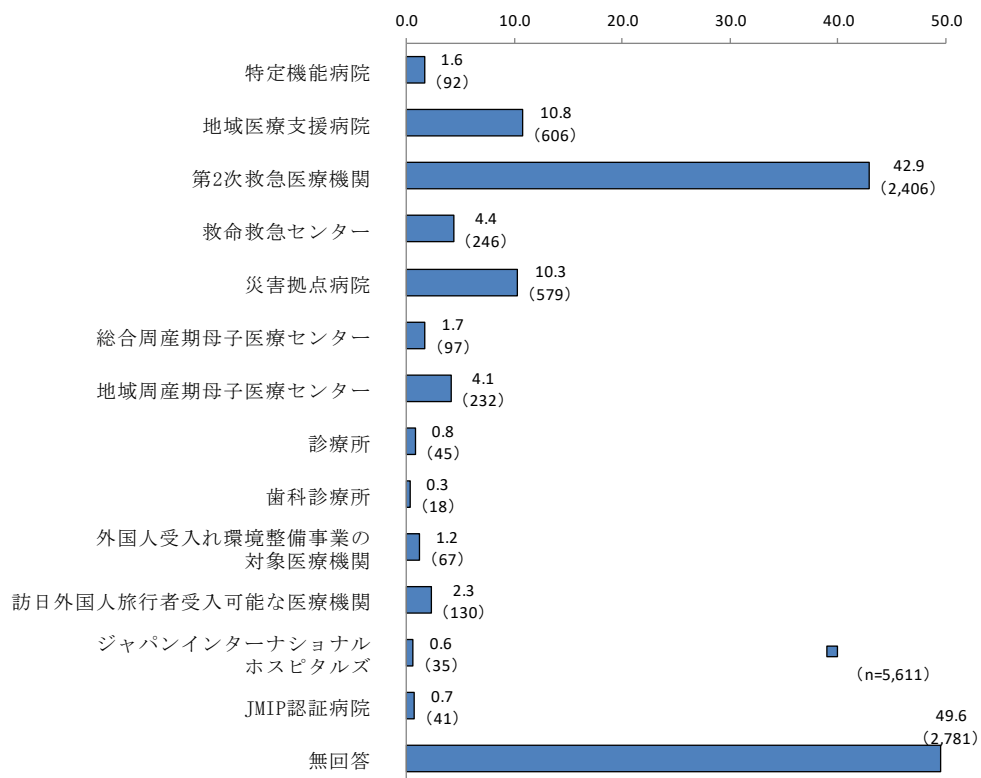
(3) 総患者数 (入院) (FA)

図表 I-1-3 総患者数 (入院)



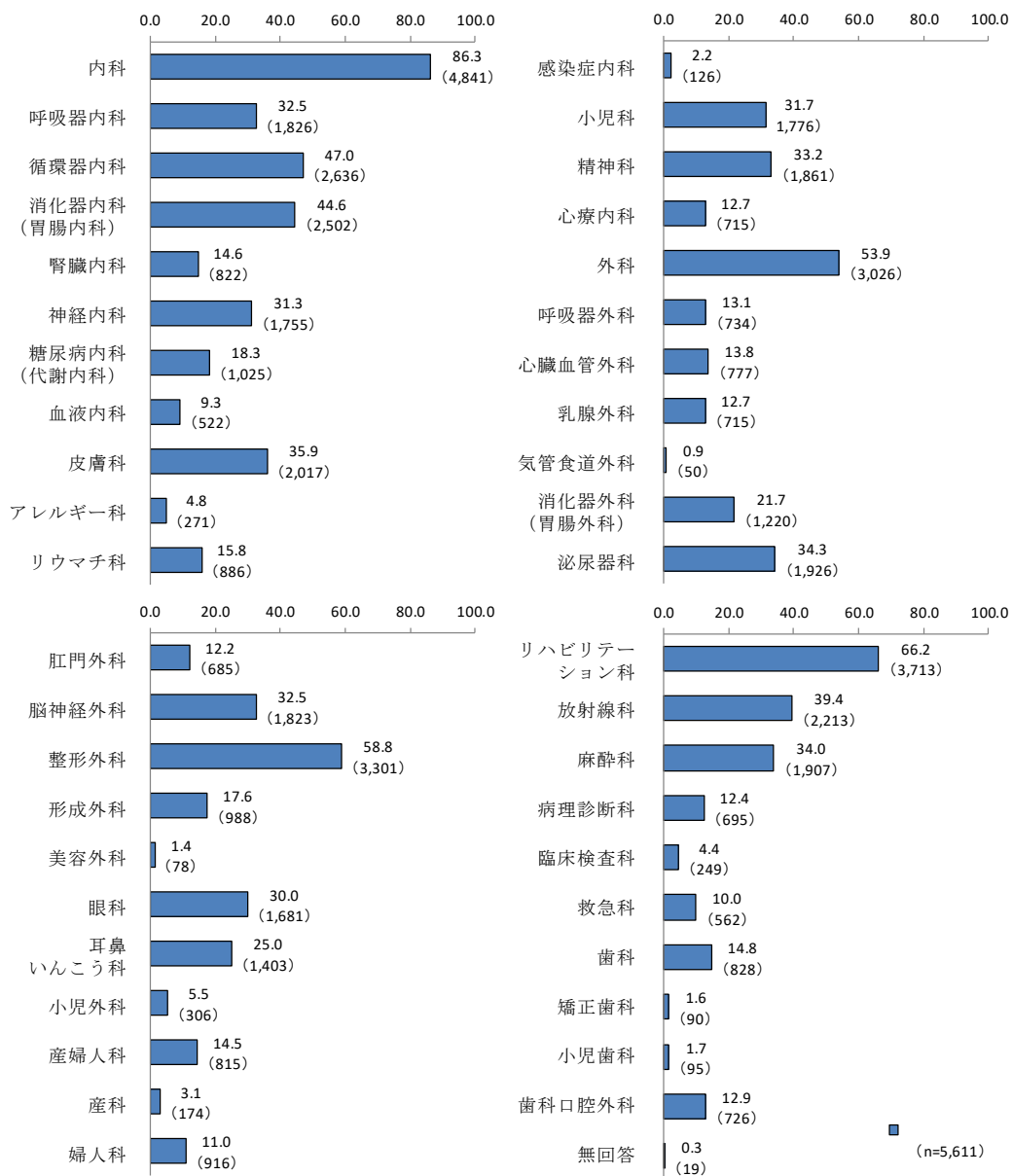
(4) 医療機関の種別 (MA)

図表 I-1-4 医療機関の種別



(5) 診療科目 (MA)

図表 I-1-5 診療科目



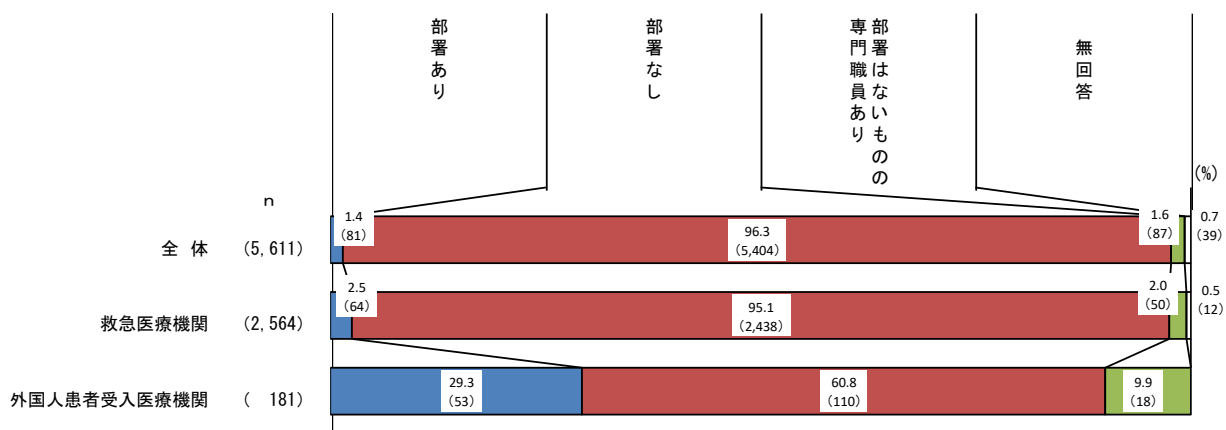
2. 外国人患者に対応する体制について

(1) 外国人患者対応の専門部署の有無 (SA)

外国人患者対応の専門部署の有無について聞いたところ、「部署あり」が1.4%、「部署なし」が96.3%、「部署はないものの専門職員あり」が1.6%となっている。

病院部門別でみると、「部署あり」が救急医療機関では2.5%、外国人患者受入医療機関では29.3%、「部署なし」が救急医療機関では95.1%、外国人患者受入医療機関では60.8%、「部署はないものの専門職員あり」が救急医療機関では2.0%、外国人患者受入医療機関では9.9%となっている。

図表 I-2-1 外国人患者対応の専門部署の有無

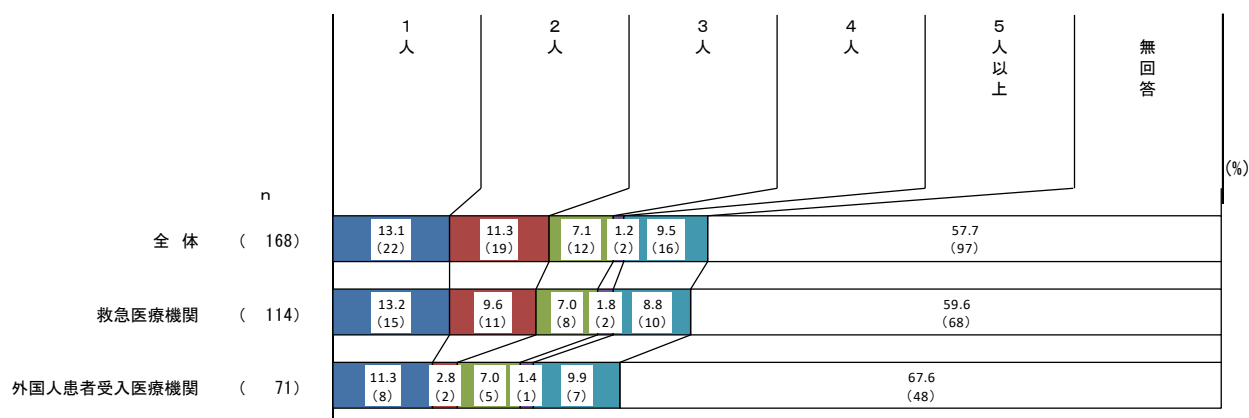


(1) - 1 専門職員の人数 (FA)

専門職員の人数について聞いたところ、「1人」が13.1%で最も高く、次いで「2人」が11.3%と続いている。

病院部門別でみると、救急医療機関では「1人」が13.2%で最も高く、次いで「2人」が9.6%と続いている。外国人患者受入医療機関では「1人」が11.3%で最も高く、次いで「5人以上」が9.9%と続いている。

図表 I-2-1-1 専門職員の人数

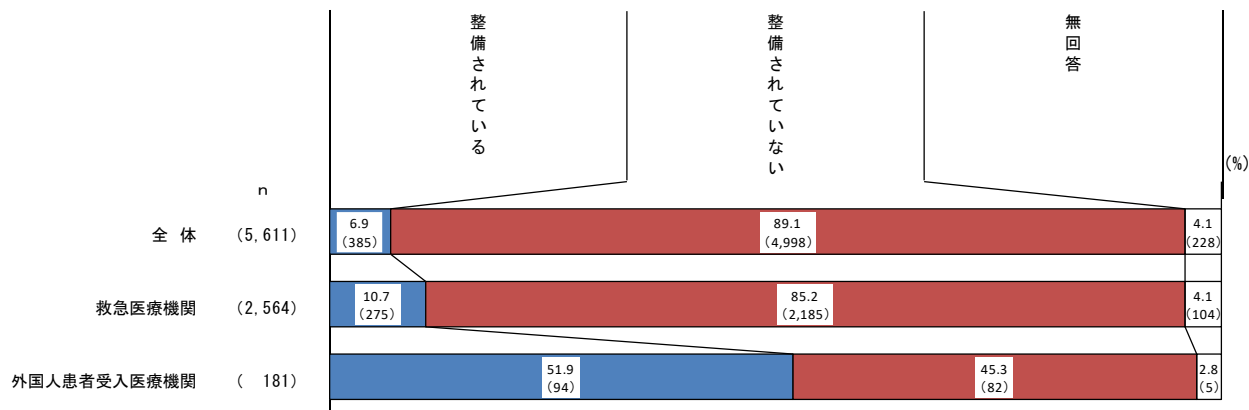


(1) - 2 外国人対応マニュアルの整備状況 (SA)

外国人対応マニュアルの整備状況について聞いたところ、「整備されている」が6.9%、「整備されていない」が89.1%となっている。

病院部門別で見ると、救急医療機関では「整備されている」が10.7%「整備されていない」が85.2%、外国人患者受入医療機関では「整備されている」が51.9%「整備されていない」が45.3%となっている。

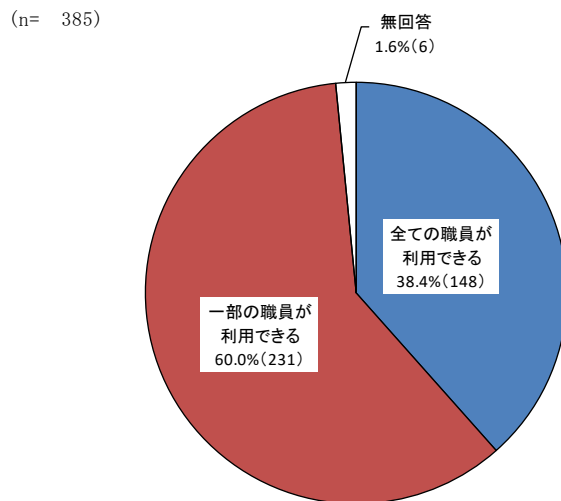
図表 I-2-1-2 外国人対応マニュアルの整備状況



(1) - 3 外国人対応マニュアルを利用できる職員の範囲 (SA)

外国人対応マニュアルを利用できる職員の範囲について聞いたところ、「一部の職員が利用できる」が60.0%、「すべての職員が利用できる」が38.4%となっている。

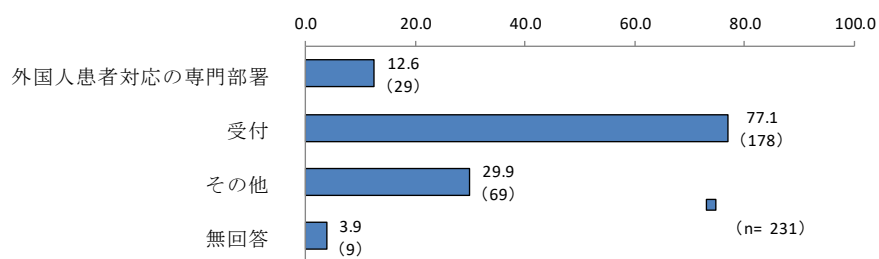
図表 I-2-1-3 外国人対応マニュアルを利用できる職員の範囲



(1) - 4 外国人対応マニュアルを利用できる職員部門 (MA)

外国人対応マニュアルを利用できる職員部門について聞いたところ、「受付」が77.1%で最も高く、次いで「外国人患者対応の専門部署」が12.6%と続いている。

図表 I-2-1-4 外国人対応マニュアルを利用できる職員部門

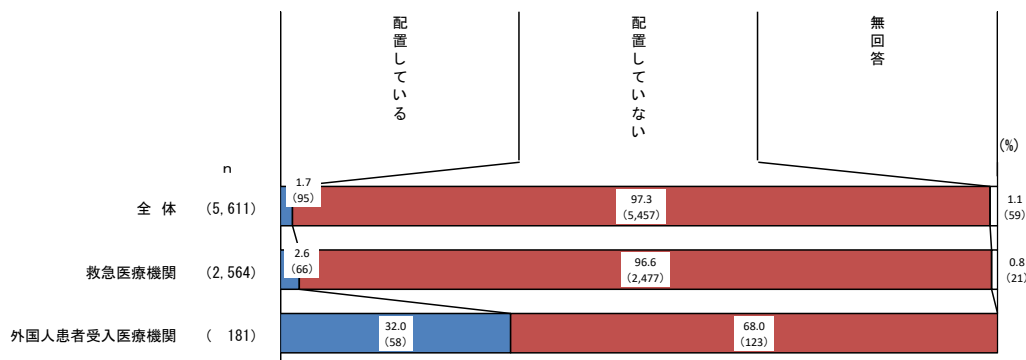


(2) 外国人向け医療コーディネーターの配置状況 (SA)

外国人向け医療コーディネーターの配置状況について聞いたところ、「配置している」が1.7%、「配置していない」が97.3%となっている。

病院部門別で見ると、救急医療機関では「配置している」が2.6%「配置していない」が96.6%、外国人患者受入医療機関では「配置している」が32.0%「配置していない」が68.0%となっている。

図表 I-2-2 外国人向け医療コーディネーターの配置状況

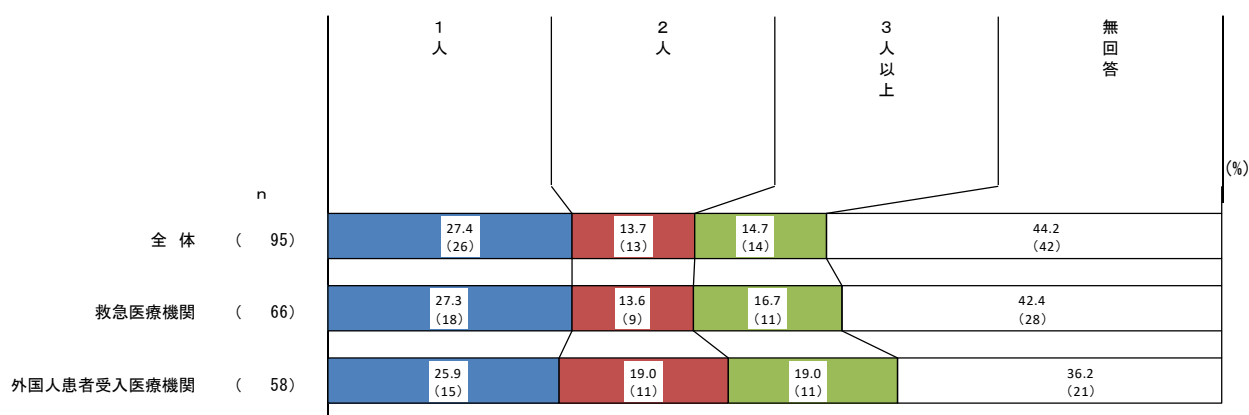


(2) - 1 コーディネーターの人数 (FA)

コーディネーターの人数について聞いたところ、「1人」が27.4%で最も高く、次いで「3人以上」が14.7%、「2人」が13.7%と続いている。

病院部門別で見ると、救急医療機関では「1人」が27.3%で最も高く、次いで「3人」が16.7%と続いている。外国人患者受入医療機関では「1人」が25.9%で最も高く、次いで「2人」と「3人以上」が19.0%と続いている。

図表 I-2-2-1 コーディネーターの人数

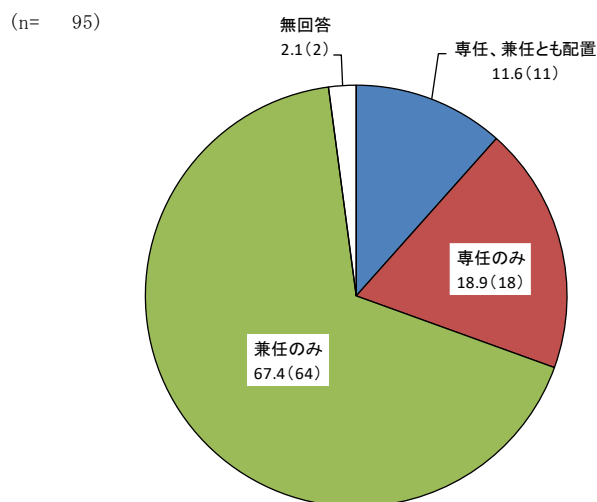


※グラフ内の割合と件数は、回答した施設数を表している。

(2) - 2 コーディネーターの専任・兼任の別 (SA)

コーディネーターの専任・兼任の別について聞いたところ、「兼任のみ」が67.4%で最も高く、次いで「専任のみ」が18.9%と続いている。

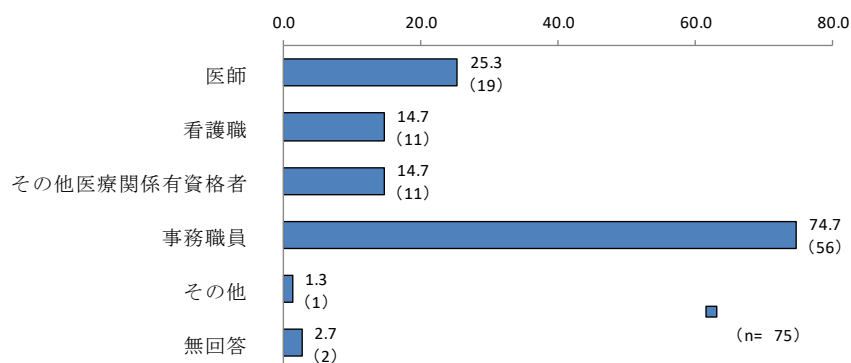
図表 I-2-2-2 コーディネーターの専任・兼任の別



(2) - 3 コーディネーターの兼職 (MA)

コーディネーターの兼職について聞いたところ、「事務職員」が74.7%で最も高く、次いで「医師」が25.3%と続いている。

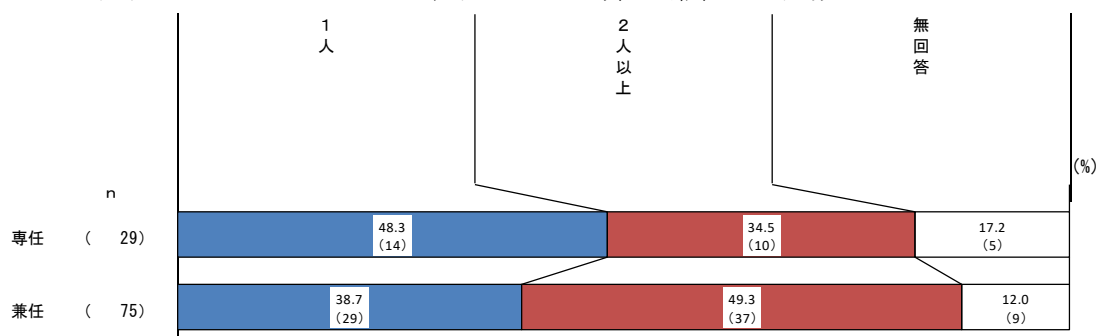
図表 I-2-2-3 コーディネーターの兼職



(2) - 4 コーディネーターの専任・兼任別の人数 (FA)

コーディネーターの人数について専任・兼任それぞれで聞いたところ、専任では「1人」が48.3%で最も高く、次いで「2人以上」が34.5%と続いている。兼任では「2人以上」が49.3%で最も高く、次いで「1人」が38.7%と続いている。

図表 I-2-2-4 コーディネーターの専任・兼任別の人数

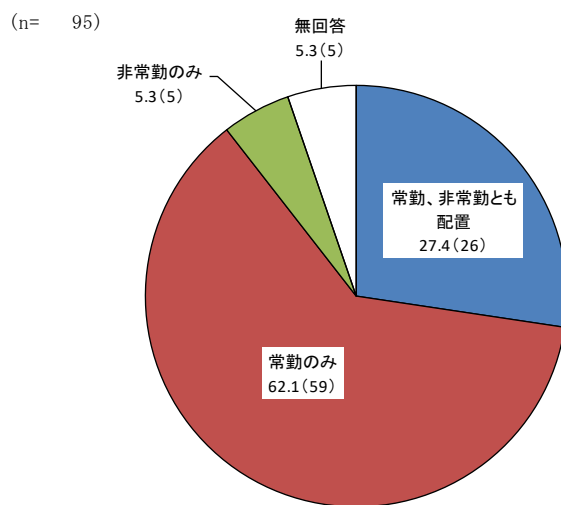


※グラフ内の割合と件数は、回答した施設数を表している。

(2) - 5 コーディネーターの常勤・非常勤の別 (SA)

コーディネーターの常勤・非常勤の別について聞いたところ、「常勤のみ」が62.1%で最も高く、次いで「常勤、非常勤とも配置」が27.4%と続いている。

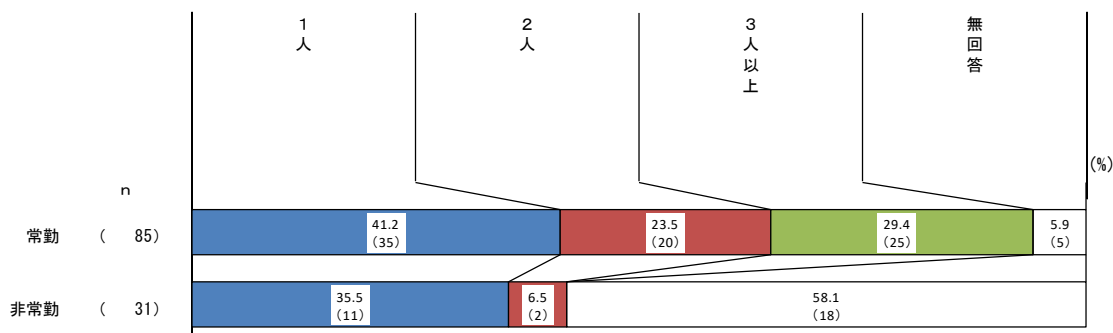
図表 I-2-2-5 コーディネーターの常勤・非常勤の別



(2) - 6 コーディネーターの常勤・非常勤別の人数 (FA)

コーディネーターの人数について常勤・非常勤それぞれ聞いたところ、常勤では「1人」が41.2%で最も高く、次いで「3人以上」が29.4%と続いている。非常勤では「1人」が35.5%で最も高く、次いで「2人」が6.5%と続いている。

図表 I-2-2-6 コーディネーターの常勤・非常勤別の人数

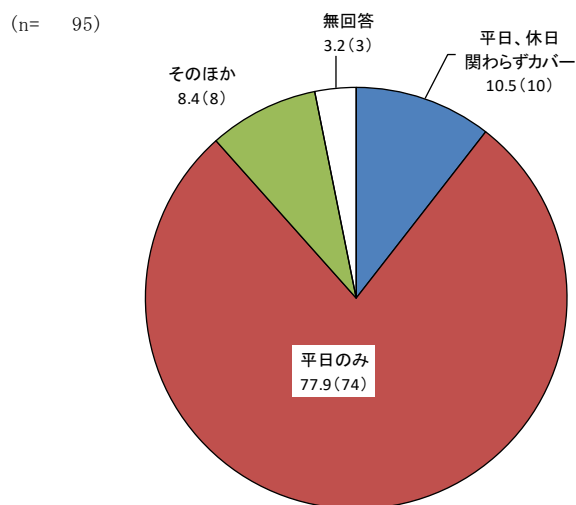


※グラフ内の割合と件数は、回答した施設数を表している。

(2) - 7 コーディネーターがカバーしている範囲 (平日、休日) (SA)

コーディネーターがカバーしている範囲 (平日、休日) について聞いたところ、「平日のみ」が77.9%で最も高く、次いで「平日、休日関わらずカバー」が10.5%と続いている。

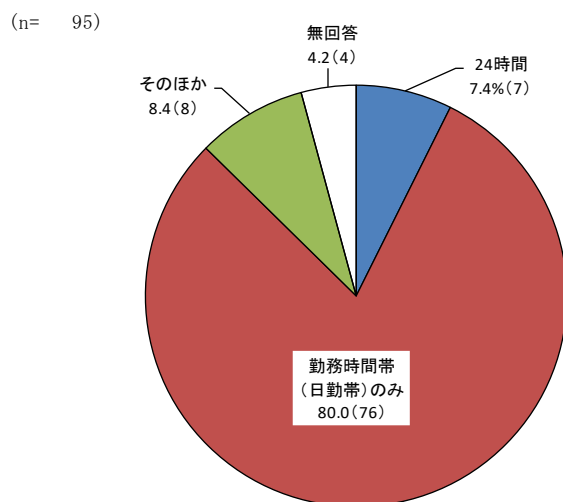
図表 I-2-2-7 コーディネーターがカバーしている範囲 (平日、休日)



(2) - 8 コーディネーターがカバーしている時間帯 (SA)

コーディネーターがカバーしている時間帯について聞いたところ、「勤務時間帯（日勤帯）のみ」が80.0%で最も高く、次いで「24時間」が7.4%と続いている。

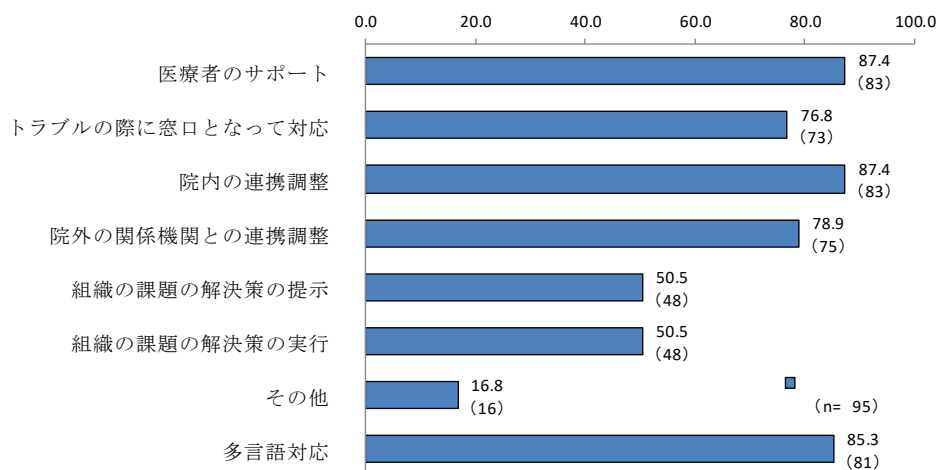
図表 I-2-2-8 コーディネーターがカバーしている時間帯



(2) - 9 コーディネーターの役割 (MA)

コーディネーターの役割について聞いたところ、「医療者のサポート」と「院内の連絡調整」が87.4%で最も高く、次いで「多言語対応」が85.3%と続いている。

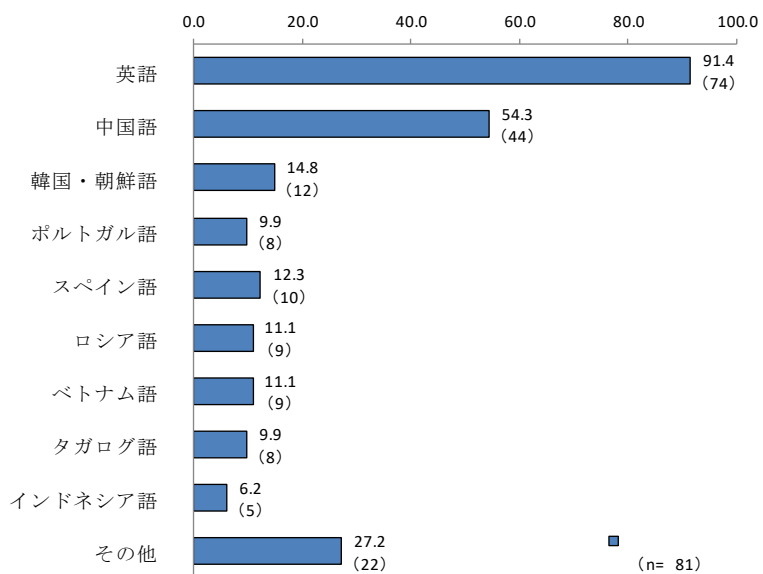
図表 I-2-2-9 コーディネーターの役割



(2) -10 コーディネーターの対応言語 (MA)

コーディネーターの役割で『多言語対応』と回答した施設にコーディネーターの対応言語について聞いたところ、「英語」が91.4%で最も高く、次いで「中国語」が54.3%と続いている。

図表 I-2-2-10 コーディネーターの対応言語

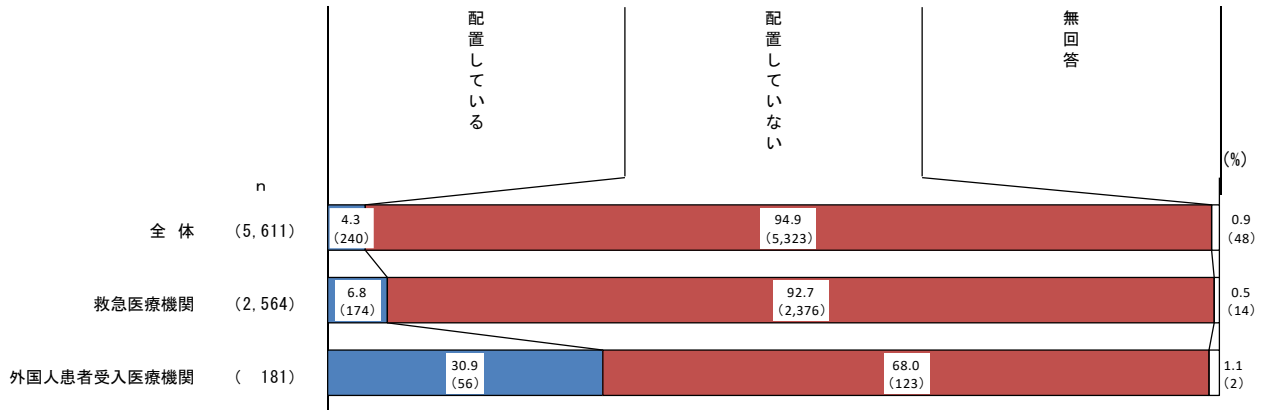


(3) 医療通訳の配置状況 (SA)

医療通訳の配置状況について聞いたところ、「配置している」が4.3%、「配置していない」が94.9%となっている。

病院部門別で見ると、救急医療機関では、「配置している」が6.8%「配置していない」が92.7%、外国人患者受入医療機関では「配置している」が30.9%「配置していない」が68.0%となっている。

図表 I-2-3 医療通訳の配置状況

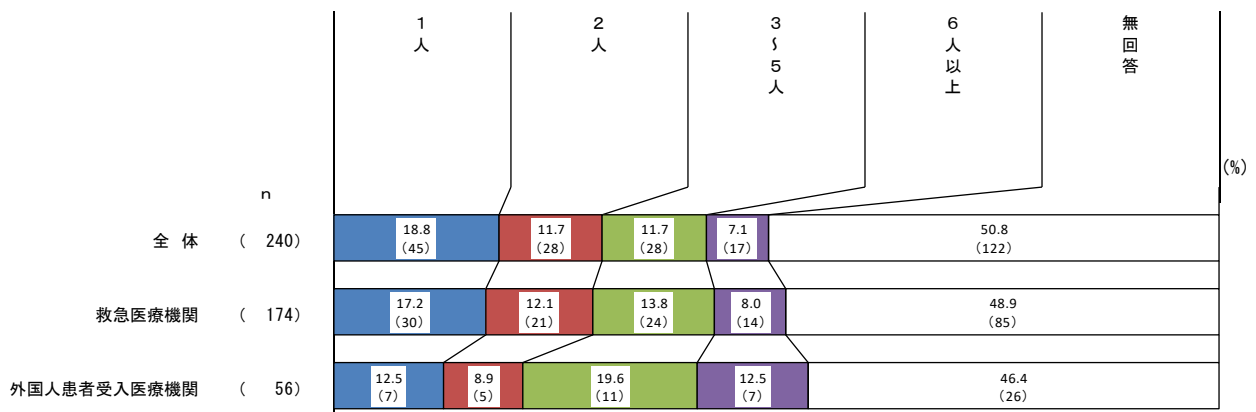


(3) - 1 医療通訳の人数 (FA)

医療通訳の人数について聞いたところ、「1人」が18.8%で最も高く、次いで「2人」と「3～5人」が11.7%と続いている。

病院部門別で見ると、救急医療機関では「1人」が17.2%で最も高く、次いで「3～5人」が13.8%と続いている。外国人患者受入医療機関では「3～5人」が19.6%で最も高く、次いで「1人以上」が12.5%と続いている。

図表 I-2-3-1 医療通訳の人数

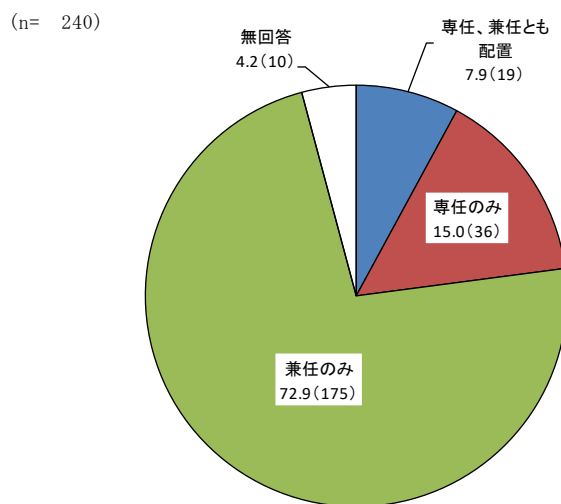


※グラフ内の割合と件数は、回答した施設数を表している。

(3) - 2 医療通訳の専任・兼任の別 (SA)

医療通訳の専任・兼任の別について聞いたところ、「兼任のみ」が72.9%で最も高く、次いで「専任のみ」が15.0%と続いている。

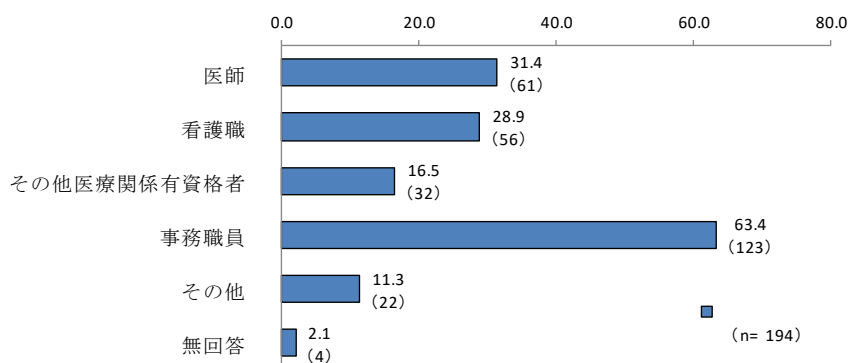
図表 I-2-3-2 医療通訳の専任・兼任の別



(3) - 3 医療通訳の兼職 (MA)

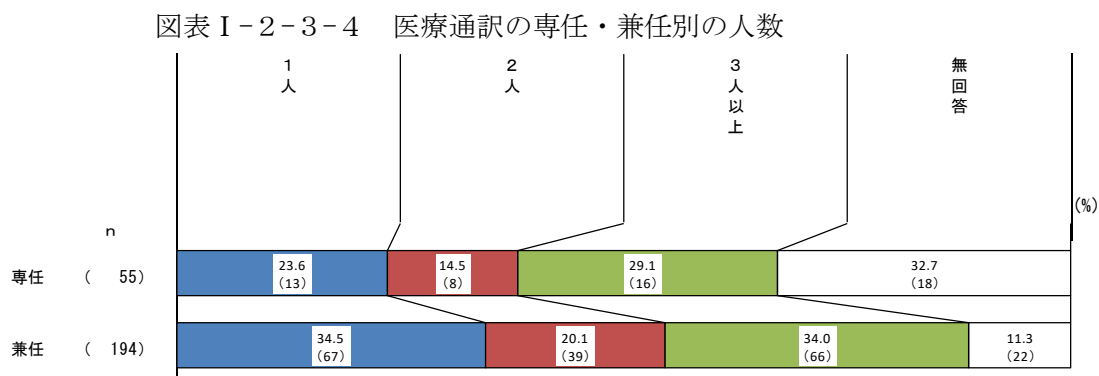
医療通訳の兼職について聞いたところ、「事務職員」が63.4%で最も高く、次いで「医師」が31.4%と続いている。

図表 I-2-3-3 医療通訳の兼職



(3) - 4 医療通訳の専任・兼任別の人数 (FA)

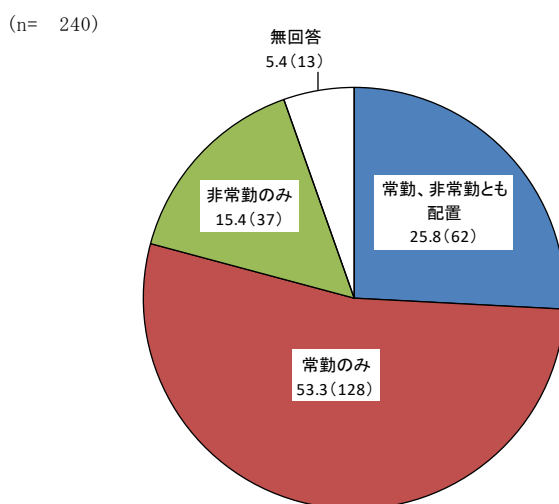
医療通訳の人数について専任・兼任それぞれで聞いたところ、専任では「3人以上が」が29.1%で最も高く、次いで「1人」が23.6%と続いている。兼任では「1人」が34.5%で最も高く、次いで「3人以上」が34.0%と続いている。



(3) - 5 医療通訳の常勤・非常勤の別 (SA)

医療通訳の常勤・非常勤の別について聞いたところ、「常勤のみ」が53.3%で最も高く、次いで「常勤、非常勤とも配置」が25.8%と続いている。

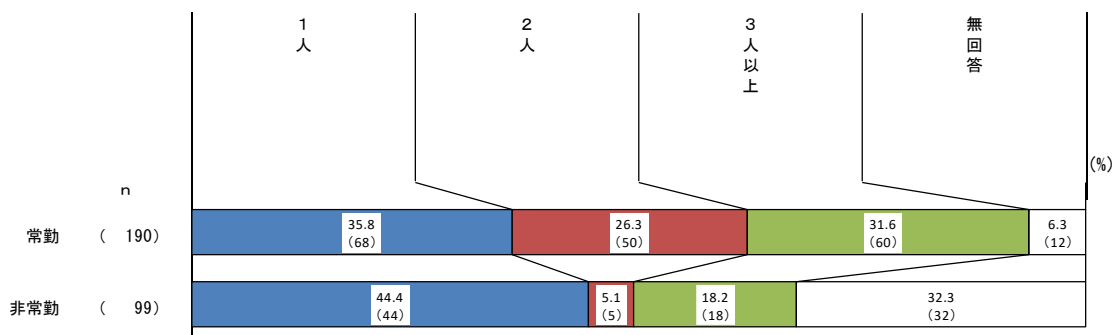
図表 I-2-3-5 医療通訳の常勤・非常勤の別



(3) - 6 医療通訳の常勤・非常勤別の人数 (FA)

医療通訳の人数について常勤・非常勤それぞれ聞いたところ、常勤では「1人」が35.8%で最も高く、次いで「3人以上」が31.6%と続いている。非常勤では「1人」が44.4%で最も高く、次いで「3人以上」が18.2%と続いている。

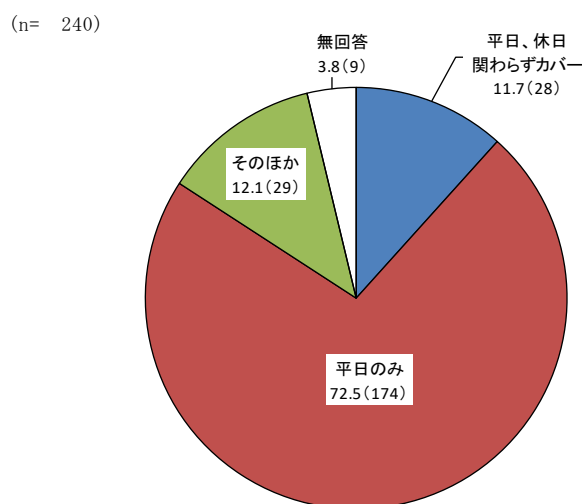
図表 I-2-3-6 医療通訳の常勤・非常勤別の人数



(3) - 7 医療通訳がカバーしている範囲(平日、休日) (SA)

医療通訳がカバーしている範囲について聞いたところ、「平日のみ」が72.5%で最も高く、次いで「平日、休日問わずカバー」が11.7%と続いている。

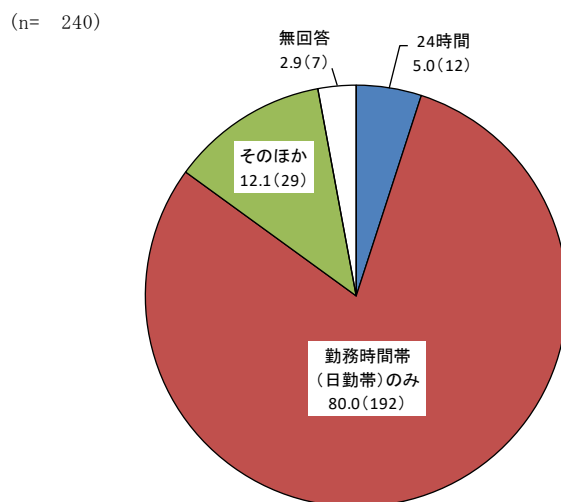
図表 I-2-3-7 医療通訳がカバーしている範囲(平日、休日)



(3) - 8 医療通訳がカバーしている時間帯 (SA)

医療通訳がカバーしている時間帯について聞いたところ、「勤務時間帯（日勤帯）のみ」が80.0%で最も高く、次いで「24時間」が5.0%と続いている。

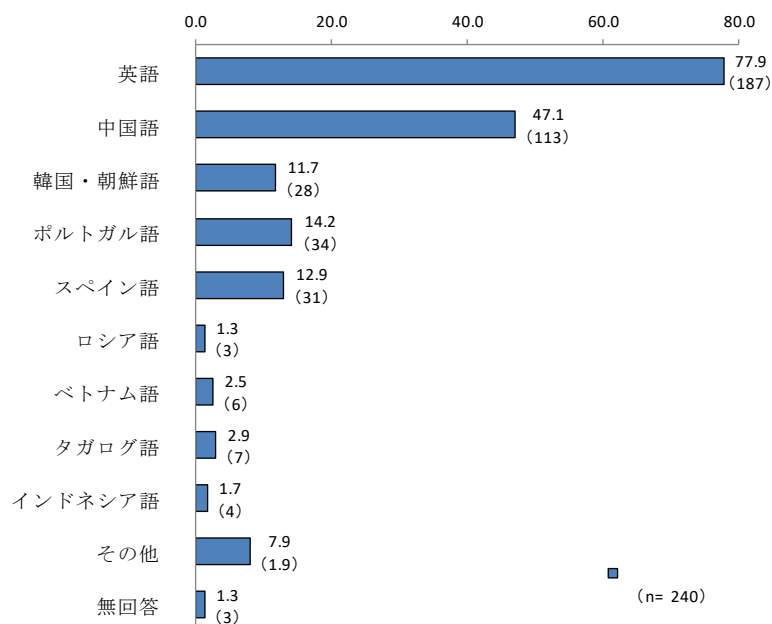
図表 I-2-3-8 医療通訳がカバーしている時間帯



(3) - 9 医療通訳の対応言語 (MA)

医療通訳の対応言語について聞いたところ、「英語」が77.9%で最も高く、次いで「中国語」が47.1%と続いている。

図表 I-2-3-9 医療通訳の対応言語

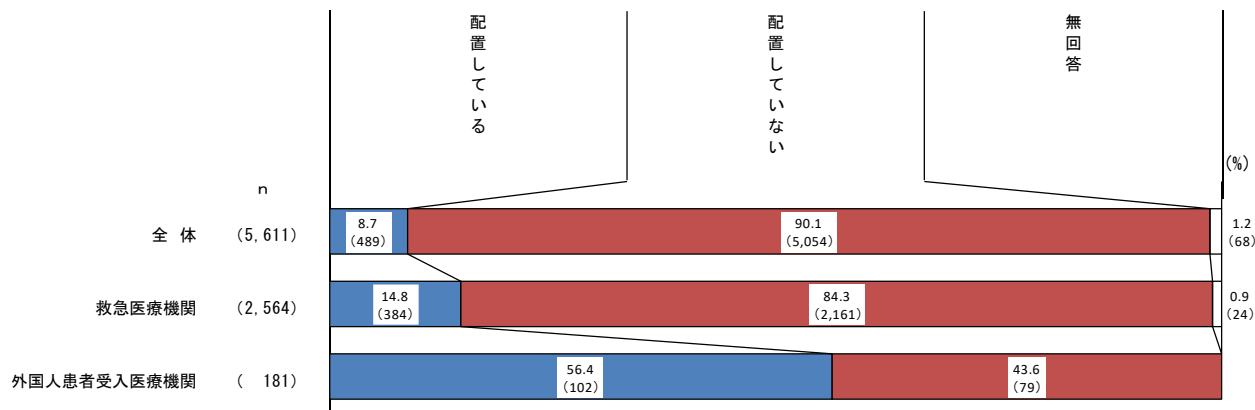


(4) 電話通訳（遠隔通訳）の利用状況（SA）

電話通訳（遠隔通訳）の利用状況の配置状況について聞いたところ、「配置している」が8.7%、「配置していない」が90.1%となっている。

病院部門別で見ると、救急医療機関では「配置している」が14.8%「配置していない」が84.3%、外国人患者受入医療機関では「配置している」が56.4%「配置していない」が43.6%となっている。

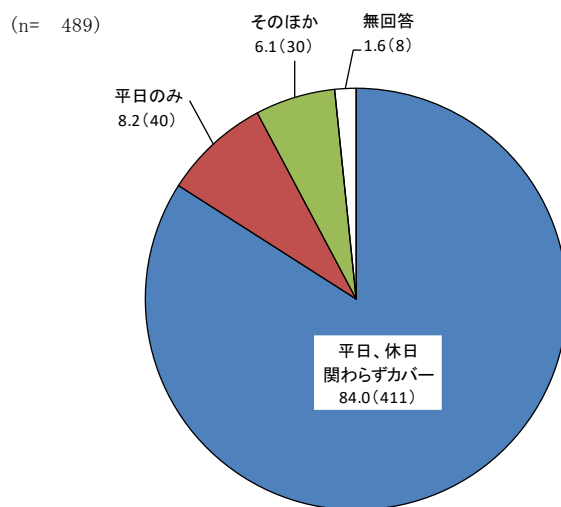
図表 I-2-4 電話通訳の利用状況



(4) - 1 電話通訳がカバーしている範囲（平日、休日）（SA）

電話通訳がカバーしている範囲について聞いたところ、「平日、休日関わらずカバー」が84.0%で最も高く、次いで「平日のみ」が8.2%と続いている。

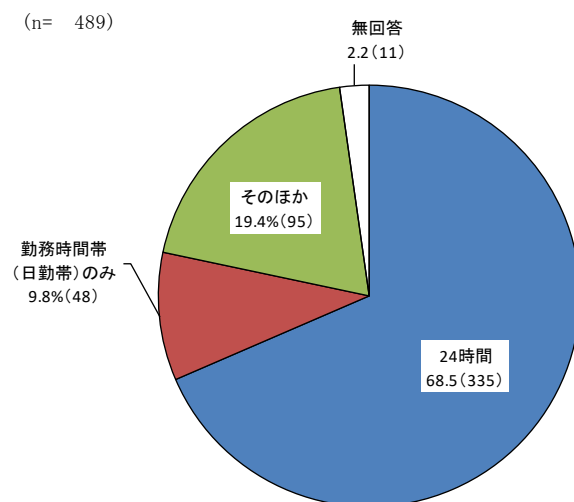
図表 I-2-4-1 電話通訳がカバーしている範囲（平日、休日）



(4) - 2 医療通訳がカバーしている時間帯 (SA)

医療通訳がカバーしている時間帯について聞いたところ、「24時間」が68.5%で最も高く、次いで「勤務時間帯（日勤帯）のみ」が9.8%と続いている。

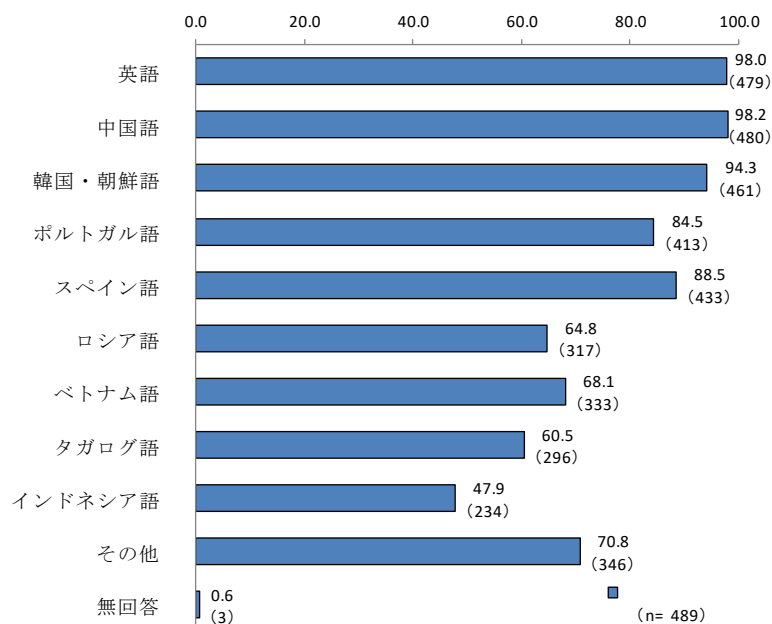
図表 I-2-4-2 電話通訳がカバーしている時間帯



(4) - 3 電話通訳の対応言語 (MA)

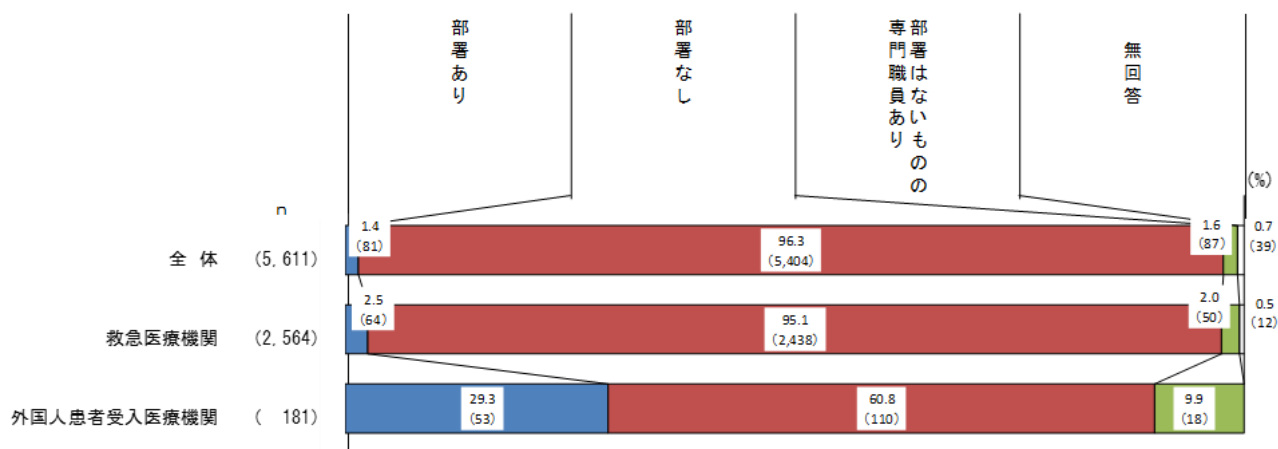
電話通訳の対応言語について聞いたところ、「中国語」が98.2%で最も高く、次いで「英語」が98.0%と続いている。

図表 I-2-4-3 医療通訳の対応言語



(4) - 4 多言語に対応するためのその他の取組 (FA)

多言語に対応するためのその他の取組について聞いたところ、「携帯のアプリ使用」、「多言語対応可能な医療機関を紹介する。」、「必要な場合は、県観光連盟の通訳サービスを活用予定です。」等の回答が得られた。

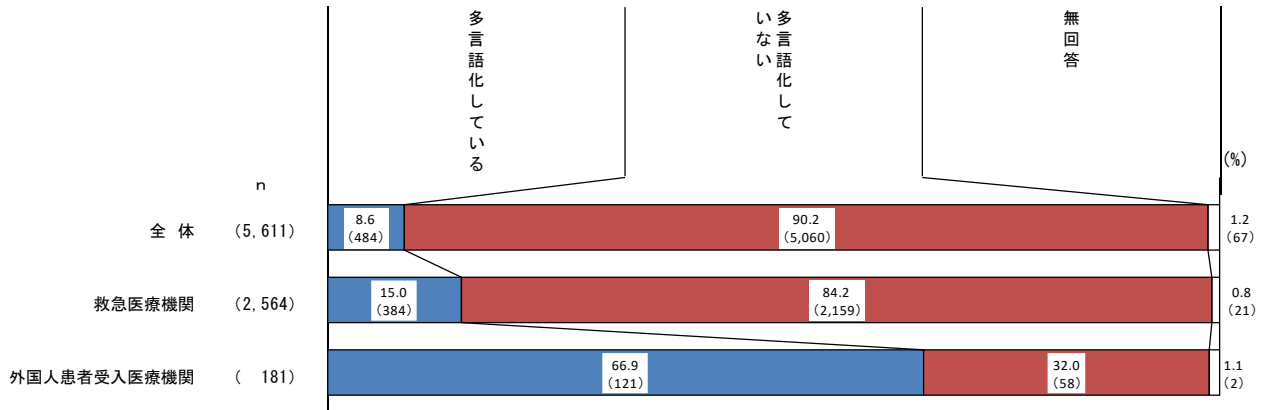


(5) 院内案内図、院内表示の多言語化状況 (SA)

院内案内図、院内表示の多言語化状況について聞いたところ、「配置している」が8.6%、「配置していない」が90.2%となっている。

病院部門別で見ると、救急医療機関では「配置している」が15.0%「配置していない」が84.2%、外国人患者受入医療機関では「配置している」が66.9%「配置していない」が32.0%となっている。

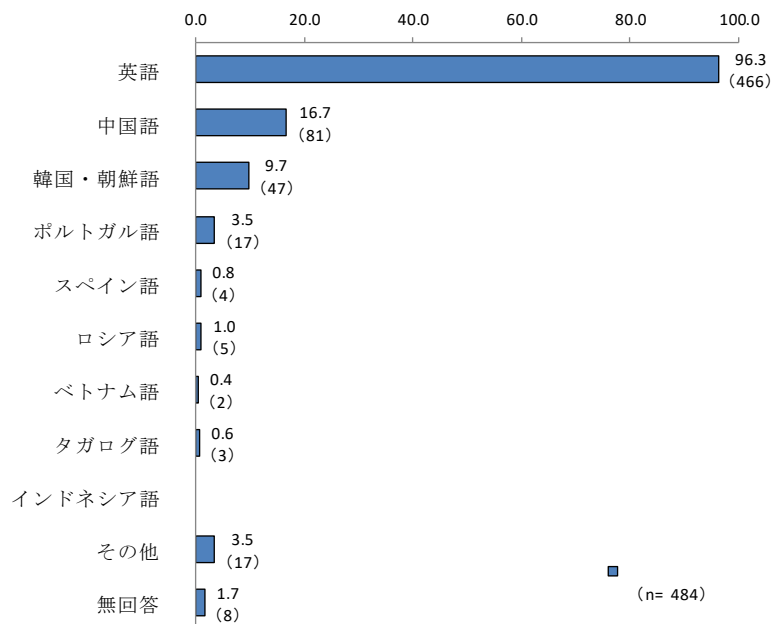
図表 I-2-5 院内案内図、院内表示の多言語化状況



(5) - 1 院内案内図、院内表示の対応言語 (MA)

院内案内図、院内表示の対応言語について聞いたところ、「英語」が96.3%で最も高く、次いで「中国語」が16.7%と続いている。

図表 I-2-5-1 医療通訳の対応言語

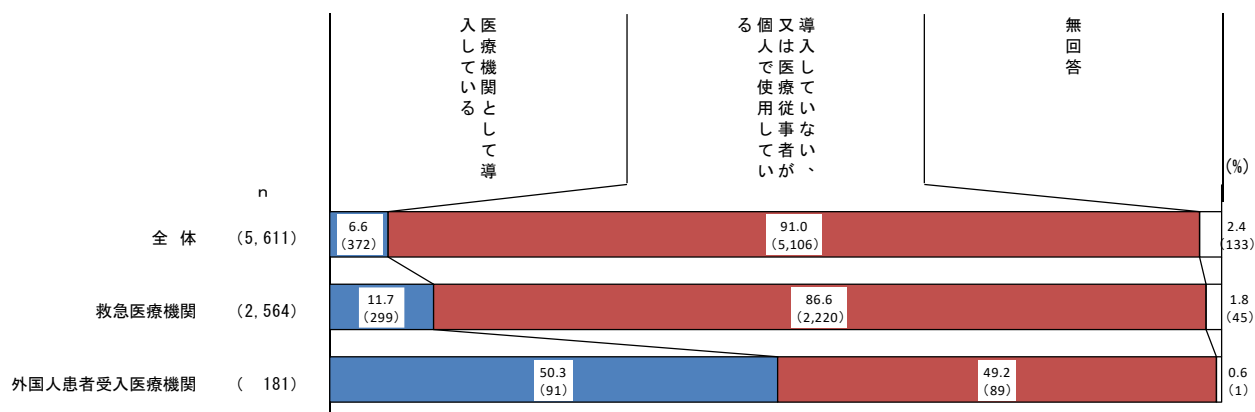


(6) タブレット端末等の利用状況 (SA)

タブレット端末等の利用状況について聞いたところ、「医療機関として導入している」が6.6%、「導入していない、又は医療従事者が個人で使用している」が91.0%となっている。

病院部門別で見ると、救急医療機関では「医療機関として導入している」が11.7%「導入していない、又は医療従事者が個人で使用している」が86.6%、外国人患者受入医療機関では「医療機関として導入している」が50.3%「導入していない、又は医療従事者が個人で使用している」が49.2%となっている。

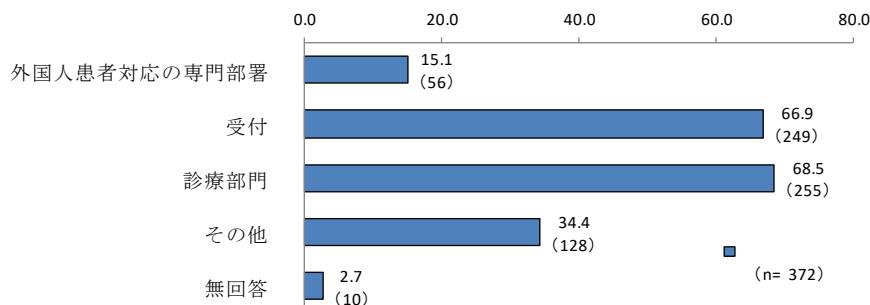
図表 I-2-6 タブレット端末等の利用状況



(6) - 1 タブレット端末等を利用できる職員部門 (MA)

タブレット端末等を利用できる職員部門について聞いたところ、「診療部門」が68.5%で最も高く、次いで「受付」が66.9%と続いている。

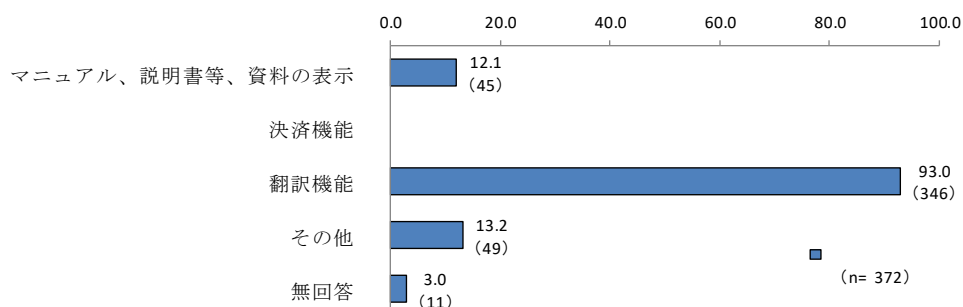
図表 I-2-6-1 タブレット端末等を利用できる職員部門



(6) - 2 タブレット端末等に備わっている機能 (MA)

タブレット端末等に備わっている機能について聞いたところ、「翻訳機能」が93.0%で最も高く、次いで「マニュアル、説明書等、資料の表示」が12.1%と続いている。

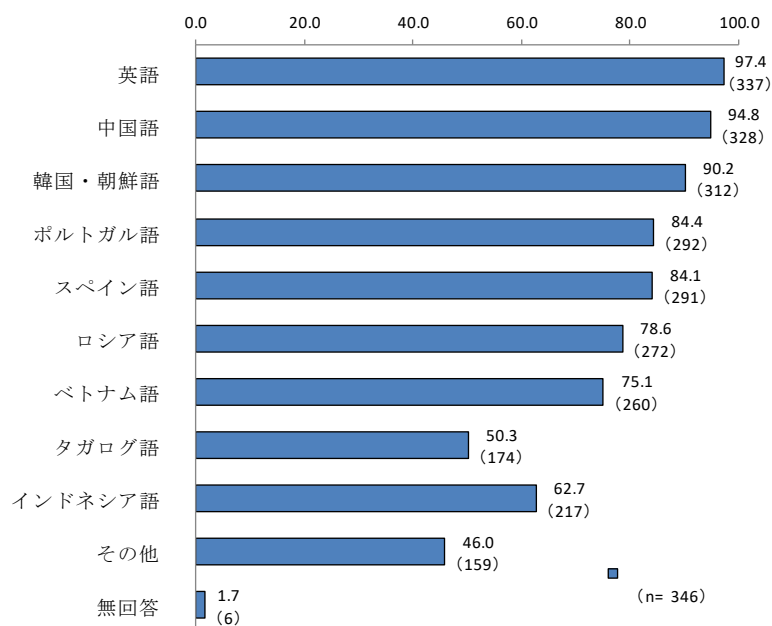
図表 I-2-6-2 タブレット端末等に備わっている機能



(6) - 3 翻訳機能の対応言語 (MA)

翻訳機能の対応言語について聞いたところ、「英語」が97.4%で最も高く、次いで「中国語」が94.8%と続いている。

図表 I-2-6-3 翻訳機能の対応言語



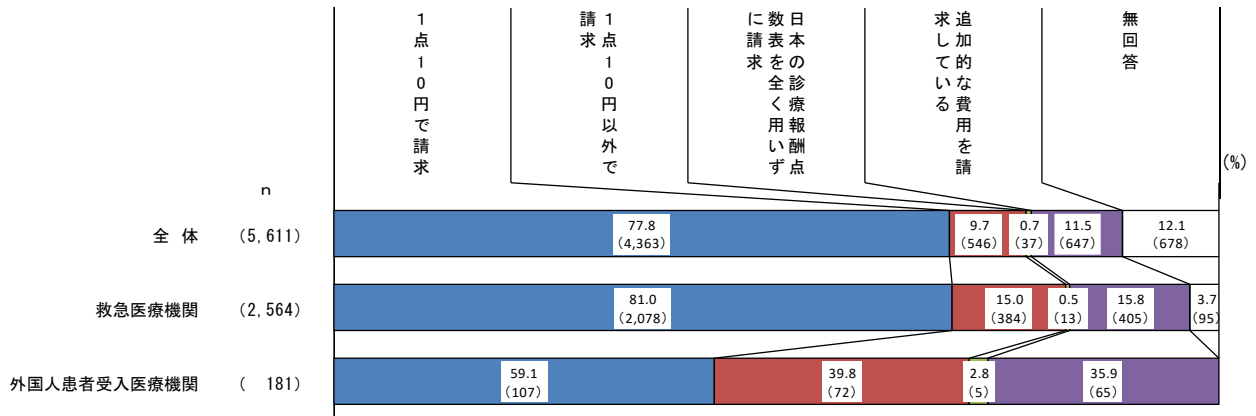
3. 医療費等について

(1) 医療費の請求方法 (SA)

医療費の請求方法について聞いたところ、「1点10円で請求」が77.8%で最も高く、次いで「追加的な費用を請求している」が11.5%と続いている。

病院部門別でみると、救急医療機関では「1点10円で請求」が81.0%で最も高く、次いで「追加的な費用を請求している」が15.8%と続いている。外国人患者受入医療機関では「1点10円で請求」が59.1%で最も高く、次いで「1点10円以外で請求」が39.8%と続いている。

図表 I-3-1 医療費の請求方法

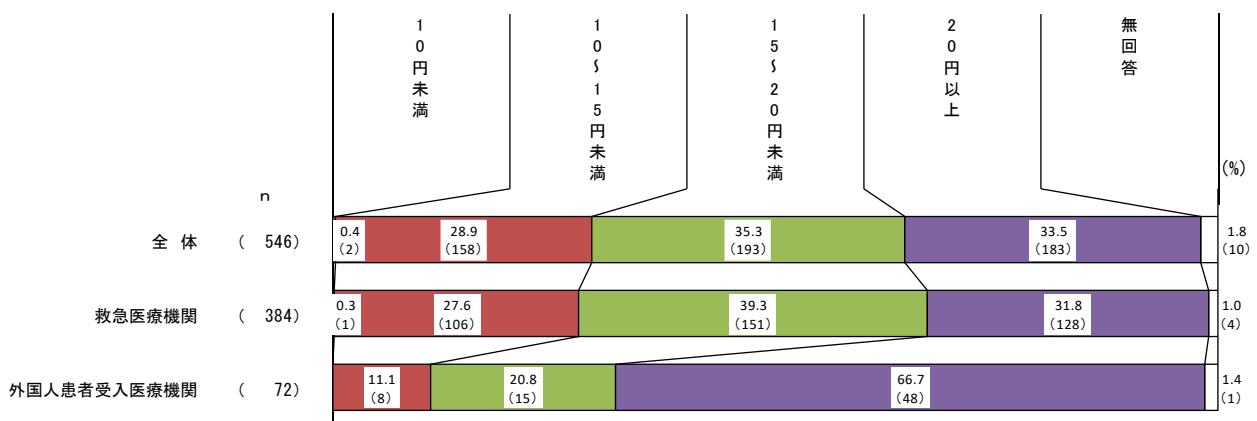


(1) - 1 診療報酬点数「1点」あたりの金額 (FA)

『1点10円以外で請求』と回答した施設に診療報酬点数「1点」あたりの金額について聞いたところ、「15～20円未満」が35.3%で最も高く、次いで「20円以上」が33.5%と続いている。

病院部門別でみると、救急医療機関では「15～20円未満」が39.3%で最も高く、次いで「20円以上」が31.8%と続いている。外国人患者受入医療機関では「20円以上」が66.7%で最も高く、次いで「1点15～20円未満で請求」が20.8%と続いている。

図表 I-3-1-1 診療報酬点数「1点」あたりの金額

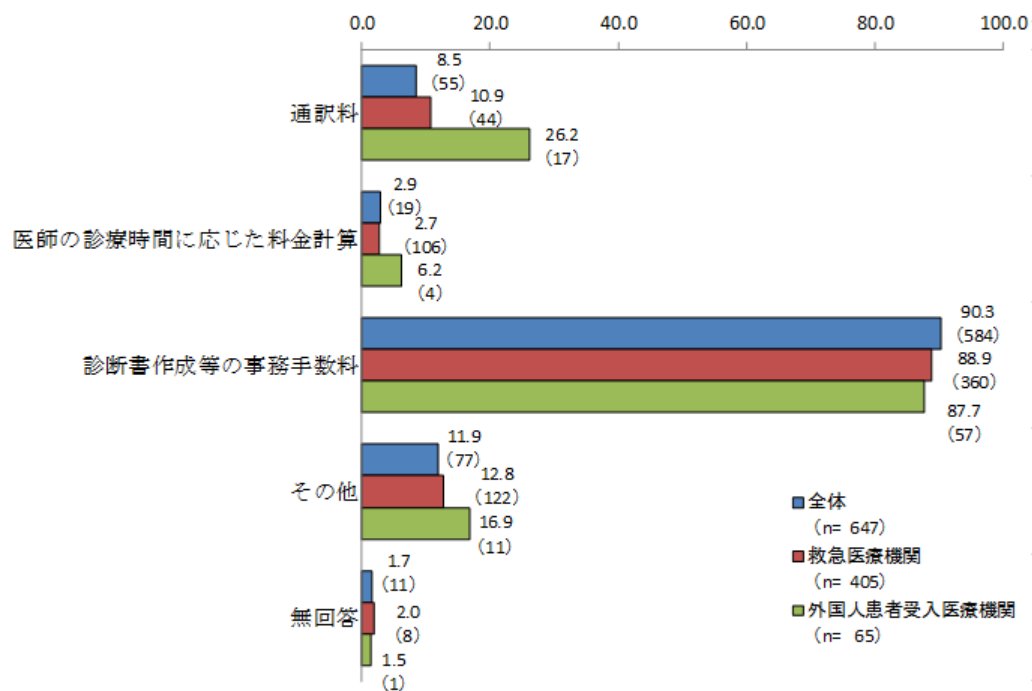


(1) - 2 追加的費用の内容 (MA)

追加的費用の内容について聞いたところ、「診断書作成等の事務手数料」が90.3%で最も高く、次いで「通訳料」が8.5%と続いている。

病院部門別で見ると、救急医療機関では「診断書作成等の事務手数料」が88.9%で最も高く、次いで「通訳料」が10.9%と続いている。外国人患者受入医療機関では「診断書作成等の事務手数料」が87.7%で最も高く、次いで「通訳料」が26.2%と続いている。

図表 I - 3 - 1 - 2 追加的費用の内容



(1) - 3 追加請求の金額 (FA)

通訳料の具体的な金額について回答があったのは、1回あたりの通訳料で14件(25.5%)、10分あたりの通訳料で4件(7.3%)となっており、その平均請求金額はそれぞれ4,648.57円(1回あたり)、2,506.25円(10分あたり)となっている。

病院部門別でみると、救急医療機関では通訳料の具体的な金額について回答があったのは、1回あたりの通訳料で13件(29.5%)、10分あたりの通訳料で4件(9.1%)となっており、その平均請求金額はそれぞれ5,004.62円(1回あたり)、2506.25円(10分あたり)となっている。外国人患者受入医療機関では通訳料の具体的な金額について回答があったのは、1回あたりの通訳料で4件(23.5%)、10分あたりの通訳料で1件(5.9%)となっており、その平均請求金額はそれぞれ9,500.00円(1回あたり)、3,000.00円(10分あたり)となっている。

図表 I-3-1-3 追加請求の金額

1回あたりの通訳料			
	通訳料を 追加請求して いる病院数	金額の 回答有	1回あたりの 通訳料の平均 (円)
全体	55	14	4648.57
	100.0	25.5	
救急医療機関	44	13	5004.62
	100.0	29.5	
外国人患者 受入医療機関	17	4	9500.00
	100.0	23.5	
10分あたりの通訳料			
	通訳料を 追加請求して いる病院数	金額の 回答有	10分あたりの 通訳料の平均 (円)
全体	55	4	2506.25
	100.0	7.3	
救急医療機関	44	4	2506.25
	100.0	9.1	
外国人患者 受入医療機関	17	1	3000.00
	100.0	5.9	

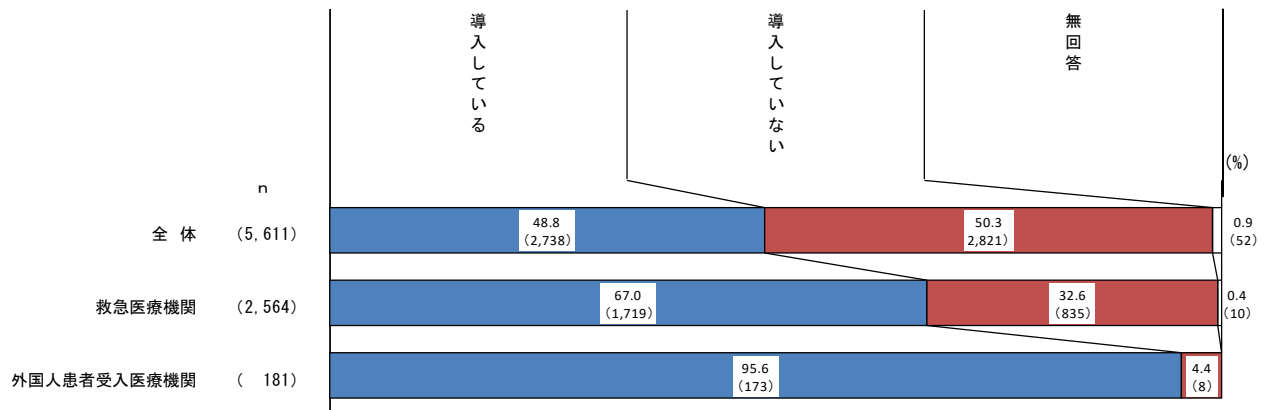
4. キャッシュレス決済について

(1) カード（クレジットカード・デビットカード）を利用した決済の導入状況（SA）

カードを利用した決済の導入状況について聞いたところ、「導入している」が48.8%、「導入していない」が50.3%となっている。

病院部門別でみると、救急医療機関では「導入している」が67.0%「導入していない」が32.6%、外国人患者受入医療機関では「導入している」が95.6%「導入していない」が4.4%となっている。

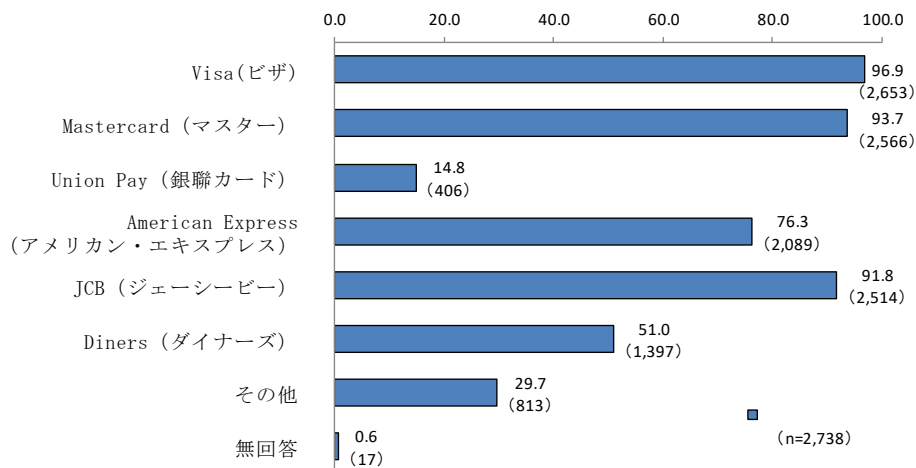
図表 I-4-1 カード（クレジットカード・デビットカード）を利用した決済の導入状況



(1) - 1 導入している対応ブランド（MA）

導入している対応ブランドについて聞いたところ、「Visa（ビザ）」が96.9%で最も高く、次いで「Mastercard（マスター）」が93.7%と続いている。

図表 I-4-1-1 導入している対応ブランド

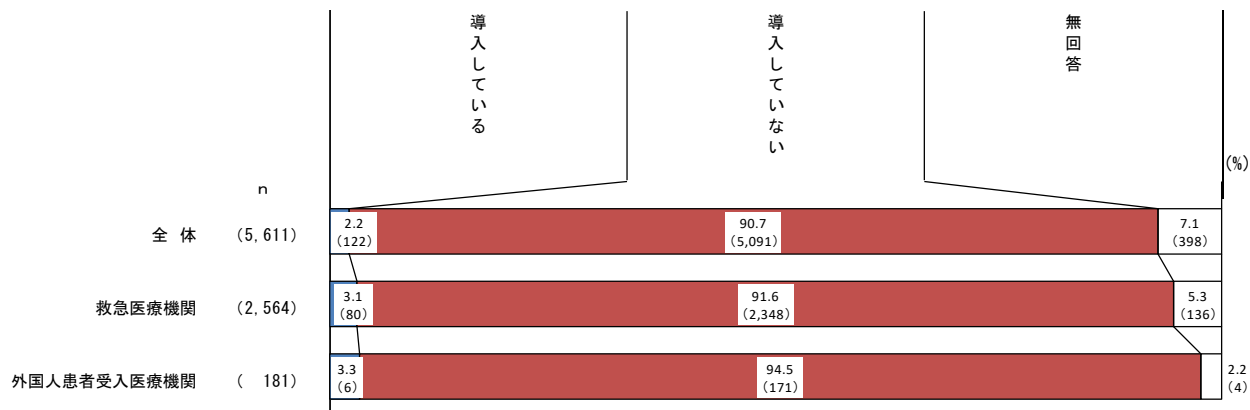


(2) 非接触カードを利用した決済の導入状況 (SA)

非接触カードを利用した決済の導入状況について聞いたところ、「導入している」が2.2%、「導入していない」が90.7%となっている。

病院部門別で見ると、救急医療機関では「導入している」が3.1%「導入していない」が91.6%、外国人患者受入医療機関では「導入している」が3.3%「導入していない」が94.5%となっている。

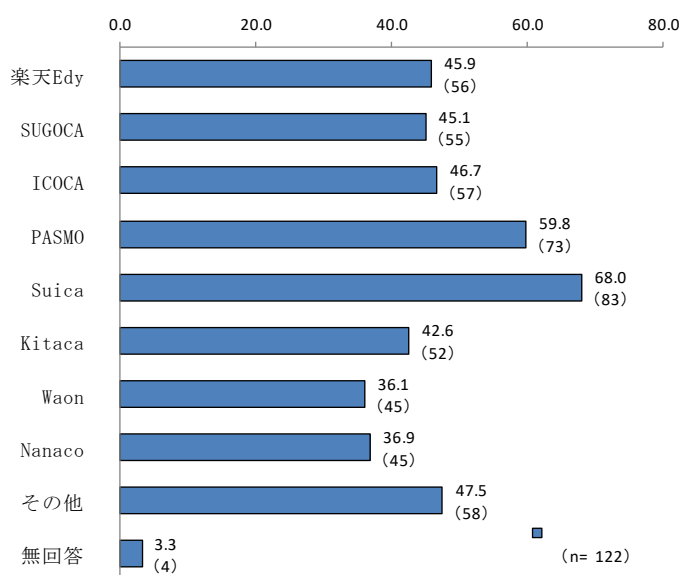
図表 I-4-2 非接触カードを利用した決済の導入状況



(2) - 1 対応している電子マネー (MA)

対応している電子マネーについて聞いたところ、「Suica」が68.0%で最も高く、次いで「PASMO」が59.8%と続いている。

図表 I-4-2-1 対応している電子マネー

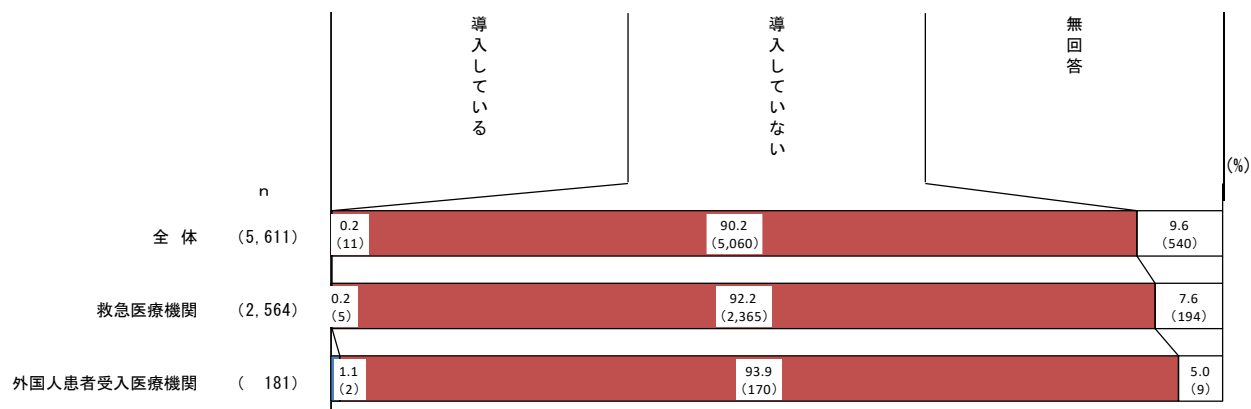


(3) QRコードを利用した決済の導入状況 (SA)

QRコードを利用した決済の導入状況について聞いたところ、「導入している」が0.2%、「導入していない」が90.2%となっている。

病院部門別で見ると、救急医療機関では「導入している」が0.2%「導入していない」が92.2%、外国人患者受入医療機関では「導入している」が1.1%「導入していない」が93.9%となっている。

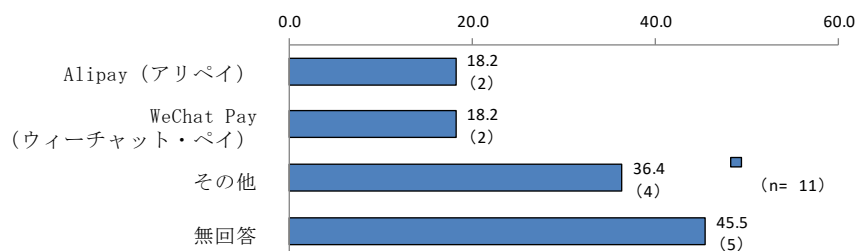
図表 I-4-3 QRコードを利用した決済の導入状況



(3) - 1 対応しているサービス (MA)

対応しているサービスについて聞いたところ、「Alipay (アリペイ)」と「WeChat Pay (ウィーチャットペイ)」がそれぞれ18.2%となっている。

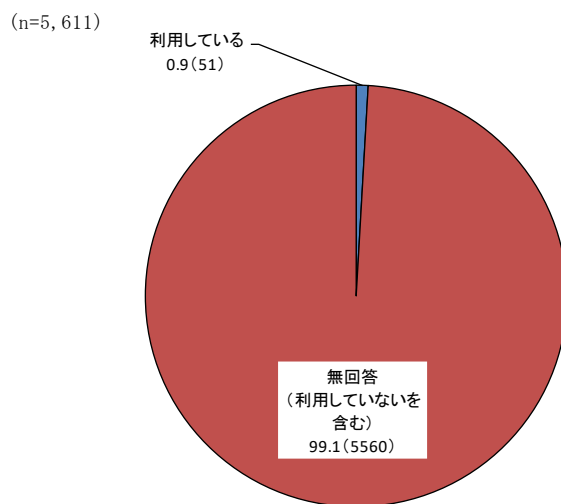
図表 I-4-3-1 対応しているサービス



(4) その他の決済サービスの利用状況 (FA)

その他の決済サービスの利用状況について聞いたところ、「利用している」が0.9%、「無回答（利用していないを含む）」が99.1%となっている。

図表 I-4-4 その他の決済サービスの導入状況



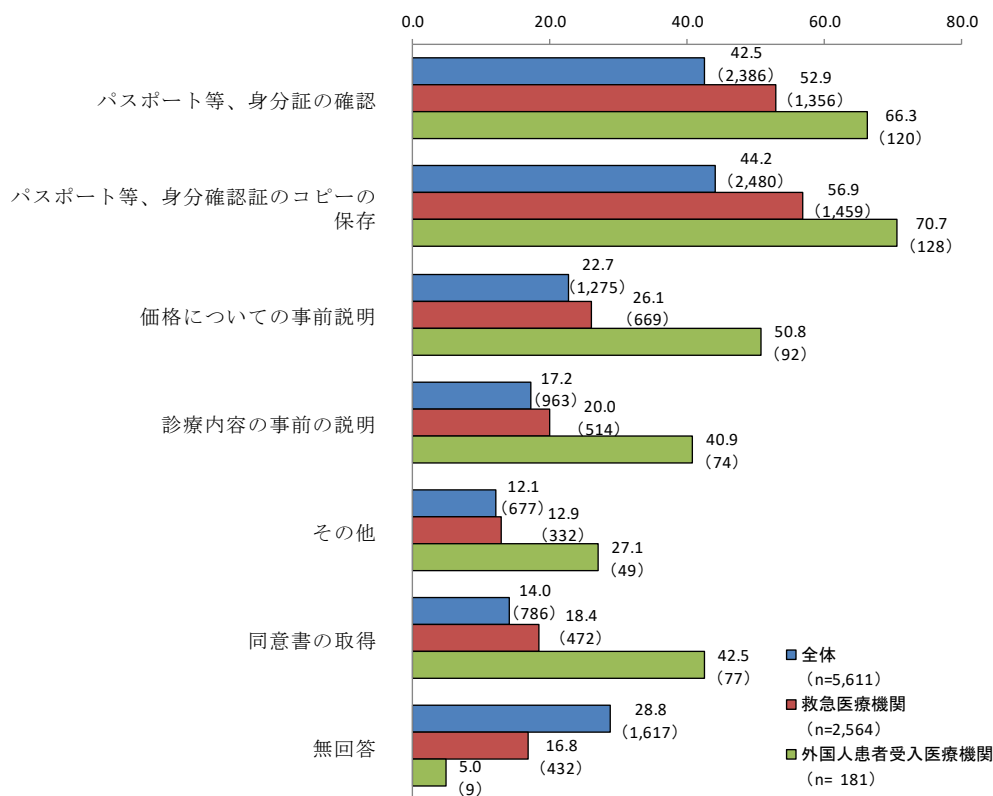
5. 未収金等への対策について

(1) 外国人患者に対して実施している取組 (MA)

外国人患者に対して実施している取組について聞いたところ、「パスポート等、身分証のコピーの保存」が44.2%で最も高く、次いで「パスポート等、身分証の確認」が42.5%と続いている。

病院部門別でみると、救急医療機関では「パスポート等、身分証のコピーの保存」が56.9%で最も高く、次いで「パスポート等、身分証の確認」が52.9%と続いている。外国人患者受入医療機関では「パスポート等、身分証のコピーの保存」が70.7%で最も高く、次いで「パスポート等、身分証の確認」が66.3%と続いている。

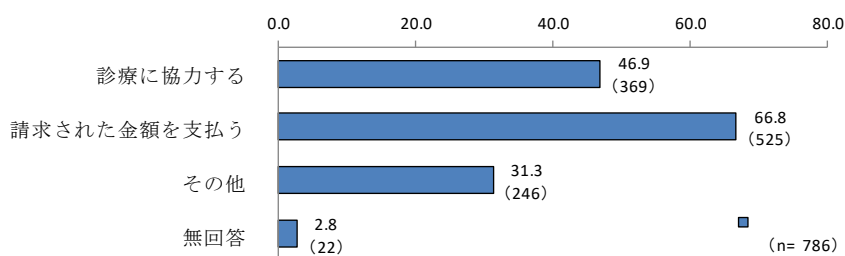
図表 I-5-1 外国人患者に対して実施している取組



(1) - 1 同意書の同意内容 (MA)

外国人患者に『同意書の取得』を実施している施設に同意書の同意内容について聞いたところ、「請求された金額を支払う」が66.8%で最も高く、次いで「診療に協力する」が46.9%と続いている。

図表 I-5-1-1 同意書の同意内容

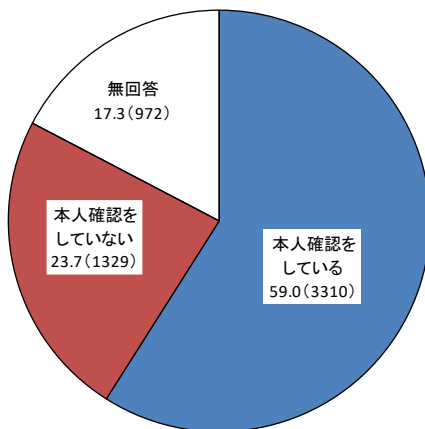


(2) 在留外国人への本人確認実施の有無 (SA)

在留外国人への本人確認実施の有無について聞いたところ、「本人確認をしている」が59.0%、「本人確認をしていない」が23.7%となっている。

図表 I-5-2 在留外国人への本人確認実施の有無

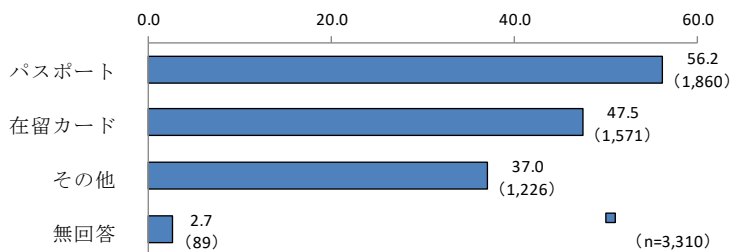
(n=5,611)



(2) - 1 本人確認時に提示を求めているもの (MA)

本人確認時に提示を求めているものについて聞いたところ、「パスポート」が56.2%で最も高く、次いで「在留カード」が47.5%と続いている。

図表 I-5-2-1 本人確認時に提示を求めているもの



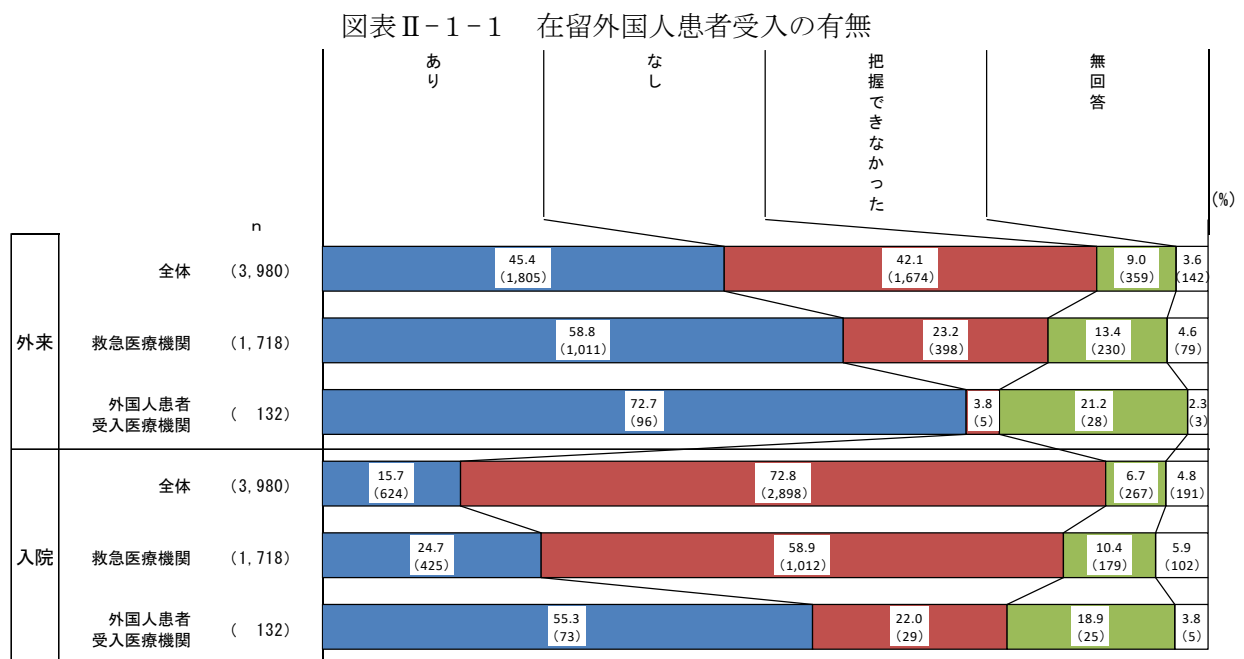
II. 調査票 B 結果

1. 外国人患者の受入実績

(1) 在留外国人患者受入の有無 (SA)

在留外国人患者受入の有無について聞いたところ、『外来』では「あり」が45.4%、「なし」が42.1%、「把握できなかった」が9.0%となっており、『入院』では「あり」が15.7%、「なし」が72.8%、「把握できなかった」が6.7%となっている。

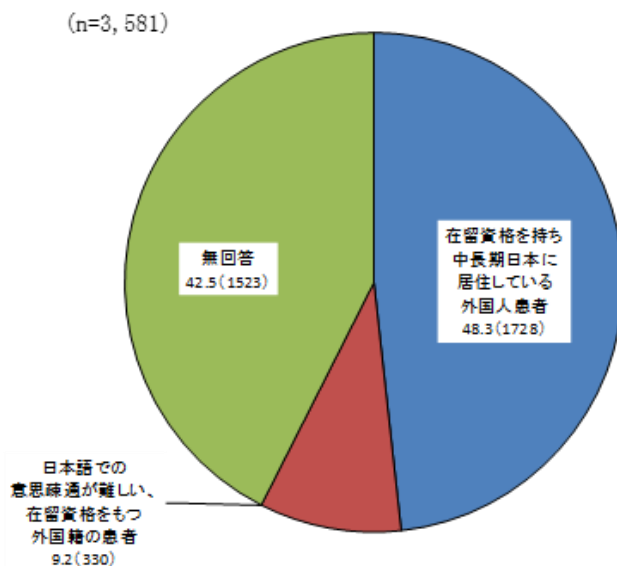
病院部門別でみると、救急医療機関は『外来』では「あり」が58.8%、「なし」が23.2%、「把握できなかった」が13.4%となっており、『入院』では「あり」が24.7%、「なし」が58.9%、「把握できなかった」が10.4%となっている。外国人患者受入医療機関は『外来』では「あり」が72.7%、「なし」が3.8%、「把握できなかった」が21.2%となっており、『入院』では「あり」が55.3%、「なし」が22.0%、「把握できなかった」が18.9%となっている。



(1) - 1 在留外国人患者の把握方法 (SA)

在留外国人患者の把握方法について聞いたところ、「在留資格を持ち中長期日本に居住している外国人患者」が48.3%、「日本語での意思疎通が難しい、在留資格を持つ外国籍の患者」が9.2%となっている。

図表Ⅱ-1-1-1 把握している在留外国人患者



(1) - 2 受け入れた在留外国人患者の延べ人数 (FA)

受け入れた在留外国人患者の延べ人数について回答があったのは、外来で1,656件(91.7%)、入院で564件(90.4%)となっており、延べ人数の総数はそれぞれ54,126人(外来)、20,696人(入院)、1医療機関あたりの患者数はそれぞれ32.68人(外来)、36.70人(入院)となっている。

病院部門別でみると、救急医療機関では受け入れた在留外国人患者の延べ人数について回答があったのは、外来で934件(92.4%)、入院で385件(90.6%)となっており、延べ人数の総数はそれぞれ42,568人(外来)、17,538人(入院)、平均人数はそれぞれ45.58人(外来)、45.55人(入院)となっている。外国人患者受入医療機関では受け入れた在留外国人患者の延べ人数について回答があったのは、外来で90件(93.8%)、入院で69件(94.5%)となっており、延べ人数はそれぞれ14,353人(外来)、2,774人(入院)、1医療機関あたりの患者数はそれぞれ159.48人(外来)、40.20人(入院)となっている。

図表Ⅱ-1-1-2 受け入れた在留外国人患者の延べ人数

外来					
	回答者全体	有効回答 機関数	無回答	受入患者総数 (人)	1医療機関 あたりの 患者数(人)
全体	1805	1656	149	54,126	32.68
	100.0	91.7	8.3		
救急医療機関	1011	934	77	42,568	45.58
	100.0	92.4	7.6		
外国人患者 受入医療機関	96	90	6	14,353	159.48
	100.0	93.8	6.3		
入院					
	回答者全体	有効回答 機関数	無回答	受入患者総数 (人)	1医療機関 あたりの 患者数(人)
全体	624	564	60	20,696	36.70
	100.0	90.4	9.6		
救急医療機関	425	385	40	17,538	45.55
	100.0	90.6	9.4		
外国人患者 受入医療機関	73	69	4	2,774	40.20
	100.0	94.5	5.5		

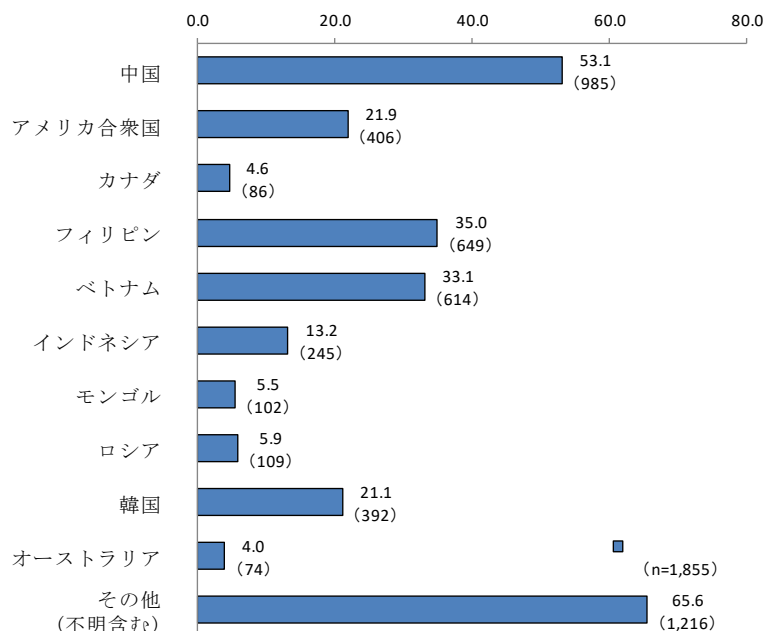
※表中の「1医療機関あたりの患者数」は、「受入患者総数」を「有効回答期間数」割って算出している。

(1) - 3 受け入れた在留外国人患者の国籍 (MA)

受け入れた在留外国人患者の国籍について聞いたところ、「中国」が53.1%で最も高く、次いで「フィリピン」が35.0%と続いている。

また、国籍別在留外国人患者の総数については、下表の通りとなっている。

図表Ⅱ-1-1-3 受け入れた在留外国人患者の国籍



図表Ⅱ-1-1-3-1 国籍別在留外国人患者の総数

	中国	アメリカ合衆国	カナダ	フィリピン	ベトナム	インドネシア	モンゴル	ロシア	韓国	オーストラリア	その他 (不明含む)
総数 (人)	10,414	1,641	160	4,076	2,684	566	211	268	2,206	147	19,848
平均 (人)	10.57	4.04	1.86	6.28	4.37	2.31	2.07	2.46	5.63	1.99	21.4

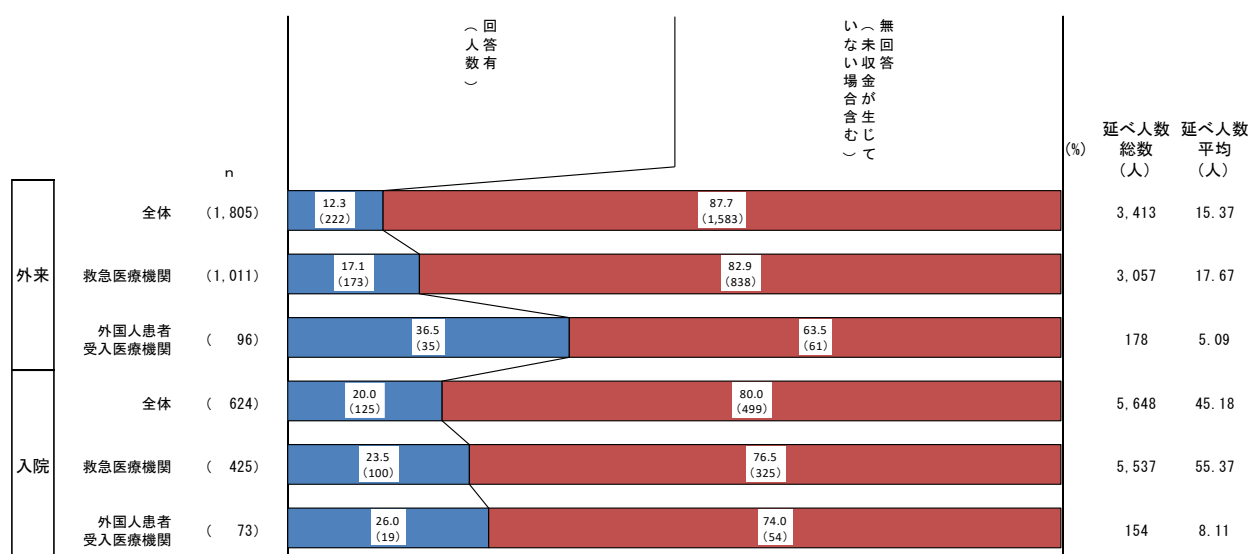
※表中の「総数」は各国籍で回答のあった人数の合計、「平均」は「総数」を各国籍に回答した施設数で割って算出している。

(1) - 4 未収金を生じた在留外国人患者 (FA)

未収金を生じた在留外国人患者数について回答があったのは、外来で 12.3%、入院で 20.0%となっており、延べ人数はそれぞれ 3,413 人 (外来)、5,648 人 (入院)、平均人数はそれぞれ 15.37 人 (外来)、45.18 人 (入院) となっている。

病院部門別でみると、救急医療機関では未収金を生じた在留外国人患者数について回答があったのは、外来で 17.1%、入院で 23.5%となっており、延べ人数はそれぞれ 3,057 人 (外来)、5,648 人 (入院)、平均人数はそれぞれ 17.67 人 (外来)、55.37 人 (入院) となっている。外国人患者受入医療機関では未収金を生じた在留外国人患者数について回答があったのは、外来で 36.5%、入院で 26.0%となっており、延べ人数はそれぞれ 178 人 (外来)、154 人 (入院)、平均人数はそれぞれ 5.09 人 (外来)、8.11 人 (入院) となっている。

図表Ⅱ-1-1-4-1 未収金を生じた在留外国人患者 (人数)

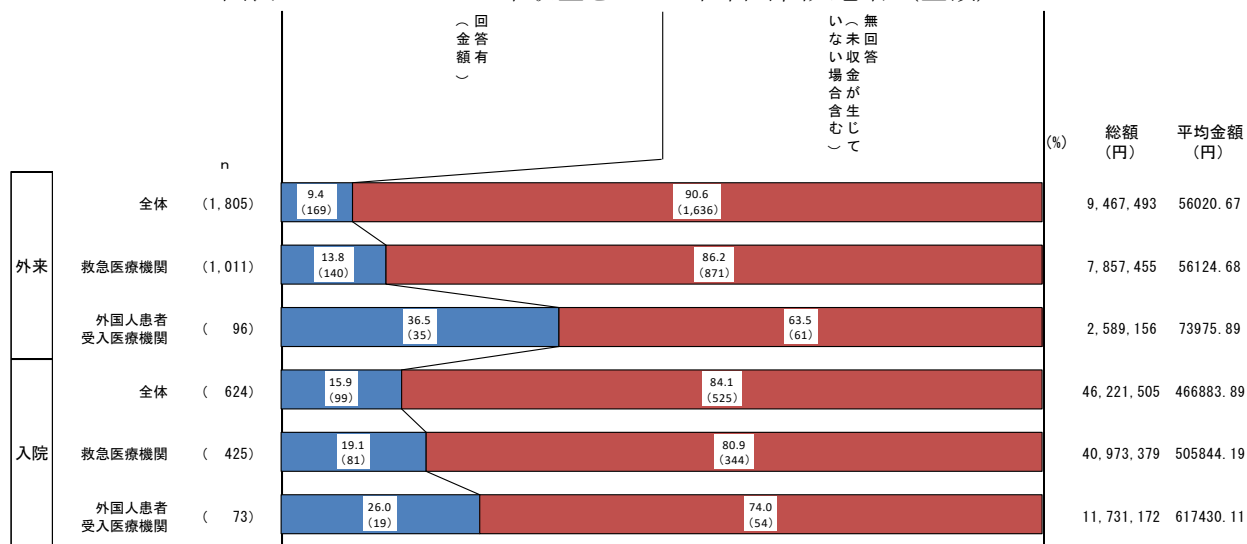


※表中の「延べ人数平均」は、「延べ人数総数」を「回答有」の機関数で割って算出している。

未収金の合計金額について回答があったのは、外来で9.4%、入院で15.9%となっており、総額はそれぞれ9,467,493円（外来）、46,221,505円（入院）、平均金額はそれぞれ56,020.67円（外来）、466,883.89円（入院）となっている。

病院部門別でみると、救急医療機関では未収金の合計金額について回答があったのは、外来で13.8%、入院で19.1%となっており、総額はそれぞれ7,857,455円（外来）、40,973,379円（入院）、平均金額はそれぞれ56,124.68円（外来）、505,844.19円（入院）となっている。外国人患者受入医療機関では未収金の合計金額について回答があったのは、外来で36.5%、入院で26.0%となっており、総額はそれぞれ2,589,156円（外来）、11,731,172円（入院）、平均金額はそれぞれ73,975.89円（外来）、617,430.11円（入院）となっている。

図表Ⅱ-1-1-4-2 未収金を生じた在留外国人患者（金額）



※表中の「平均金額」は、機関数で割って算出している。

(1) - 5 公的医療保険利用の有無（在留外国人）(FA)

在留外国人患者の公的医療保険利用の有無について聞いたところ、外来では「あり」と回答があった施設数は1,546件で、人数の総数が29,822人、平均が19.29人、「なし」と回答があった施設数は516件で、人数の総数が3,811人、平均が7.39人となっている。

また、入院では「あり」と回答があった施設数は475件で、人数の総数が3,220人、平均が6.78人、「なし」と回答があった施設数は101件で、人数の総数が298人、平均が2.95人となっている。

図表Ⅱ-1-1-5 公的医療保険利用の有無（在留外国人）

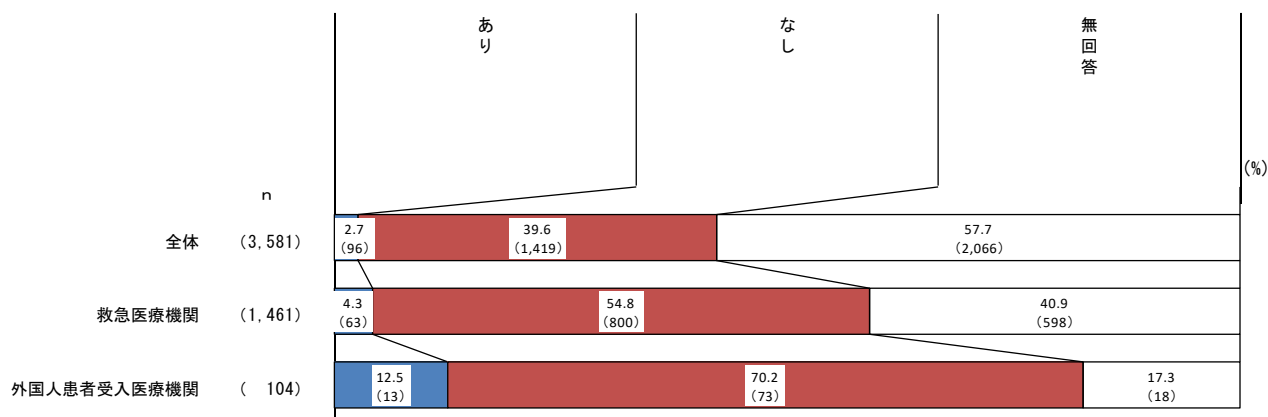
	外来			入院			
	施設数 (件)	総数 (人)	平均 (人)	施設数 (件)	総数 (人)	平均 (人)	
あり	1,546	29,822	19.29	あり	475	3,220	6.78
なし	516	3,811	7.39	なし	101	298	2.95

(1) - 6 民間医療保険利用の有無（在留外国人）(SA)

在留外国人患者の民間医療保険利用の有無について聞いたところ、「あり」が2.7%、「なし」が39.6%となっている。

病院部門別で見ると、救急医療機関では「あり」が4.3%、「なし」が54.8%となっている。また、外国人患者受入医療機関では「あり」が12.5%、「なし」が70.2%となっている。

図表Ⅱ-1-1-6 民間医療保険利用の有無（在留外国人）

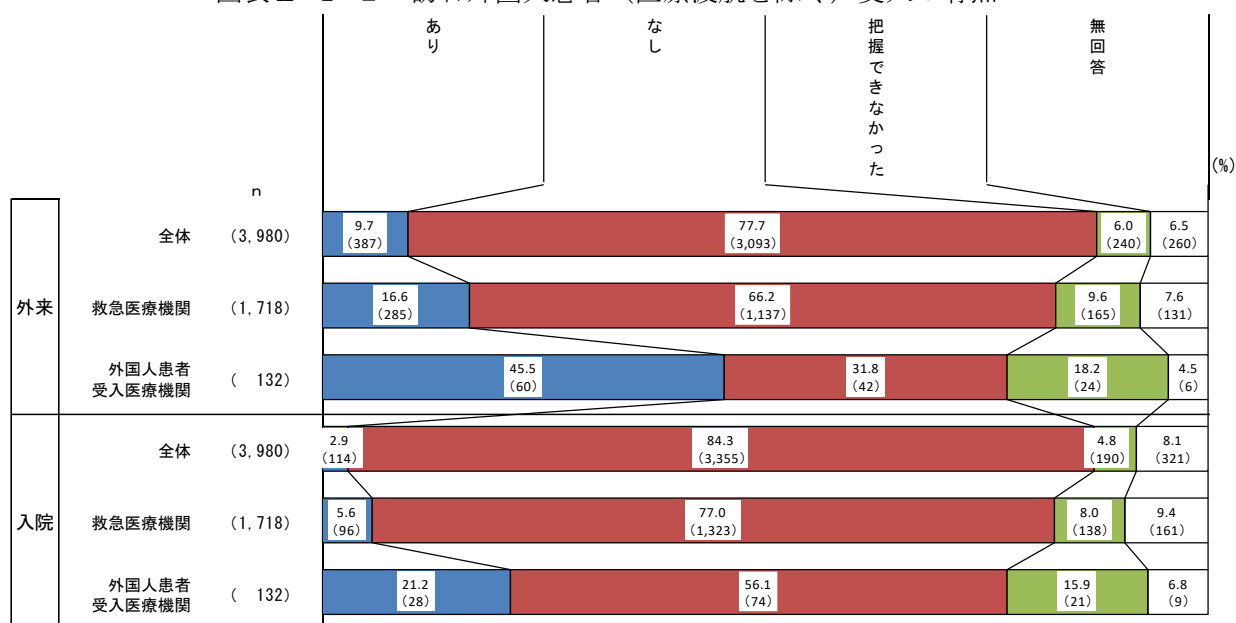


(2) 訪日外国人患者（医療渡航を除く）受入の有無（SA）

訪日外国人患者（医療渡航を除く）受入の有無について聞いたところ、『外来』では「あり」が9.7%、「なし」が77.7%、「把握できなかった」が6.0%となっており、『入院』では「あり」が2.9%、「なし」が84.3%、「把握できなかった」が4.8%となっている。

病院部門別でみると、救急医療機関は『外来』では「あり」が16.6%、「なし」が66.2%、「把握できなかった」が9.6%となっており、『入院』では「あり」が5.6%、「なし」が77.0%、「把握できなかった」が8.0%となっている。外国人患者受入医療機関は『外来』では「あり」が45.5%、「なし」が31.8%、「把握できなかった」が18.2%となっており、『入院』では「あり」が21.2%、「なし」が56.1%、「把握できなかった」が15.9%となっている。

図表Ⅱ-1-2 訪日外国人患者（医療渡航を除く）受入の有無



(2) - 1 受け入れた訪日外国人患者（医療渡航を除く）の延べ人数（FA）

受け入れた訪日外国人患者（医療渡航を除く）の延べ人数について回答があったのは、外来で 359 件（92.8%）、入院で 104 件（91.2%）となっており、延べ人数の総数はそれぞれ 2,063 人（外来）、634 人（入院）、1 医療機関あたりの患者数はそれぞれ 5.75 人（外来）、6.10 人（入院）となっている。

病院部門別でみると、救急医療機関では受け入れた訪日外国人患者（医療渡航を除く）の延べ人数について回答があったのは、外来で 265 件（93.0%）、入院で 87 件（90.6%）となっており、延べ人数の総数それぞれ 1,772 人（外来）、593 人（入院）、1 医療機関あたりの患者数はそれぞれ 6.69 人（外来）、6.82 人（入院）となっている。外国人患者受入医療機関では受け入れた訪日外国人患者（医療渡航を除く）について回答があったのは、外来で 57 件（95.0%）、入院で 26 件（92.9%）となっており、延べ人数の総数それぞれ 703 人（外来）、279 人（入院）、1 医療機関あたりの患者数はそれぞれ 12.33 人（外来）、10.73 人（入院）となっている。

図表Ⅱ-1-2-1 受け入れた訪日外国人患者（医療渡航を除く）の延べ人数

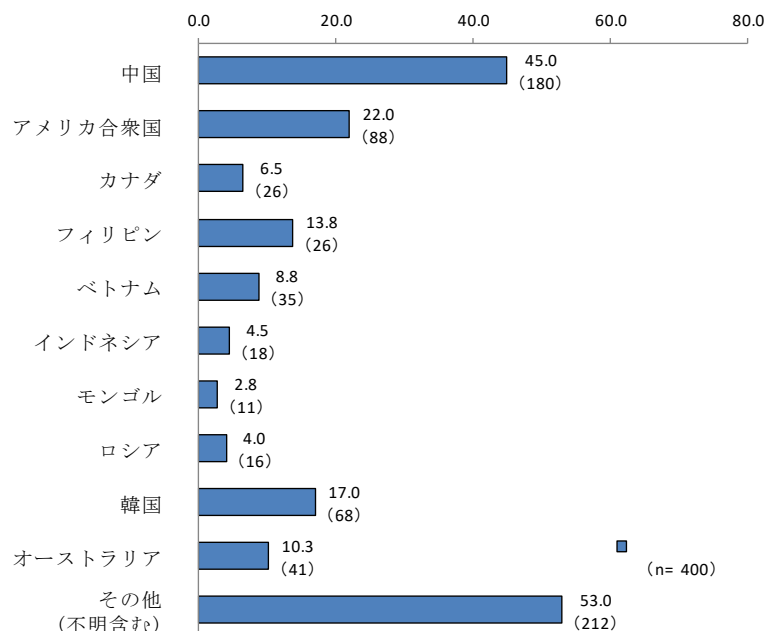
外来					
	回答者全体	有効回答 機関数	無回答	受入患者総数 (人)	1 医療機関 あたりの 患者数 (人)
全体	387	359	28	2,063	5.75
	100.0	92.8	7.2		
救急医療機関	285	265	20	1,772	6.69
	100.0	93.0	7.0		
外国人患者 受入医療機関	60	57	3	703	12.33
	100.0	95.0	5.0		
入院					
	回答者全体	有効回答 機関数	無回答	受入患者総数 (人)	1 医療機関 あたりの 患者数 (人)
全体	114	104	10	634	6.10
	100.0	91.2	8.8		
救急医療機関	96	87	9	593	6.82
	100.0	90.6	9.4		
外国人患者 受入医療機関	28	26	2	279	10.73
	100.0	92.9	7.1		

(2) - 2 受け入れた訪日外国人患者（医療渡航を除く）の国籍（MA）

受け入れた訪日外国人患者（医療渡航を除く）の国籍について聞いたところ、「中国」が45.0%で最も高く、次いで「アメリカ合衆国」が22.0%と続いている。

また、国籍別訪日外国人患者（医療渡航を除く）の総数については、下表の通りとなっている。

図表Ⅱ-1-2-2 受け入れた訪日外国人患者（医療渡航を除く）の国籍



図表Ⅱ-1-1-3-1 国籍別在留外国人患者の総数

	中国	アメリカ合衆国	カナダ	フィリピン	ベトナム	インドネシア	モンゴル	ロシア	韓国	オーストラリア	その他 (不明含む)
総数 (人)	759	200	33	105	127	20	16	35	124	72	810
平均 (人)	4.22	2.27	1.27	1.91	3.63	1.11	1.45	2.19	1.82	1.76	4.26

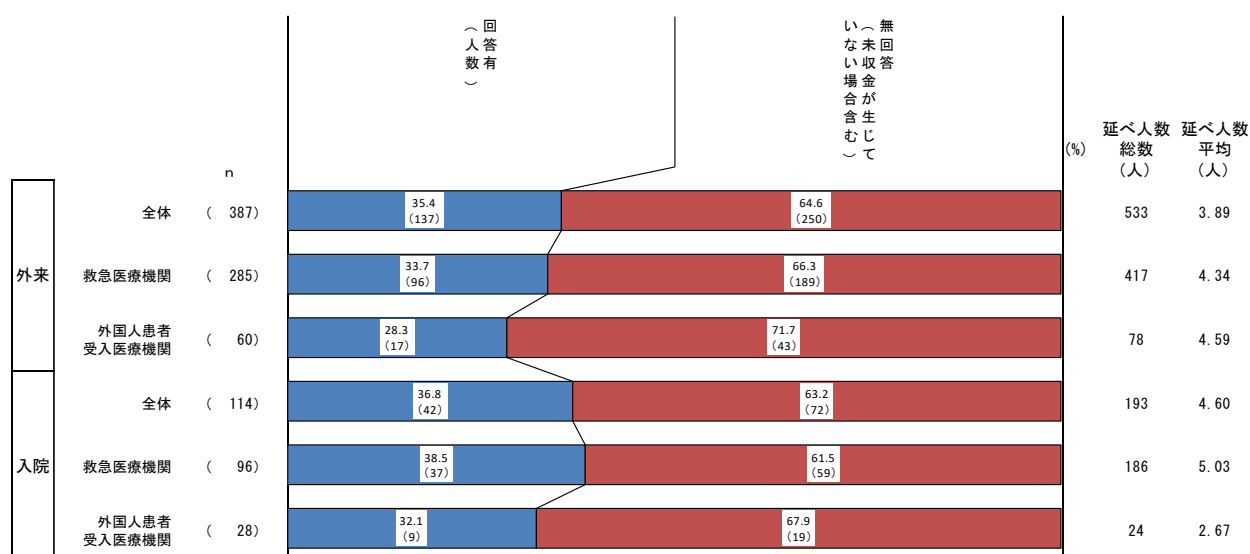
※表中の「総数」は各国籍で回答のあった人数の合計、「平均」は「総数」を各国籍に回答した施設数で割って算出している。

(2) - 3 未収金を生じた訪日外国人患者（医療渡航を除く）(FA)

未収金を生じた訪日外国人患者（医療渡航を除く）数について回答があったのは、外来で35.4%、入院で36.8%となっており、延べ人数はそれぞれ533人（外来）、193人（入院）、平均人数はそれぞれ3.89人（外来）、4.60人（入院）となっている。

病院部門別でみると、救急医療機関では未収金を生じた訪日外国人患者（医療渡航を除く）数について回答があったのは、外来で33.7%、入院で38.5%となっており、延べ人数はそれぞれ417人（外来）、186人（入院）、平均人数はそれぞれ4.34人（外来）、5.03人（入院）となっている。外国人患者受入医療機関では未収金を生じた訪日外国人患者（医療渡航を除く）数について回答があったのは、外来で28.3%、入院で32.1%となっており、延べ人数はそれぞれ78人（外来）、24人（入院）、平均人数はそれぞれ4.59人（外来）、2.67人（入院）となっている。

図表Ⅱ-1-2-3-1 未収金を生じた訪日外国人患者（医療渡航を除く）（人数）

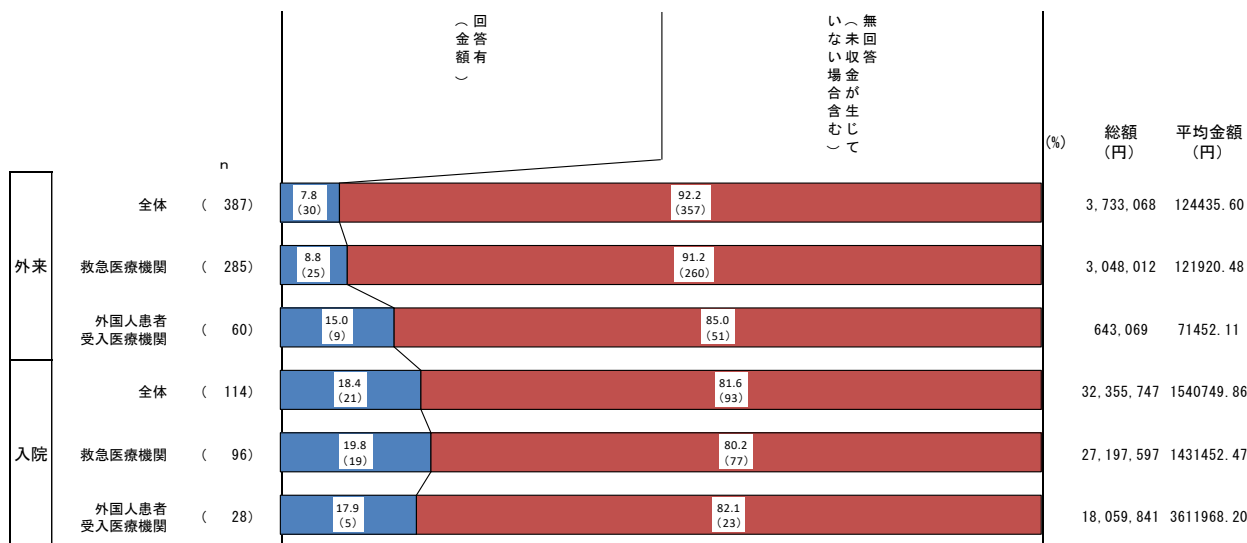


※表中の「延べ人数平均」は、「延べ人数総数」を「回答有」の機関数で割って算出している。

未収金の合計金額について回答があったのは、外来で7.8%、入院で18.4%となっており、総額はそれぞれ3,733,068円（外来）、32,355,747円（入院）、平均金額はそれぞれ124,435.60円（外来）、1,540,749.86円（入院）となっている。

病院部門別でみると、救急医療機関では未収金の合計金額について回答があったのは、外来で8.8%、入院で19.8%となっており、総額はそれぞれ3,048,012円（外来）、27,197,597円（入院）、平均金額はそれぞれ121,920.48円（外来）、1,431,452.47円（入院）となっている。外国人患者受入医療機関では未収金の合計金額について回答があったのは、外来で15.0%、入院で17.9%となっており、総額はそれぞれ643,069円（外来）、18,059,841円（入院）、平均金額はそれぞれ71,452.11円（外来）、3,611,968.20円（入院）となっている。

図表Ⅱ-1-2-3-2 未収金を生じた訪日外国人患者（医療渡航を除く）（金額）



※表中

の「平均金額」は、機関数で割って算出している。

(2) - 4 公的医療保険利用の有無（訪日外国人患者（医療渡航を除く））(FA)

訪日外国人患者（医療渡航を除く）の公的医療保険利用の有無について聞いたところ、外来では「あり」と回答があった施設数は42件で、人数の総数が278人、平均が6.62人、「なし」と回答があった施設数は321件で、人数の総数が1,597人、平均が4.99人となっている。

また、入院では「あり」と回答があった施設数は13件で、人数の総数が53人、平均が4.08人、「なし」と回答があった施設数は85件で、人数の総数が299人、平均が3.52人となっている。

図表Ⅱ-1-2-4 公的医療保険利用の有無（訪日外国人患者（医療渡航を除く））

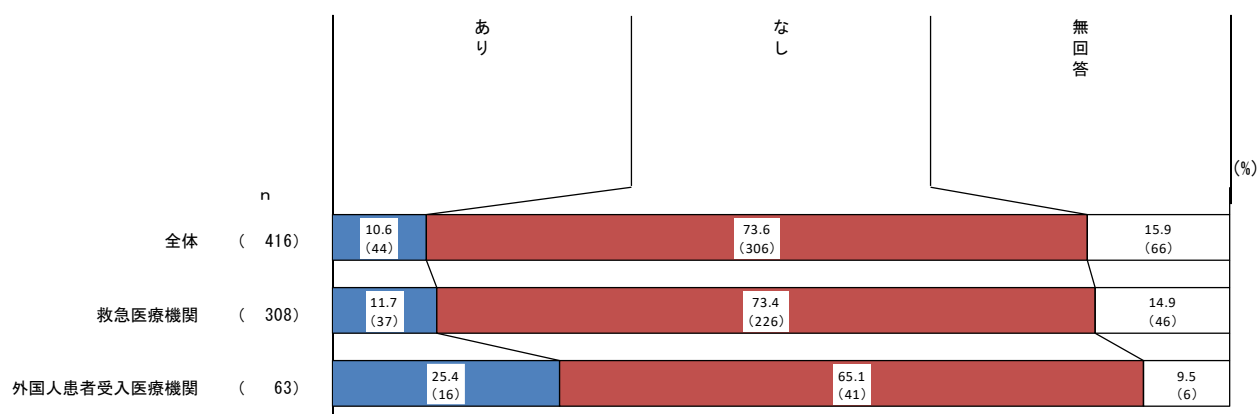
	外来			入院			
	施設数 (件)	総数 (人)	平均 (人)	施設数 (件)	総数 (人)	平均 (人)	
あり	42	278	6.62	あり	13	53	4.08
なし	321	1,597	4.99	なし	85	299	3.52

(2) - 5 民間医療保険利用の有無（訪日外国人患者（医療渡航を除く））(SA)

訪日外国人患者（医療渡航を除く）の民間医療保険利用の有無について聞いたところ、「あり」が10.6%、「なし」が73.6%となっている。

病院部門別でみると、救急医療機関では「あり」が11.7%、「なし」が73.4%となっている。また、外国人患者受入医療機関では「あり」が25.4%、「なし」が65.1%となっている。

図表Ⅱ-1-2-5 民間医療保険利用の有無（訪日外国人患者（医療渡航を除く））

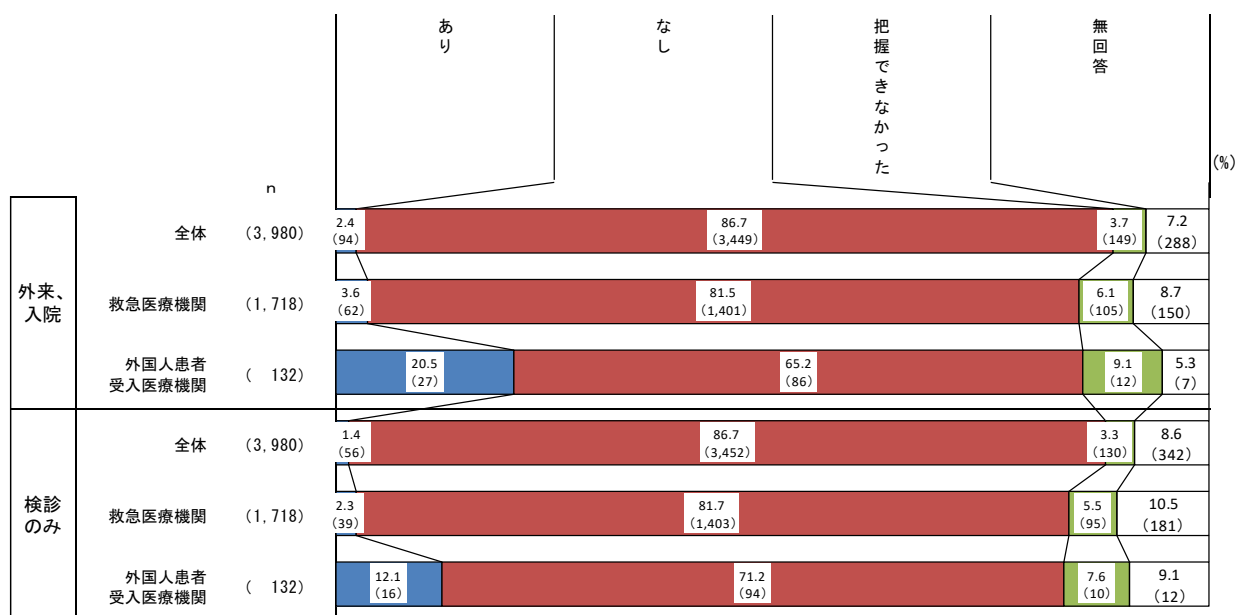


(3) 訪日外国人患者（医療目的）受入の有無（SA）

訪日外国人患者（医療目的）受入の有無について聞いたところ、『外来、入院』では「あり」が2.4%、「なし」が86.7%、「把握できなかった」が3.7%となっており、『検診のみ』では「あり」が1.4%、「なし」が86.7%、「把握できなかった」が3.3%となっている。

病院部門別でみると、救急医療機関は『外来、入院』では「あり」が3.6%、「なし」が81.5%、「把握できなかった」が6.1%となっており、『検診のみ』では「あり」が2.3%、「なし」が81.7%、「把握できなかった」が5.5%となっている。外国人患者受入医療機関は『外来、入院』では「あり」が20.5%、「なし」が65.2%、「把握できなかった」が9.1%となっており、『検診のみ』では「あり」が12.1%、「なし」が71.2%、「把握できなかった」が7.6%となっている。

図表Ⅱ-1-3 訪日外国人患者（医療目的）受入の有無



(3) - 1 受け入れた訪日外国人患者（医療目的）の延べ人数（FA）

受け入れた訪日外国人患者（医療目的）の延べ人数について回答があったのは、外来、入院で 88 件（93.6%）、検診のみで 52 件（92.9%）となっており、延べ人数の総数はそれぞれ 1,160 人（外来、入院）、3,197 人（検診のみ）、1 医療機関あたりの患者数はそれぞれ 13.18 人（外来、入院）、61.48 人（検診のみ）となっている。

病院部門別でみると、救急医療機関では受け入れた訪日外国人患者（医療目的）の延べ人数について回答があったのは、外来、入院で 60 件（96.8%）、検診のみで 37 件（94.9%）となっており、延べ人数の総数はそれぞれ 703 人（外来、入院）、489 人（検診のみ）、1 医療機関あたりの患者数はそれぞれ 11.72 人（外来、入院）、13.22 人（検診のみ）となっている。外国人患者受入医療機関では受け入れた訪日外国人患者（医療目的）の延べ人数について回答があったのは、外来、入院で 27 件（100.0%）、検診のみで 16 件（100.0%）となっており、延べ人数の総数はそれぞれ 790 人（外来、入院）、475 人（検診のみ）、1 医療機関あたりの患者数はそれぞれ 29.26 人（外来、入院）、29.69 人（検診のみ）となっている。

図表Ⅱ-1-3-1 受け入れた訪日外国人患者（医療目的）の延べ人数

外来、入院					
	回答者全体	有効回答 機関数	無回答	受入患者総数 (人)	1 医療機関 あたりの 患者数 (人)
全体	94	88	6	1,160	13.18
	100.0	93.6	6.4		
救急医療機関	62	60	2	703	11.72
	100.0	96.8	3.2		
外国人患者 受入医療機関	27	27	0	790	29.26
	100.0	100.0	0.0		
検診のみ					
	回答者全体	有効回答 機関数	無回答	受入患者総数 (人)	1 医療機関 あたりの 患者数 (人)
全体	56	52	4	3,197	61.48
	100.0	92.9	7.1		
救急医療機関	39	37	2	489	13.22
	100.0	94.9	5.1		
外国人患者 受入医療機関	16	16	0	475	29.69
	100.0	100.0	0.0		

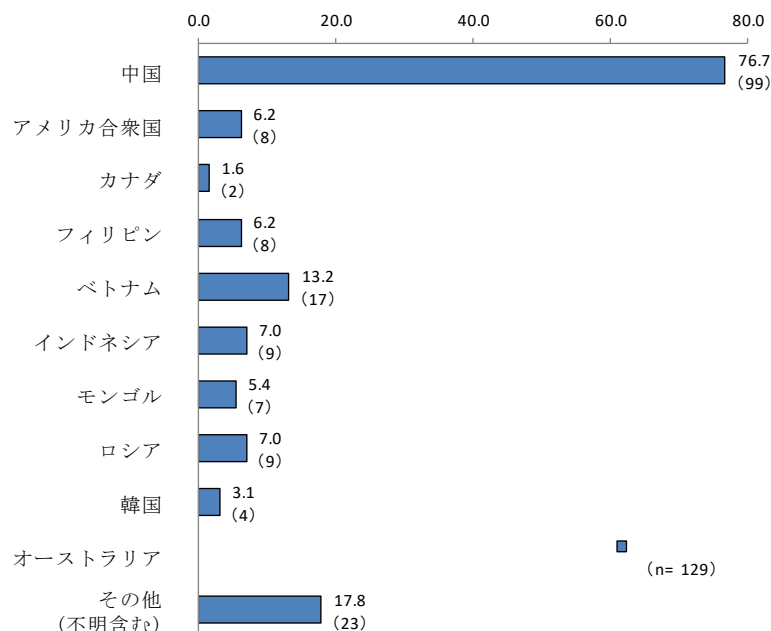
※表中の「1 医療機関あたりの患者数」は、「受入患者総数」を「有効回答期間数」割って算出している。

(3) - 2 受け入れた訪日外国人患者（医療目的）の国籍（MA）

受け入れた在留外国人患者の国籍について聞いたところ、「中国」が76.7%で最も高く、次いで「ベトナム」が13.2%と続いている。

また、国籍別在留外国人患者の総数については、下表の通りとなっている。

図表Ⅱ-1-3-2 受け入れた訪日外国人患者（医療目的）の国籍



図表Ⅱ-1-1-3-1 国籍別在留外国人患者の総数

	中国	アメリカ合衆国	カナダ	フィリピン	ベトナム	インドネシア	モンゴル	ロシア	韓国	オーストラリア	その他 (不明含む)
総数 (人)	1,185	19	2	23	113	17	7	24	17	0	141
平均 (人)	11.97	2.38	1.00	2.88	6.65	1.89	1.00	2.67	4.25	0.00	6.13

※表中の「総数」は各国籍で回答のあった人数の合計、「平均」は「総数」を各国籍に回答した施設数で割って算出している。

(3) - 3 受け入れた訪日外国人患者（医療目的）の ICD 分類（FA）

受け入れた訪日外国人患者（医療目的）の ICD 分類の総数及び平均については、下表の通りとなっている。

図表 II-1-3-3 受け入れた訪日外国人患者（医療目的）の ICD 分類

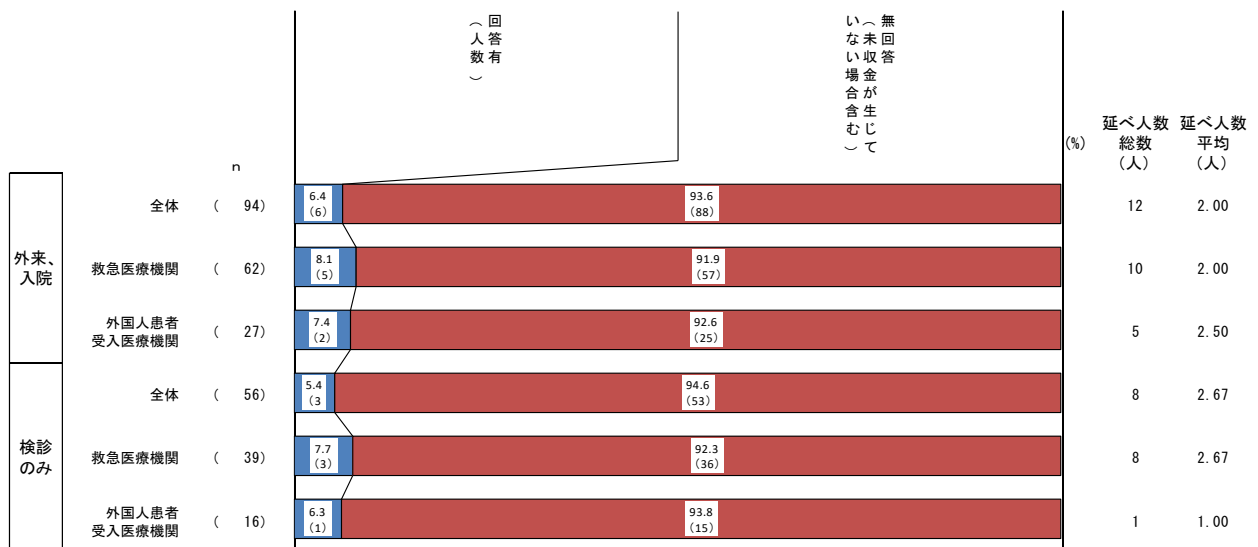
	回答 機関数 (件)	総数 (人)	平均 (人)
悪性新生物 (C00-C97)	43	121	2.81
呼吸器系疾患 (J00-J99)	8	11	1.38
筋骨格系及び 結合組織疾患 (M00-M94)	10	17	1.70
循環器系疾患 (I00-I99)	13	44	3.38
妊娠、分娩及び産褥 (O00-O99)	3	3	1.00
消化器系疾患 (K00-K94)	18	102	5.67
眼及び付属器の疾患、 耳及び乳突突起の疾患 (H00-H95)	5	10	2.00
腎尿路生殖器系疾患 (N00-N99)	7	16	2.29
損傷、中毒及びその他の 外因の影響 (S00-T98)	5	5	1.00
血液及び造血器の疾患 並びに免疫機構の障害 (D50-D89)	7	10	1.43
その他 (不明含む)	25	77	3.08

(3) - 4 未収金を生じた訪日外国人患者（医療目的）（FA）

未収金を生じた訪日外国人患者（医療目的）数について回答があったのは、外来、入院で6.4%、検診のみで5.4%となっており、延べ人数はそれぞれ12人（外来、入院）、8人（検診のみ）、平均人数はそれぞれ2.00人（外来、入院）、2.67人（検診のみ）となっている。

病院部門別でみると、救急医療機関では未収金を生じた訪日外国人患者（医療目的）数について回答があったのは、外来、入院で8.1%、検診のみで7.7%となっており、延べ人数はそれぞれ10人（外来、入院）、8人（検診のみ）、平均人数はそれぞれ2.00人（外来、入院）、2.67人（検診のみ）となっている。外国人患者受入医療機関では未収金を生じた訪日外国人患者（医療目的）数について回答があったのは、外来、入院で7.4%、検診のみで6.3%となっており、延べ人数はそれぞれ5人（外来、入院）、1人（検診のみ）、平均人数はそれぞれ2.50人（外来、入院）、1.00人（検診のみ）となっている。

図表Ⅱ-1-3-4 未収金を生じた訪日外国人患者（医療目的）

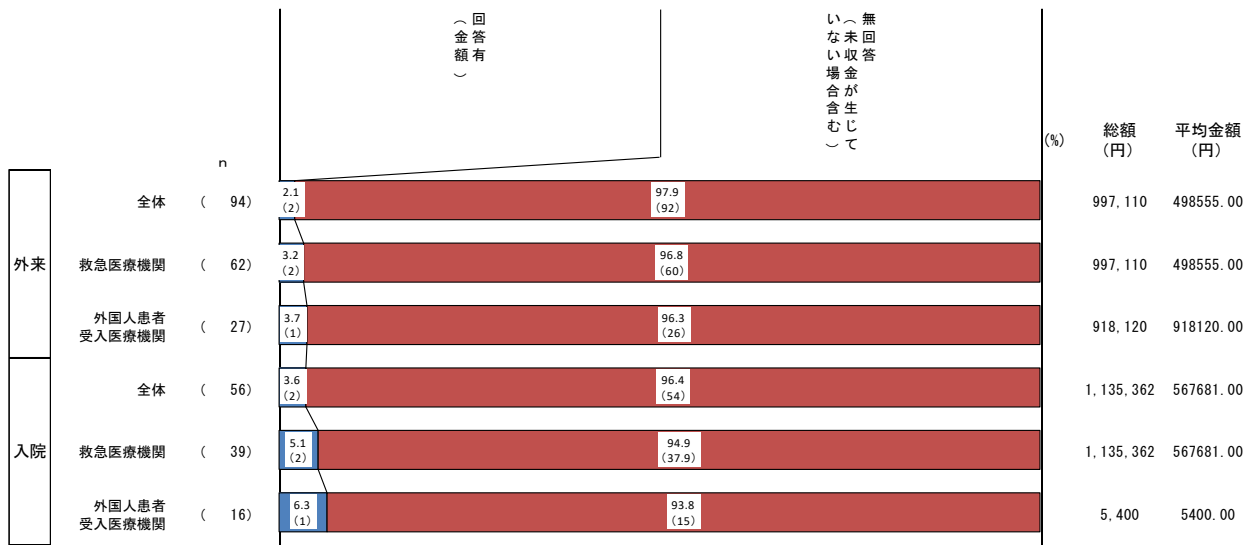


※表中の「延べ人数平均」は、「延べ人数総数」を「回答有」の機関数で割って算出している。

未収金の合計金額について回答があったのは、外来、入院で2.1%、検診のみで3.6%となっており、総額はそれぞれ997,110円（外来、入院）、1,135,362円（検診のみ）、平均金額はそれぞれ498,555.00円（外来、入院）、567,681.00円（検診のみ）となっている。

病院部門別でみると、救急医療機関では未収金の合計金額について回答があったのは、外来、入院で3.2%、検診のみで5.1%となっており、総額はそれぞれ997,110円（外来、入院）、1,135,362円（検診のみ）、平均金額はそれぞれ498,555.00円（外来、入院）、567,681.00円（検診のみ）となっている。外国人患者受入医療機関では未収金の合計金額について回答があったのは、外来、入院で3.7%、検診のみで6.3%となっており、総額はそれぞれ918,120円（外来、入院）、5,400円（検診のみ）、平均金額はそれぞれ918.120円（外来、入院）、5,400.00円（検診のみ）となっている。

図表Ⅱ-1-3-4 未収金を生じた訪日外国人患者（医療目的）



※表中の「平均金額」は、機関数で割って算出している。

(3) - 5 公的医療保険利用の有無（訪日外国人患者（医療目的））（FA）

訪日外国人患者（医療目的）の公的医療保険利用の有無について聞いたところ、外来、入院では「あり」と回答があった施設数は11件で、人数の総数が79人、平均が7.18人、「なし」と回答があった施設数は78件で、人数の総数が675人、平均が8.65人となっている。

また、検診のみでは「あり」と回答があった施設数は2件で、人数の総数が2人、平均が1.00人、「なし」と回答があった施設数は30件で、人数の総数が435人、平均が14.50人となっている。

図表Ⅱ-1-3-5 公的医療保険利用の有無（訪日外国人患者（医療目的））

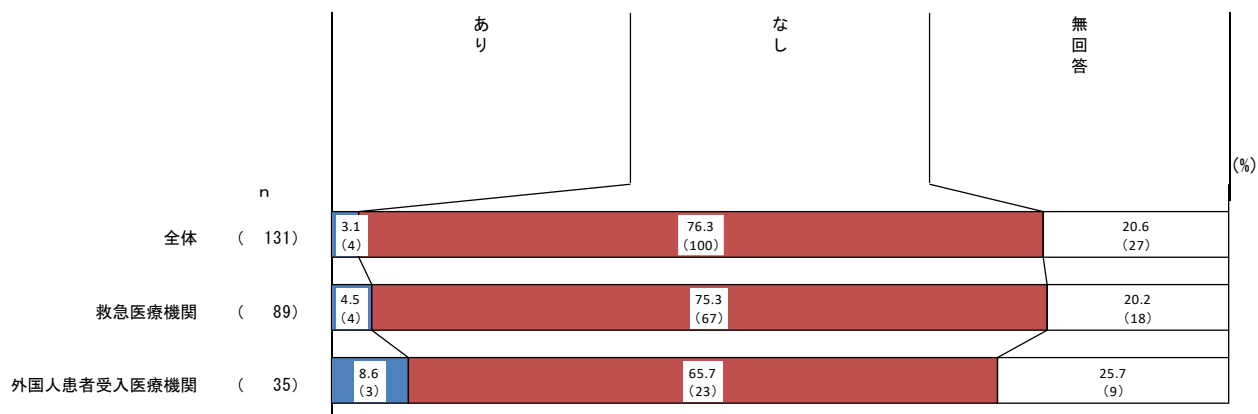
	外来、入院			検診のみ			
	施設数 (件)	総数 (人)	平均 (人)	施設数 (件)	総数 (人)	平均 (人)	
あり	11	79	7.18	あり	2	2	1.00
なし	78	675	8.65	なし	30	435	14.50

(3) - 6 民間医療保険利用の有無（訪日外国人患者（医療目的））（SA）

訪日外国人患者（医療目的）の民間医療保険利用の有無について聞いたところ、「あり」が3.1%、「なし」が76.3%となっている。

病院部門別で見ると、救急医療機関では「あり」が4.5%、「なし」が75.3%となっている。また、外国人患者受入医療機関では「あり」が8.6%、「なし」が65.7%となっている。

図表Ⅱ-1-3-6 民間医療保険利用の有無（訪日外国人患者（医療目的））



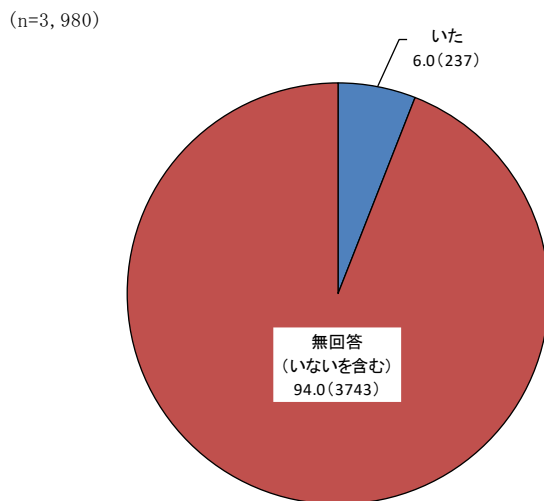
2. 未収金を生じた患者について

(1) 未収金を生じた患者の有無 (FA)

未収金を生じた患者の有無について聞いたところ、「いた」が6.0%、「無回答 (いないを含む)」が94.0%となっている。

また、各分類ごとの請求金額と未収金額については、下表の通りである。

図表Ⅱ-2-1 未収金を生じた患者の有無



図表Ⅱ-2-1-1 請求金額と未収金額

請求金額				未収金額					
	病院数	請求金額総計 (円)	平均金額 (円)		病院数	未収金額総計 (円)	平均金額 (円)		
	全体	855	117,084,828	136941.32		全体	855	92,892,116	108645.75
患者分類	在留外国人	726	49,851,295	68665.70	患者分類	在留外国人	726	41,577,946	57269.90
	訪日外国人	98	59,152,941	603601.44		訪日外国人	98	49,050,698	500517.33
	医療目的訪日	8	7,865,812	983226.50		医療目的訪日	8	2,053,482	256685.25
	不明	1	19,910	19910.00		不明	1	12,690	12690.00
	無回答	22	194,870	8857.73		無回答	22	197,300	8968.18
状況	入院	218	104,045,566	477273.24	状況	入院	218	80,871,943	370972.22
	外来	636	13,039,042	20501.64		外来	636	12,019,953	18899.30
	無回答	1	220	220.00		無回答	1	220	220.00
補填の有無	有	8	797,823	99727.88	補填の有無	有	8	146,477	18309.63
	無	838	116,247,645	138720.34		無	838	92,684,869	110602.47
	無回答	9	39,360	4373.33		無回答	9	60,770	6752.22

Ⅲ. 調査票 C 結果

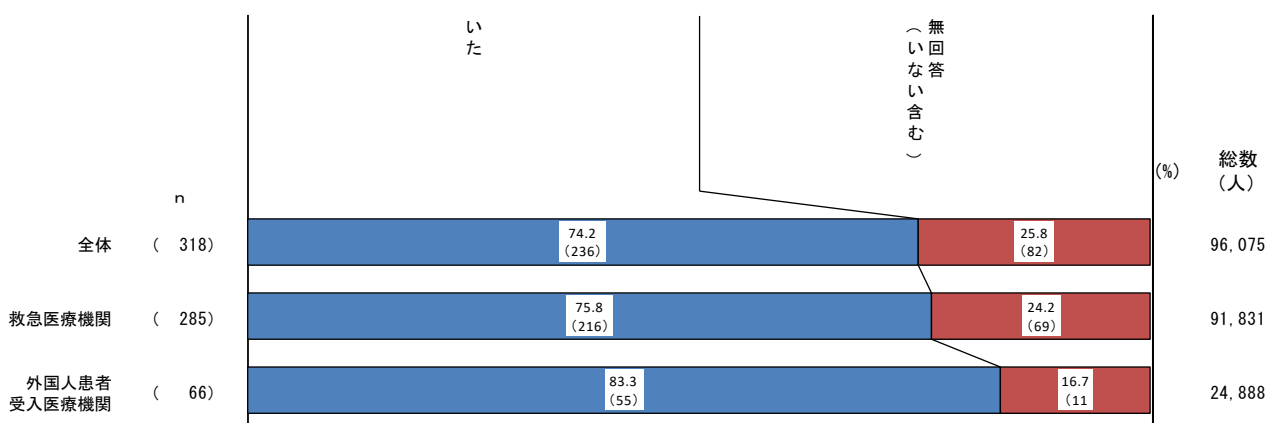
1. 外国人患者の受入実績

(1) 妊娠 12 週以降に分娩に至った妊婦の有無 (FA)

妊娠 12 週以降に分娩に至った妊婦の有無について聞いたところ、「いた」と回答したのは 236 件 (74.2%)、総数は 96,075 人となっている。

病院部門別でみると、救急医療機関では「いた」と回答したのは 216 件 (75.8%)、総数は 91,831 人となっている。外国人患者受入医療機関では「いた」と回答したのは 55 件 (83.3%)、総数は 24,888 人となっている。

図表Ⅲ-1-1 妊娠 12 週以降に分娩に至った妊婦の有無

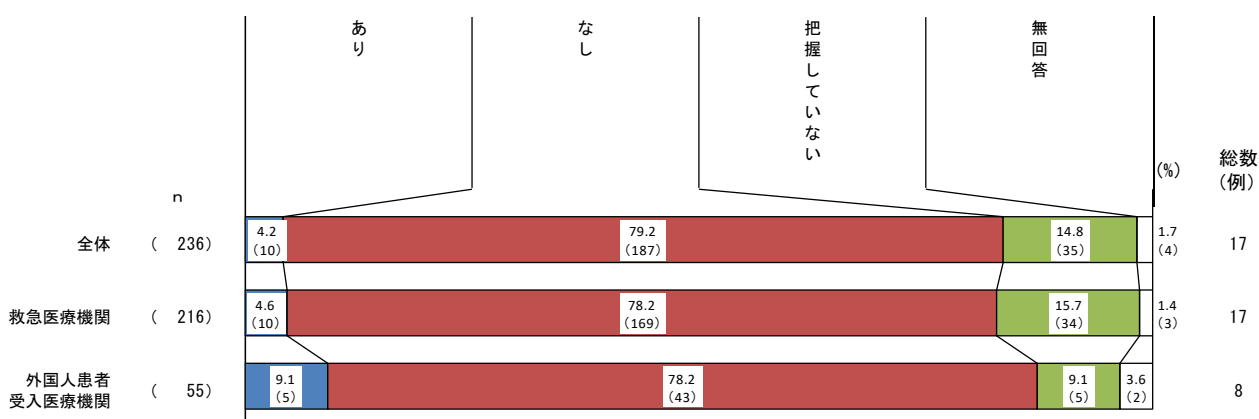


(1) - 1 訪日外国人の有無 (妊娠 12 週以降に分娩) (SA)

うち訪日外国人の有無について聞いたところ、「いた」と回答したのは 11 件 (4.7%)、総数は 84 人となっている。

病院部門別でみると、救急医療機関では「いた」と回答したのは 11 件 (5.1%)、総数は 84 人となっている。外国人患者受入医療機関では「いた」と回答したのは 5 件 (9.1%)、総数は 8 人となっている。

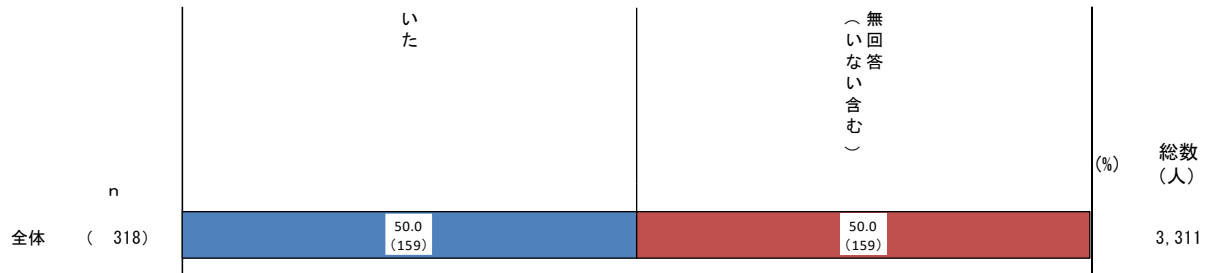
図表Ⅲ-1-1-1 訪日外国人の有無 (妊娠 12 週以降に分娩)



(2) 妊娠12週より前の流産に対して手術を実施した患者の有無 (FA)

妊娠12週より前の流産に対して手術を実施した患者の有無について聞いたところ、「いた」と回答したのは159件(50.0%)、総数は3,311人となっている。

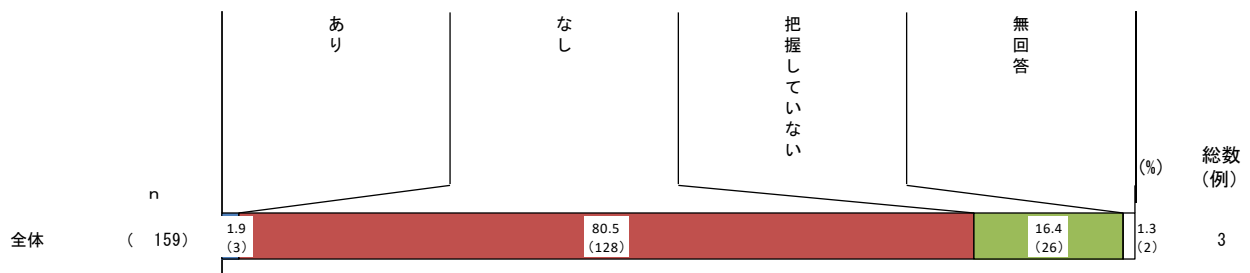
図表Ⅲ-2-1 妊娠12週より前の流産に対して手術を実施した患者の有無



(2) - 1 訪日外国人の有無 (妊娠12週より前の流産に対して手術を実施) (SA)

うち訪日外国人の有無について聞いたところ、「いた」と回答したのは3件(1.9%)、総数は3人となっている。

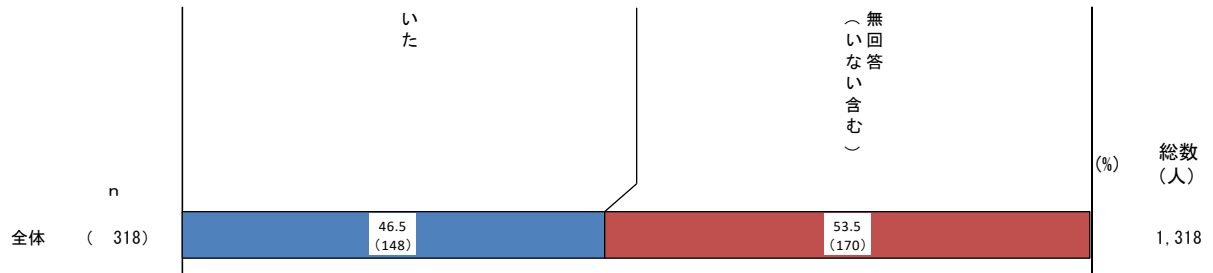
図表Ⅲ-1-2-1 訪日外国人の有無 (妊娠12週より前の流産に対して手術を実施)



(3) 異所性妊娠の手術を実施した患者の有無 (FA)

異所性妊娠の手術を実施した患者の有無について聞いたところ、「いた」と回答したのは148件(46.5%)、総数は1,318人となっている。

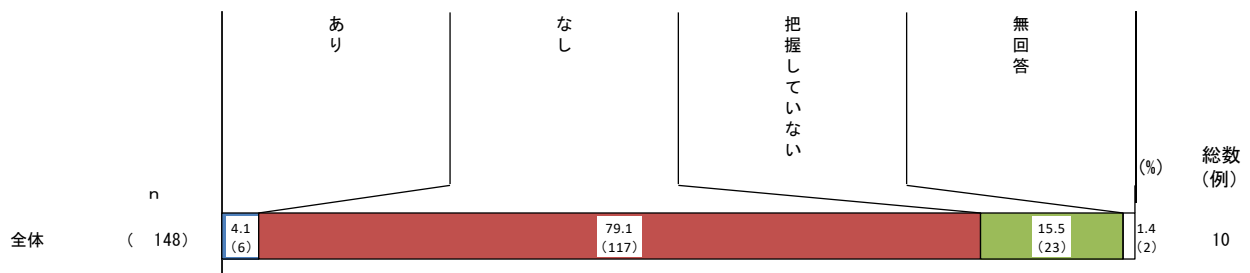
図表Ⅲ-3-1 異所性妊娠の手術を実施した患者の有無



(3) - 1 訪日外国人の有無 (異所性妊娠の手術を実施) (SA)

うち訪日外国人の有無について聞いたところ、「いた」と回答したのは6件(4.1%)、総数は10人となっている。

図表Ⅲ-1-3-1 訪日外国人の有無 (異所性妊娠の手術を実施)



2. 訪日外国人に係る周産期医療の患者について

(1) 妊娠12週以降に分娩に至った妊婦について (FA)

妊娠12週以降に分娩に至った妊婦についての、各分類ごとの請求金額は下表の通りである。

図表Ⅲ-2-1 妊娠12週以降に分娩に至った妊婦

請求金額				
	病院数	請求金額総計 (円)	平均金額 (円)	
全体	46	48,904,808	1063148.00	
分娩方法	正常経膈分娩	28	10,831,314	386832.64
	異常経膈分娩	4	3,049,950	762487.50
	予定帝王切開	3	656,305	218768.33
	緊急帝王切開	11	34,367,239	3124294.45
	無回答	0	-	-
生産・死産	生産	43	46,230,988	1075139.26
	死産	3	2,673,820	891273.33
	無回答	0	-	-
未収の有無	有	4	3,114,727	778681.75
	無	42	45,790,081	1090240.02
	無回答	0	-	-
通訳手配の有無	有	17	37,959,089	2232887.59
	無	27	10,209,939	378145.89
	無回答	2	735,780	367890.00
旅行者保険 加入の有無	有	2	16,836,600	8418300.00
	無	33	16,658,745	504810.45
	無回答	11	15,409,463	1400860.27
旅行者保険による 診療費補填の有無	有	0	-	-
	無	35	33,495,345	957009.86
	無回答	11	15,409,463	1400860.27

(2) 妊娠 12 週より前の流産に対して手術を実施した患者について (FA)

妊娠 12 週より前の流産に対して手術を実施した患者についての、各分類ごとの請求金額と未収金額は下表の通りである。

図表Ⅲ-2-2 妊娠 12 週より前の流産に対して手術を実施した患者

請求金額			
	病院数	請求金額総計 (円)	平均金額 (円)
全体	4	3,342,662	835665.50
未収の有無	有	1 3,079,553	3079553.00
	無	2 227,439	113719.50
	無回答	1 35,670	35670.00
通訳手配の有無	有	1 156,319	156319.00
	無	3 3,186,343	1062114.33
	無回答	0 -	-
旅行者保険 加入の有無	有	1 156,319	156319.00
	無	3 3,186,343	1062114.33
	無回答	0 -	-
旅行者保険による 診療費補填の有無	有	1 156,319	156319.00
	無	3 3,186,343	1062114.33
	無回答	0 -	-

未収金額			
	病院数	請求金額総計 (円)	平均金額 (円)
全体	1	1,374,553	1374553.00
通訳手配の有無	有	0 -	-
	無	1 1,374,553	1374553.00
	無回答	0 -	-
旅行者保険 加入の有無	有	0 -	-
	無	1 1,374,553	1374553.00
	無回答	0 -	-
旅行者保険による 診療費補填の有無	有	0 -	-
	無	1 1,374,553	1374553.00
	無回答	0 -	-

(3) 異所性妊娠の手術を実施した患者について (FA)

異所性妊娠の手術を実施した患者についての、各分類ごとの請求金額と未収金額は下表の通りである。

図表Ⅲ-2-3 異所性妊娠の手術を実施した患者

請求金額			
	病院数	請求金額総計 (円)	平均金額 (円)
全体	10	9,208,604	920860.40
未収の有無	有	1	591,051
	無	9	8,617,553
	無回答	0	-
通訳手配の有無	有	4	2,820,456
	無	6	6,388,148
	無回答	0	-
旅行者保険 加入の有無	有	0	-
	無	8	7,043,889
	無回答	2	2,164,715
旅行者保険による 診療費補填の有無	有	0	-
	無	5	3,596,918
	無回答	5	5,611,686

未収金額			
	病院数	請求金額総計 (円)	平均金額 (円)
全体	1	101,051	101051.00
通訳手配の有無	有	1	101,051
	無	0	-
	無回答	0	-
旅行者保険 加入の有無	有	0	-
	無	1	101,051
	無回答	0	-
旅行者保険による 診療費補填の有無	有	0	-
	無	1	101,051
	無回答	0	-

(4) 訪日外国人が分娩した新生児について (FA)

訪日外国人が分娩した新生児についての、各分類ごとの請求金額と未収金額は下表の通りである。

図表Ⅲ-2-4 訪日外国人が分娩した新生児

請求金額				
		病院数	請求金額総計 (円)	平均金額 (円)
全体		28	34,345,326	1226618.79
小児科医の 分娩立会いの有 無	有	2	-	-
	無	22	34,345,326	1561151.18
	無回答	4	-	-
分娩方法	正常経膈分娩	16	19,734,728	1233420.50
	異常経膈分娩	1	11,439,440	11439440.00
	予定帝王切開	3	10,260	3420.00
	緊急帝王切開	8	3,160,898	395112.25
	無回答	0	-	-
NICU入院の有無	有	11	34,271,868	3115624.36
	無	17	73,458	4321.06
	無回答	0	-	-
未収の有無	有	9	31,125,418	3458379.78
	無	15	3,219,908	214660.53
	無回答	4	-	-
旅行者保険 加入の有無	有	0	-	-
	無	20	34,345,326	1717266.30
	無回答	8	-	-
旅行者保険によ る診療費補填の 有無	有	0	-	-
	無	19	34,345,326	1807648.74
	無回答	9	-	-

未収金額				
		病院数	請求金額総計 (円)	平均金額 (円)
全体		9	7,499,993	833332.56
小児科医の 分娩立会いの有 無	有	1	0	0
	無	4	7,499,991	1874997.75
	無回答	4	-	-
分娩方法	正常経膈分娩	3	2,060,551	686850.33
	異常経膈分娩	1	5,439,440	5439440.00
	予定帝王切開	0	-	-
	緊急帝王切開	5	-	-
	無回答	0	-	-
NICU入院の有無	有	8	7,359,548	919943.50
	無	1	140,445	140445.00
	無回答	0	-	-
旅行者保険 加入の有無	有	0	-	-
	無	4	7,499,991	1874997.75
	無回答	5	-	-
旅行者保険によ る診療費補填の 有無	有	0	-	-
	無	4	7,499,991	1874997.75
	無回答	5	-	-

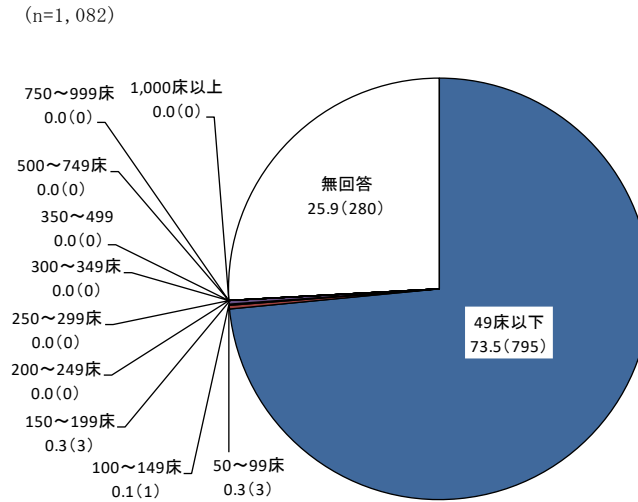
第3章 調査結果（診療所）

I. 調査票 A 結果

1. 回答者属性

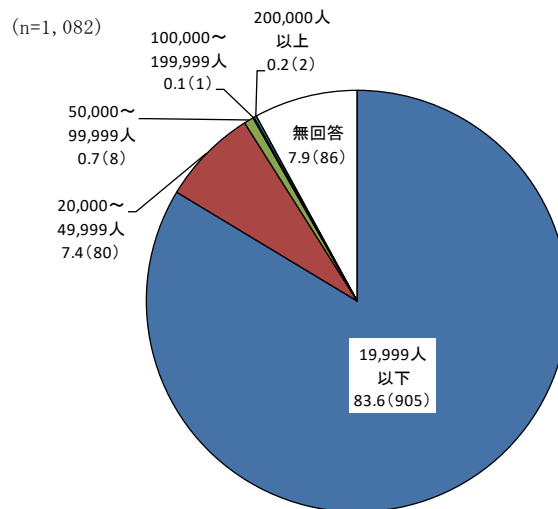
(1) 許可病床数 (FA)

図表 I-1-1 許可病床数



(2) 総患者数 (外来) (FA)

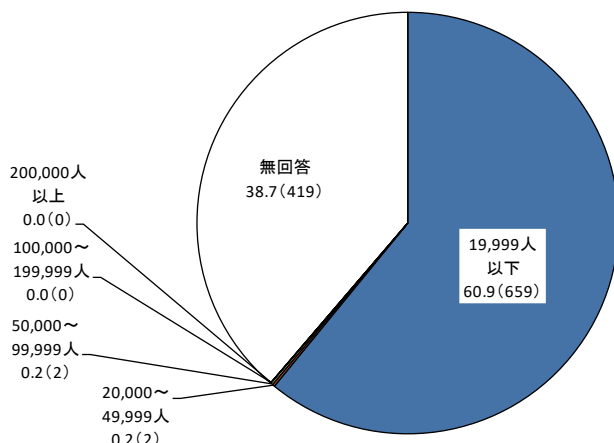
図表 I-1-2 総患者数 (外来)



(3) 総患者数（入院）(FA)

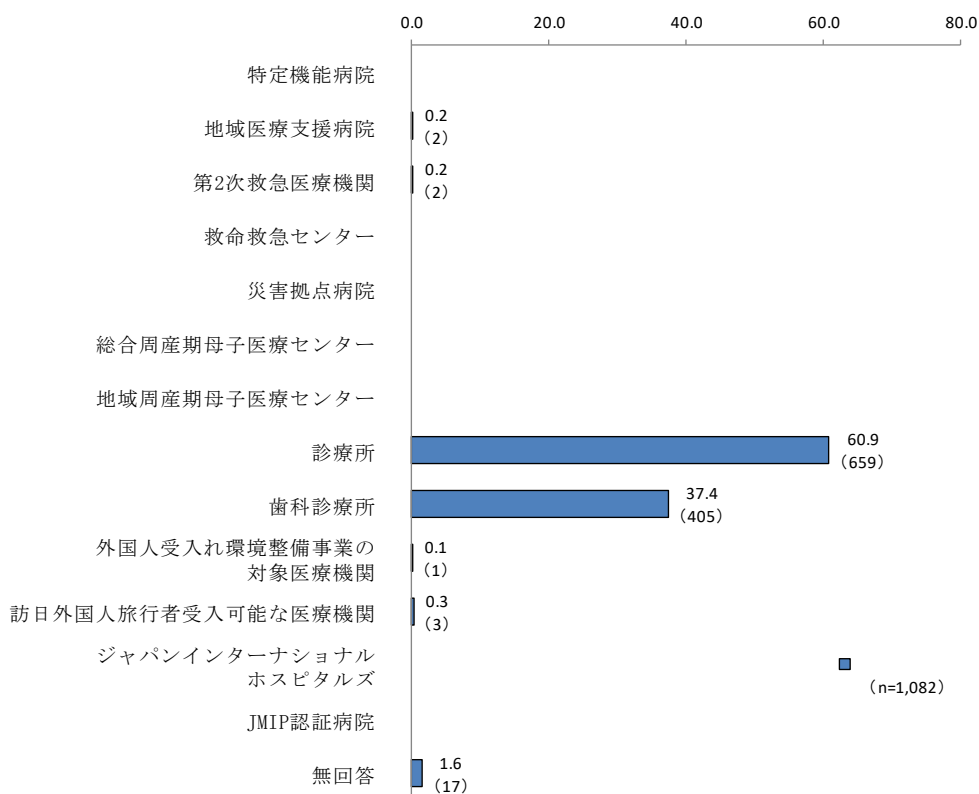
図表 I-1-3 総患者数（入院）

(n=1,082)



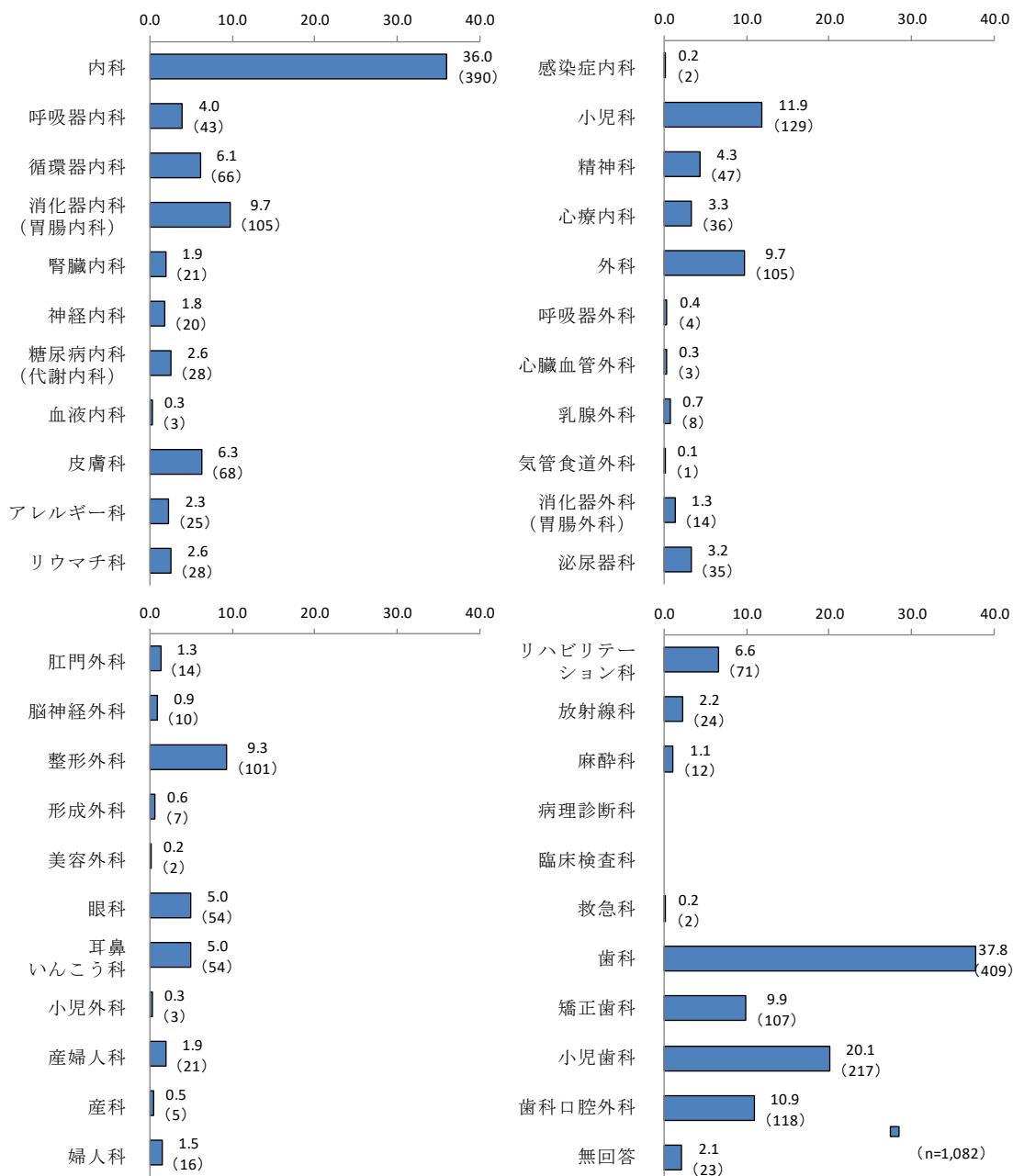
(4) 医療機関の種別 (MA)

図表 I-1-4 医療機関の種別



(5) 診療科目 (MA)

図表 I-1-5 診療科目

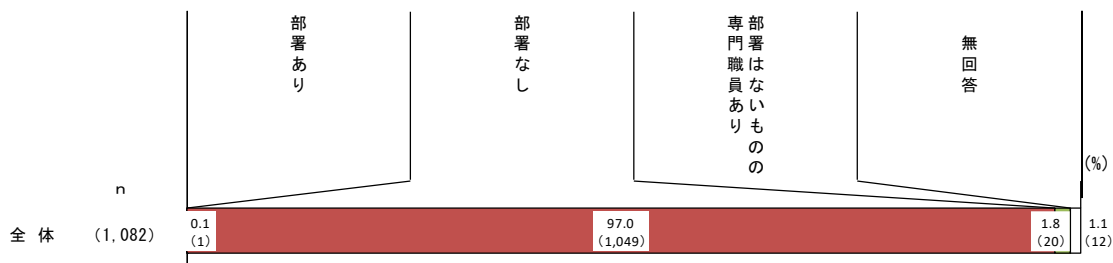


2. 外国人患者に対応する体制について

(1) 外国人患者対応の専門部署の有無 (SA)

外国人患者対応の専門部署の有無について聞いたところ、「部署あり」が0.1%、「部署なし」が97.0%、「部署はないものの専門職員あり」が1.8%となっている。

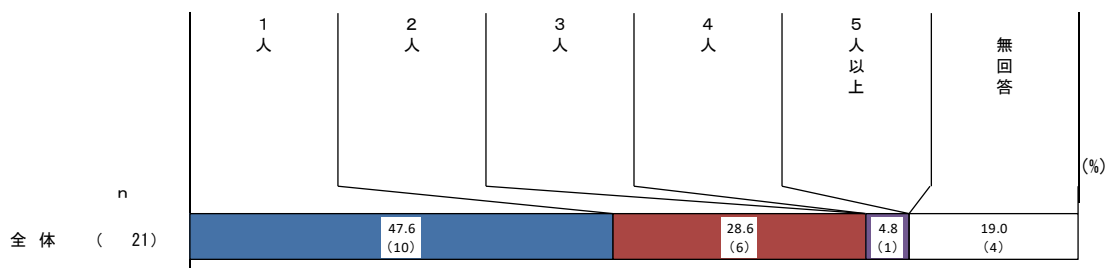
図表 I-2-1 外国人患者対応の専門部署の有無



(1) - 1 専門職員の人数 (FA)

専門職員の人数について聞いたところ、「1人」が47.6%で最も高く、次いで「2人」が28.6%と続いている。

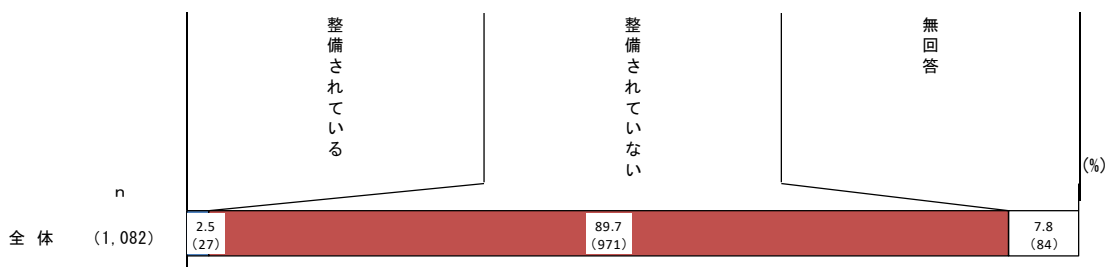
図表 I-2-1-1 専門職員の人数



(1) - 2 外国人対応マニュアルの整備状況 (SA)

外国人対応マニュアルの整備状況について聞いたところ、「整備されている」が2.5%、「整備されていない」が89.7%となっている。

図表 I-2-1-2 外国人対応マニュアルの整備状況

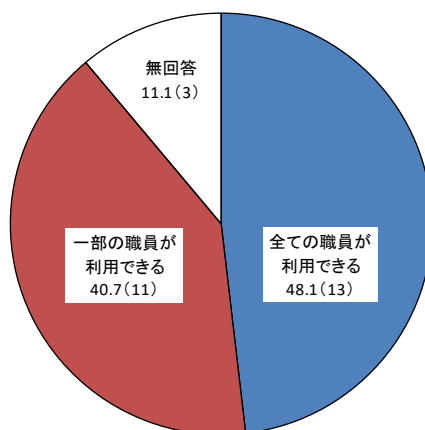


(1) - 3 外国人対応マニュアルを利用できる職員の範囲 (SA)

外国人対応マニュアルを利用できる職員の範囲について聞いたところ、「すべての職員が利用できる」が48.1%、「一部の職員が利用できる」が40.7%となっている。

図表 I-2-1-3 外国人対応マニュアルを利用できる職員の範囲

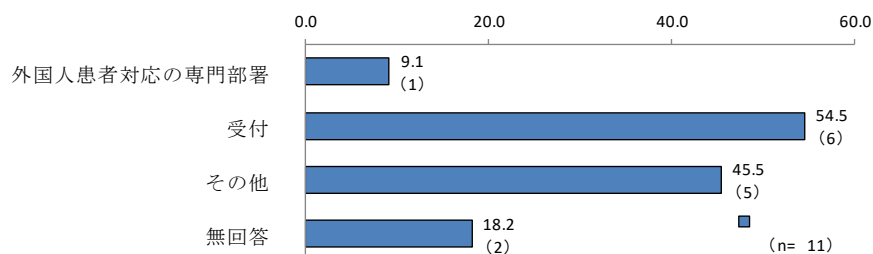
(n= 27)



(1) - 4 外国人対応マニュアルを利用できる職員部門 (MA)

外国人対応マニュアルを利用できる職員部門について聞いたところ、「受付」が54.5%で最も高く、次いで「外国人患者対応の専門部署」が9.1%と続いている。

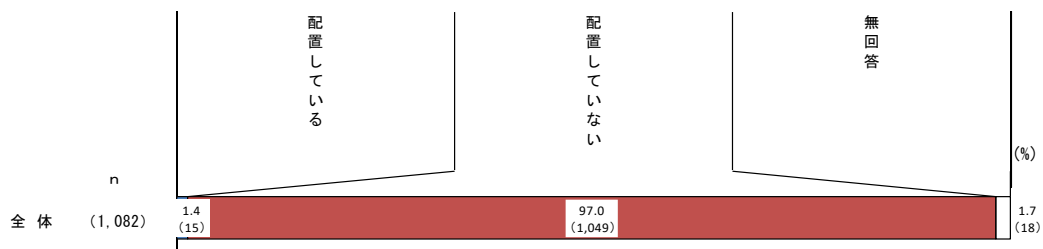
図表 I-2-1-4 外国人対応マニュアルを利用できる職員部門



(2) 外国人向け医療コーディネーターの配置状況 (SA)

外国人向け医療コーディネーターの配置状況について聞いたところ、「配置している」が1.4%、「配置していない」が97.0%となっている。

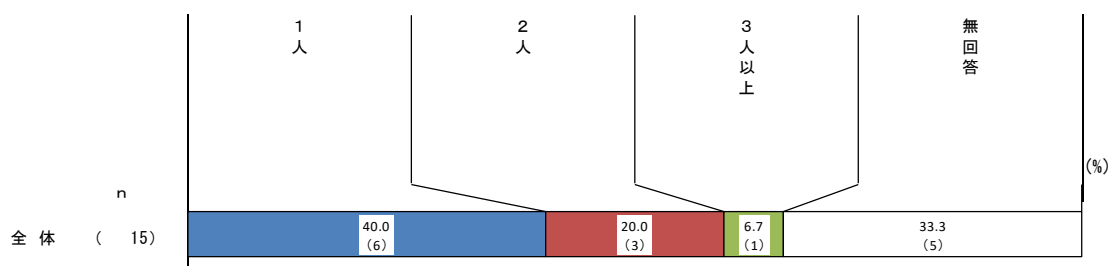
図表 I-2-2 外国人向け医療コーディネーターの配置状況



(2) - 1 コーディネーターの人数 (FA)

コーディネーターの人数について聞いたところ、「1人」が40.0%で最も高く、次いで「2人」が20.0%、「3人以上」が6.7%と続いている。

図表 I-2-2-1 コーディネーターの人数



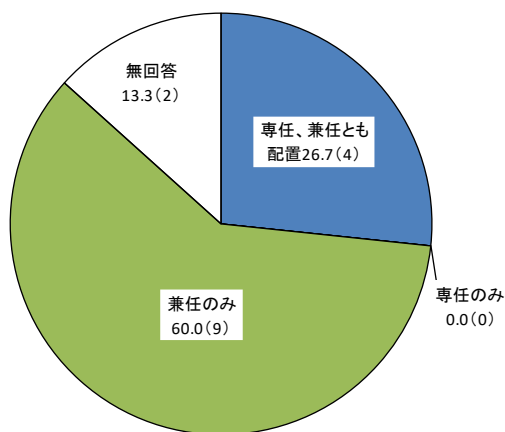
※グラフ内の割合と件数は、回答した施設数を表している。

(2) - 2 コーディネーターの専任・兼任の別 (SA)

コーディネーターの専任・兼任の別について聞いたところ、「兼任のみ」が60.0%で最も高く、次いで「専任、兼任とも配置」が26.7%と続いている。

図表 I-2-2-2 コーディネーターの専任・兼任の別

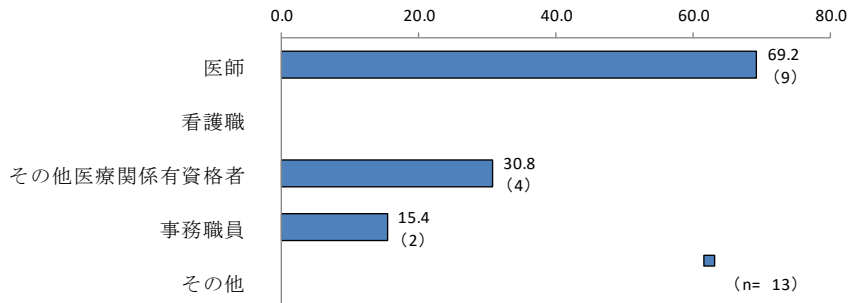
(n= 15)



(2) - 3 コーディネーターの兼職 (MA)

コーディネーターの兼職について聞いたところ、「医師」が69.2%で最も高く、次いで「その他医療関係有識者」が30.8%と続いている。

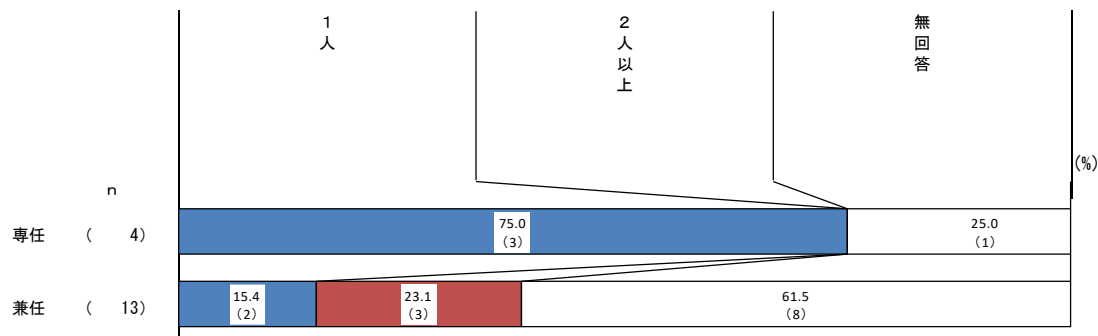
図表 I-2-2-3 コーディネーターの兼職



(2) - 4 コーディネーターの専任・兼任別の人数 (FA)

コーディネーターの人数について専任・兼任それぞれで聞いたところ、専任では「1人」が75.0%となっている。兼任では「2人以上」が23.1%で最も高く、次いで「1人」が15.4%と続いている。

図表 I-2-2-4 コーディネーターの専任・兼任別の人数



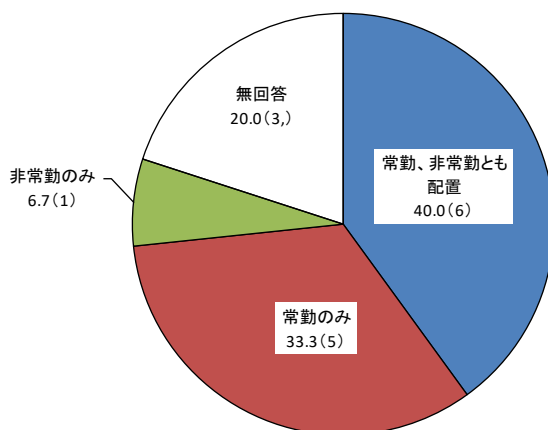
※グラフ内の割合と件数は、回答した施設数を表している。

(2) - 5 コーディネーターの常勤・非常勤の別 (SA)

コーディネーターの常勤・非常勤の別について聞いたところ、「常勤、非常勤とも配置」が40.0%で最も高く、次いで「常勤のみ」が33.3%と続いている。

図表 I-2-2-5 コーディネーターの常勤・非常勤の別

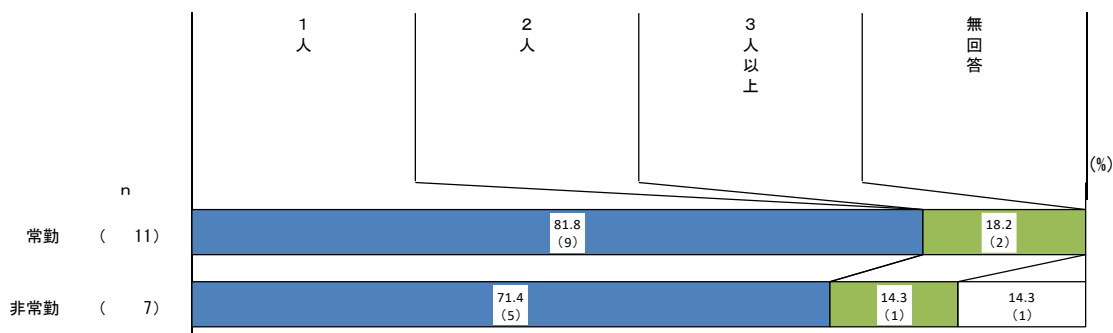
(n= 15)



(2) - 6 コーディネーターの常勤・非常勤別の人数 (FA)

コーディネーターの人数について常勤・非常勤それぞれ聞いたところ、常勤では「1人」が81.8%で最も高く、次いで「3人以上」が18.2%と続いている。非常勤では「1人」が71.4%で最も高く、次いで「3人以上」が14.3%と続いている。

図表 I-2-2-6 コーディネーターの常勤・非常勤別の人数



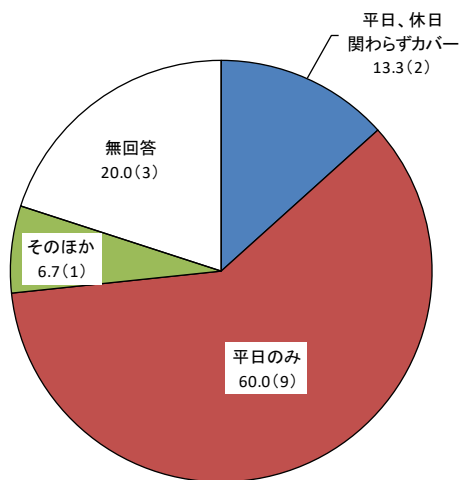
※グラフ内の割合と件数は、回答した施設数を表している。

(2) - 7 コーディネーターがカバーしている範囲 (平日、休日) (SA)

コーディネーターがカバーしている範囲について聞いたところ、「平日のみ」が60.0%で最も高く、次いで「平日、休日関わらずカバー」が13.3%と続いている。

図表 I-2-2-7 コーディネーターがカバーしている範囲 (平日、休日)

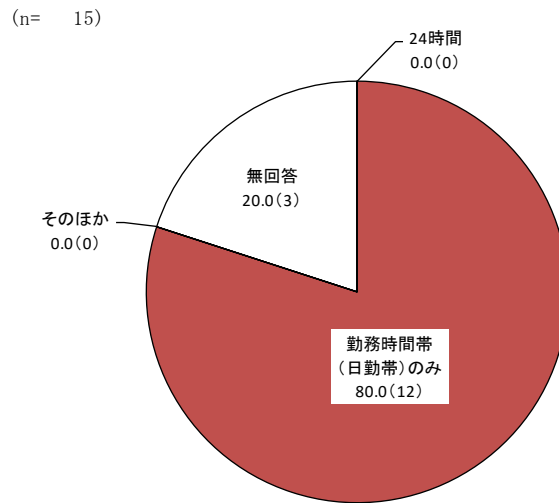
(n = 15)



(2) - 8 コーディネーターがカバーしている時間帯 (SA)

コーディネーターがカバーしている時間帯について聞いたところ、「勤務時間帯（日勤帯）のみ」が80.0%となっている。

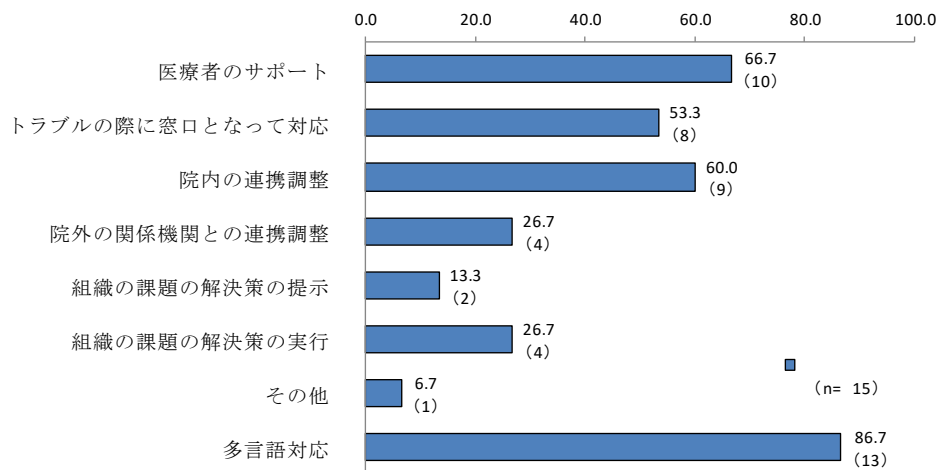
図表 I-2-2-8 コーディネーターがカバーしている時間帯



(2) - 9 コーディネーターの役割 (MA)

コーディネーターの役割について聞いたところ、「多言語対応」が86.7%で最も高く、次いで「医療者のサポート」が66.7%と続いている。

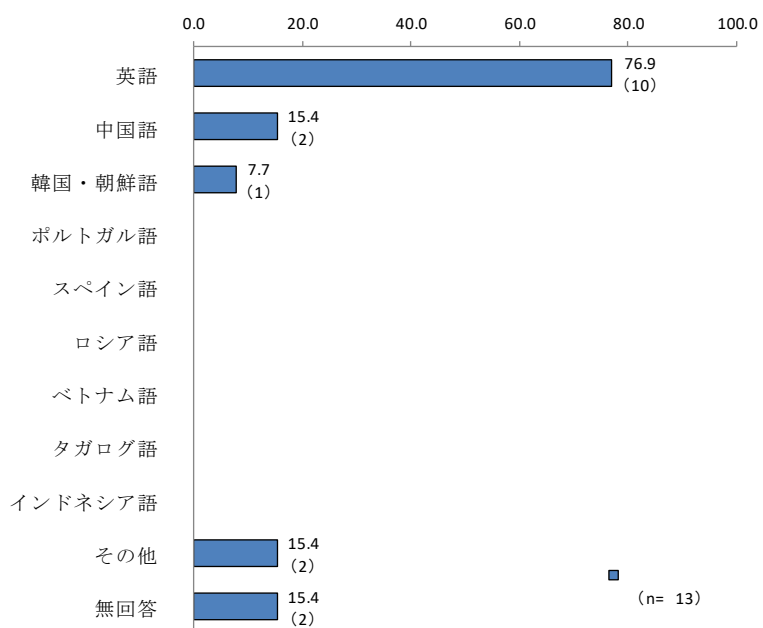
図表 I-2-2-9 コーディネーターの役割



(2) -10 コーディネーターの対応言語 (MA)

コーディネーターの役割で『多言語対応』と回答した施設にコーディネーターの対応言語について聞いたところ、「英語」が76.9%で最も高く、次いで「中国語」が15.4%と続いている。

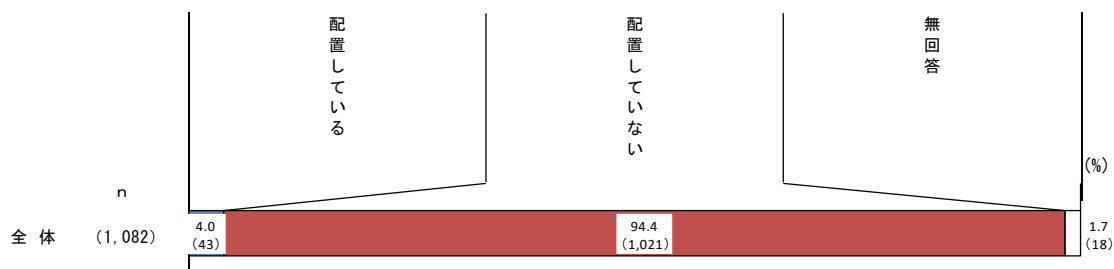
図表 I-2-2-10 コーディネーターの対応言語



(3) 医療通訳の配置状況 (SA)

医療通訳の配置状況について聞いたところ、「配置している」が4.0%、「配置していない」が94.4%となっている。

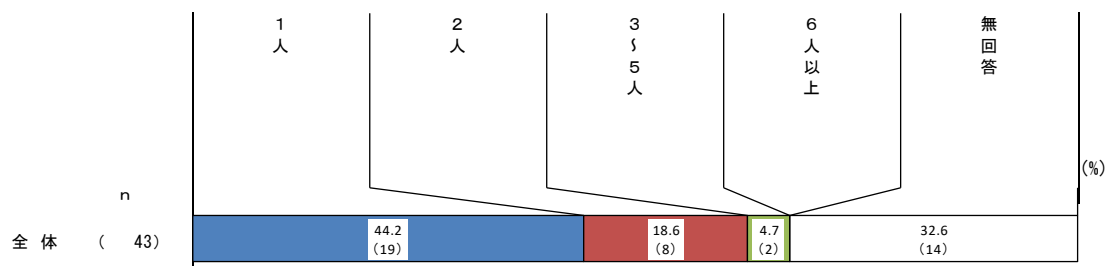
図表 I-2-3 医療通訳の配置状況



(3) - 1 医療通訳の人数 (FA)

医療通訳の人数について聞いたところ、「1人」が44.2%で最も高く、次いで「2人」が18.6%と続いている。

図表 I-2-3-1 医療通訳の人数

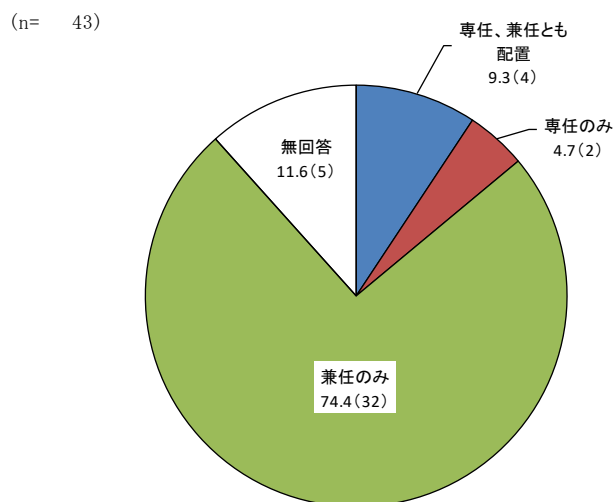


※グラフ内の割合と件数は、回答した施設数を表している。

(3) - 2 医療通訳の専任・兼任の別 (SA)

医療通訳の専任・兼任の別について聞いたところ、「兼任のみ」が74.4%で最も高く、次いで「専任、兼任とも配置」が9.3%と続いている。

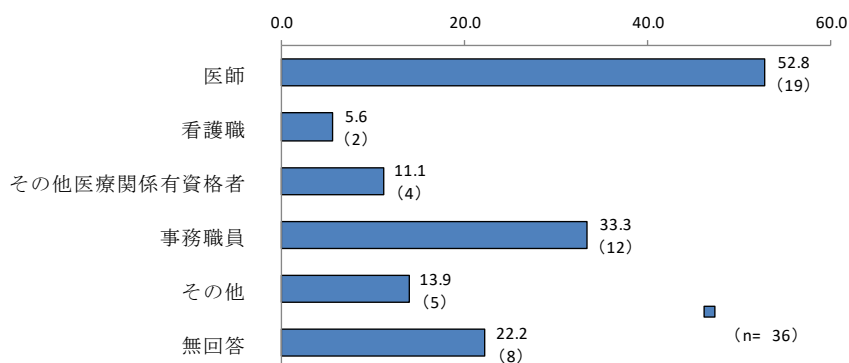
図表 I-2-3-2 医療通訳の専任・兼任の別



(3) - 3 医療通訳の兼職 (MA)

医療通訳の兼職について聞いたところ、「医師」が52.8%で最も高く、次いで「事務職員」が33.3%と続いている。

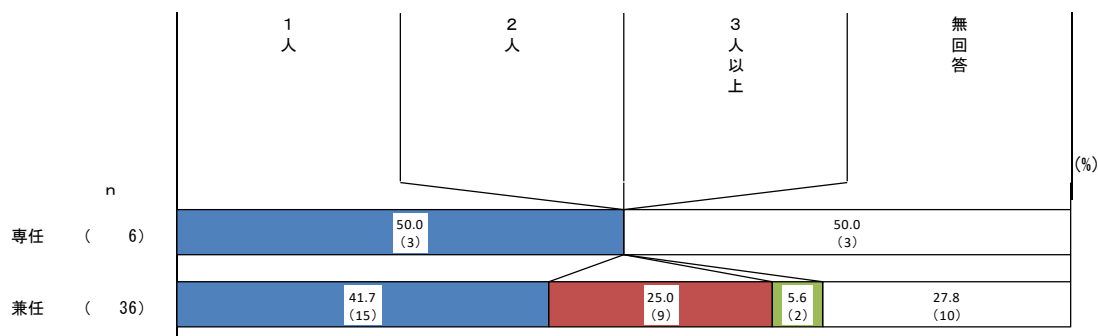
図表 I-2-3-3 医療通訳の兼職



(3) - 4 医療通訳の専任・兼任別の人数 (FA)

医療通訳の人数について専任・兼任それぞれで聞いたところ、専任では「1人」が50.0%となっている。兼任では「1人」が41.7%で最も高く、次いで「2人」が25.0%と続いている。

図表 I-2-3-4 医療通訳の専任・兼任別の人数

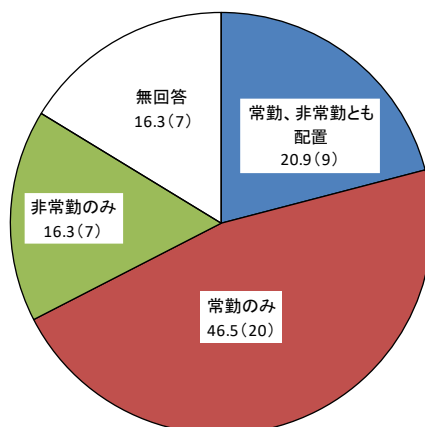


(3) - 5 医療通訳の常勤・非常勤の別 (SA)

医療通訳の常勤・非常勤の別について聞いたところ、「常勤のみ」が46.5%で最も高く、次いで「常勤、非常勤とも配置」が20.9%と続いている。

図表 I-2-3-5 医療通訳の常勤・非常勤の別

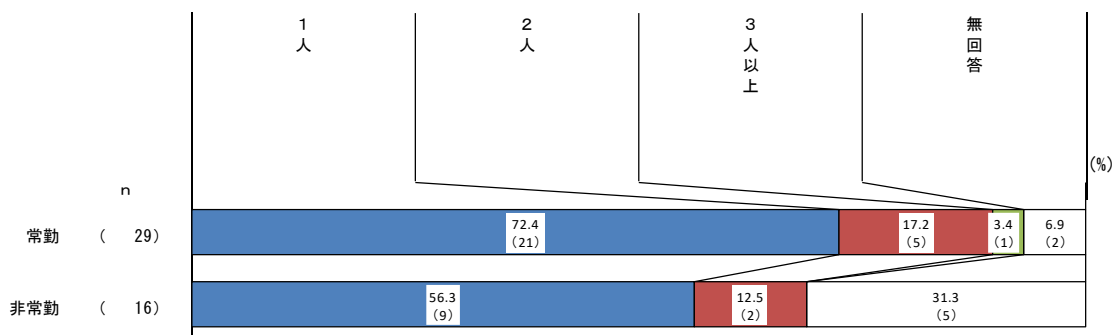
(n= 43)



(3) - 6 医療通訳の常勤・非常勤別の人数 (FA)

医療通訳の人数について常勤・非常勤それぞれ聞いたところ、常勤では「1人」が72.4%で最も高く、次いで「2人」が17.2%と続いている。非常勤では「1人」が56.3%で最も高く、次いで「2人」が12.5%と続いている。

図表 I-2-3-6 医療通訳の常勤・非常勤別の人数

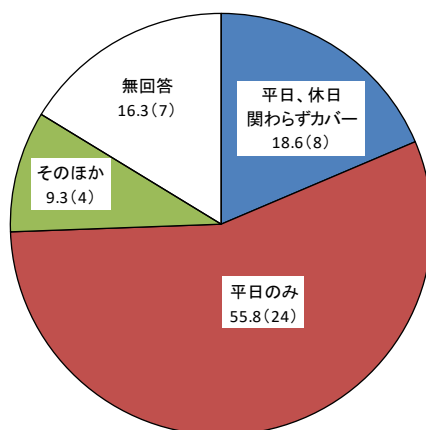


(3) - 7 医療通訳がカバーしている範囲(平日、休日) (SA)

医療通訳がカバーしている範囲について聞いたところ、「平日のみ」が55.8%で最も高く、次いで「平日、休日問わずカバー」が18.6%と続いている。

図表 I-2-3-7 医療通訳がカバーしている範囲(平日、休日)

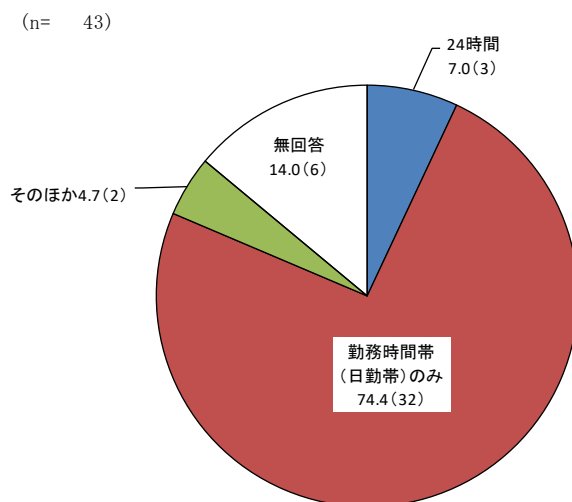
(n= 43)



(3) - 8 医療通訳がカバーしている時間帯 (SA)

医療通訳がカバーしている時間帯について聞いたところ、「勤務時間帯（日勤帯）のみ」が74.4%で最も高く、次いで「24時間」が7.0%と続いている。

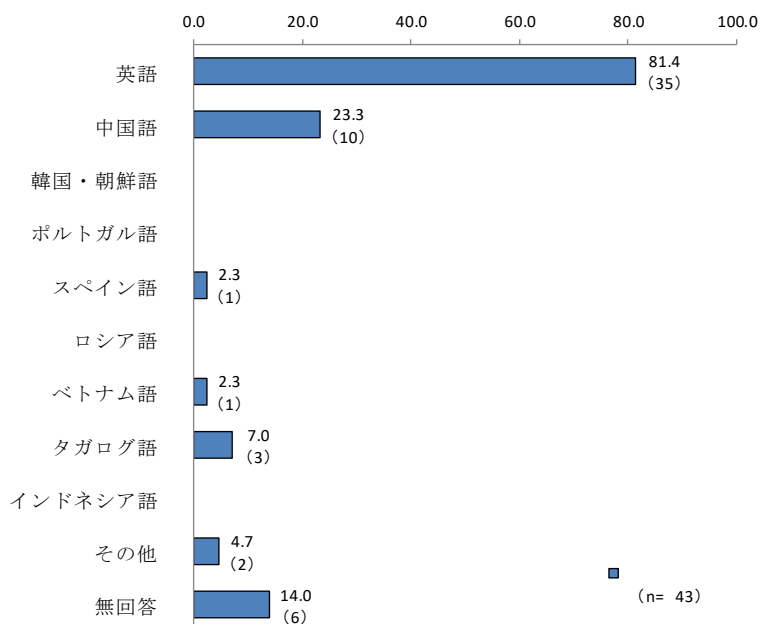
図表 I-2-3-8 医療通訳がカバーしている時間帯



(3) - 9 医療通訳の対応言語 (MA)

医療通訳の対応言語について聞いたところ、「英語」が81.4%で最も高く、次いで「中国語」が23.3%と続いている。

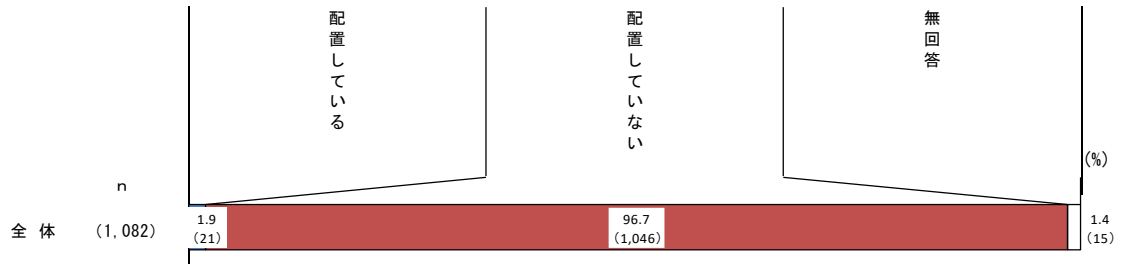
図表 I-2-3-9 医療通訳の対応言語



(4) 電話通訳（遠隔通訳）の利用状況（SA）

電話通訳（遠隔通訳）の利用状況の配置状況について聞いたところ、「配置している」が1.9%、「配置していない」が96.7%となっている。

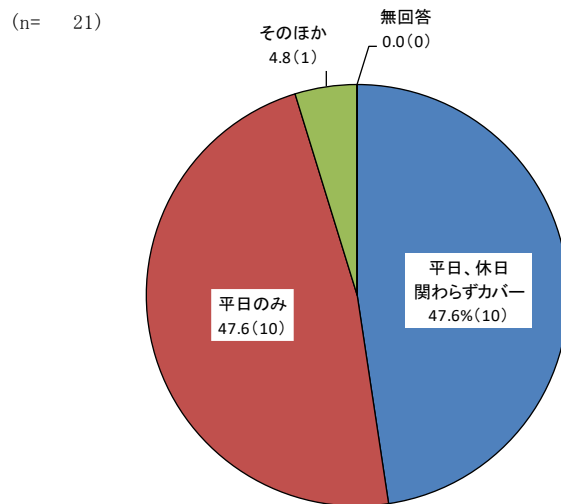
図表 I-2-4 電話通訳の利用状況



(4) - 1 電話通訳がカバーしている範囲（平日、休日）（SA）

電話通訳がカバーしている範囲について聞いたところ、「平日、休日問わずカバー」と「平日のみ」がそれぞれ47.6%となっている。

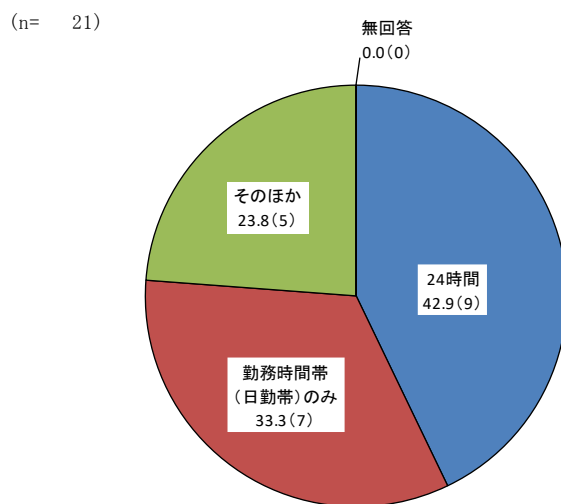
図表 I-2-4-1 電話通訳がカバーしている範囲（平日、休日）



(4) - 2 医療通訳がカバーしている時間帯 (SA)

医療通訳がカバーしている時間帯について聞いたところ、「24時間」が42.9%で最も高く、次いで「勤務時間帯（日勤帯）のみ」が33.3%と続いている。

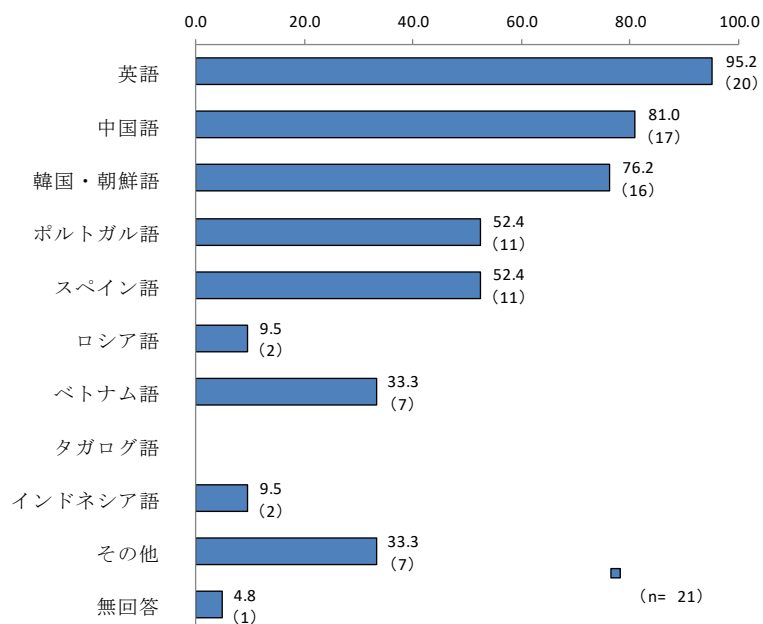
図表 I-2-4-2 電話通訳がカバーしている時間帯



(4) - 3 電話通訳の対応言語 (MA)

電話通訳の対応言語について聞いたところ、「英語」が95.2%で最も高く、次いで「中国語」が81.0%と続いている。

図表 I-2-4-3 医療通訳の対応言語



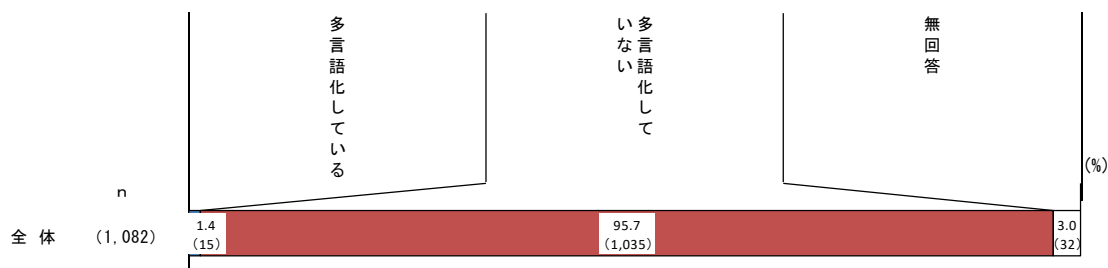
(4) - 4 多言語に対応するためのその他の取組 (FA)

多言語に対応するためのその他の取組について聞いたところ、「会話式翻訳機の導入」、「多言語対応の問診票」、「独自に外国語（英語）習得」等の回答が得られた。

(5) 院内案内図、院内表示の多言語化状況 (SA)

院内案内図、院内表示の多言語化状況について聞いたところ、「多言語化している」が1.4%、「多言語化していない」が95.7%となっている。

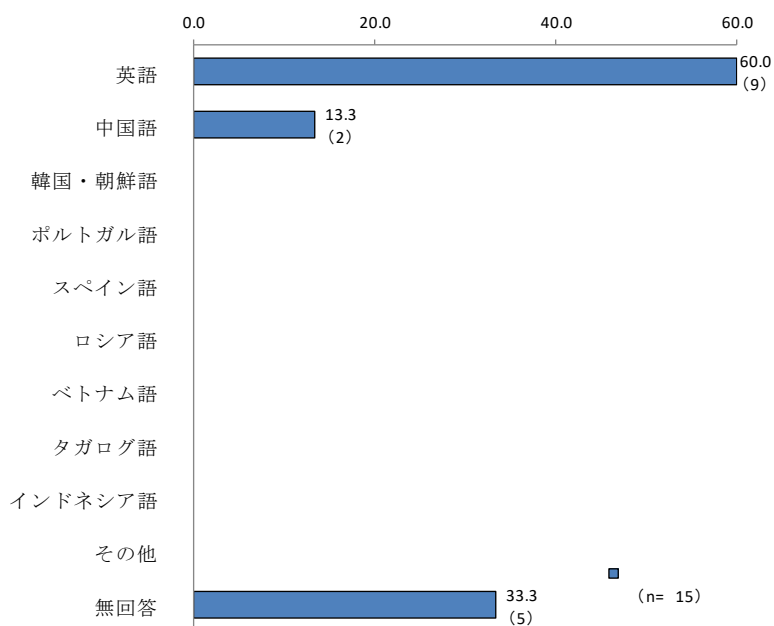
図表 I-2-5 院内案内図、院内表示の多言語化状況



(5) - 1 院内案内図、院内表示の対応言語 (MA)

院内案内図、院内表示の対応言語について聞いたところ、「英語」が60.0%、「中国語」が13.3%となっている。

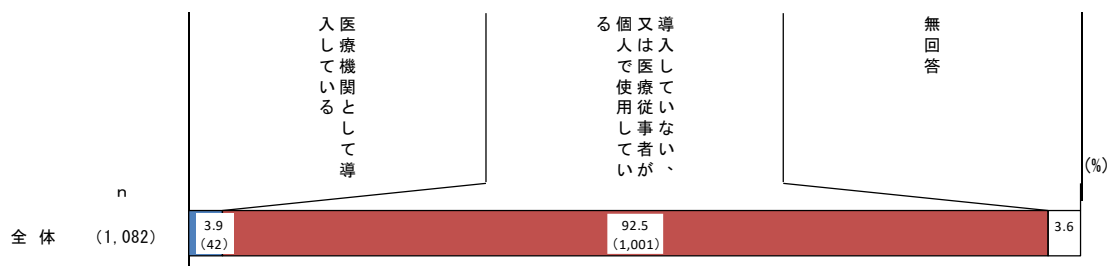
図表 I-2-5-1 医療通訳の対応言語



(6) タブレット端末等の利用状況 (SA)

タブレット端末等の利用状況について聞いたところ、「医療機関として導入している」が3.9%、「導入していない、又は医療従事者が個人で使用している」が92.5%となっている。

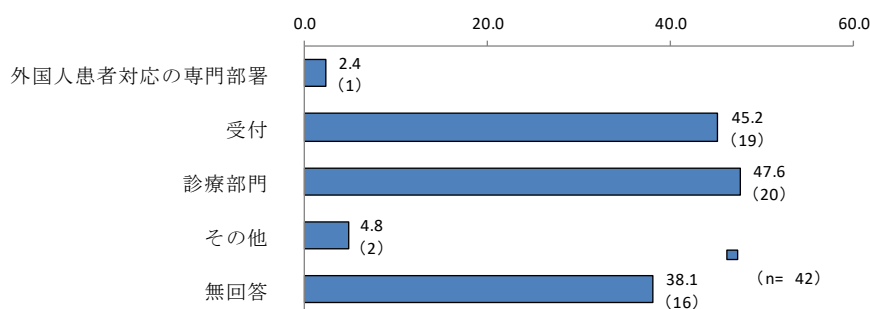
図表 I-2-6 タブレット端末等の利用状況



(6) - 1 タブレット端末等を利用できる職員部門 (MA)

タブレット端末等を利用できる職員部門について聞いたところ、「診療部門」が47.6%で最も高く、次いで「受付」が45.2%と続いている。

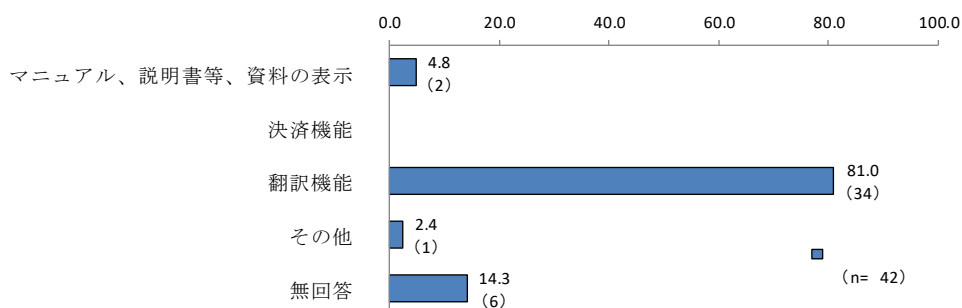
図表 I-2-6-1 タブレット端末等を利用できる職員部門



(6) - 2 タブレット端末等に備わっている機能 (MA)

タブレット端末等に備わっている機能について聞いたところ、「翻訳機能」が81.0%で最も高く、次いで「マニュアル、説明書等、資料の表示」が4.8%と続いている。

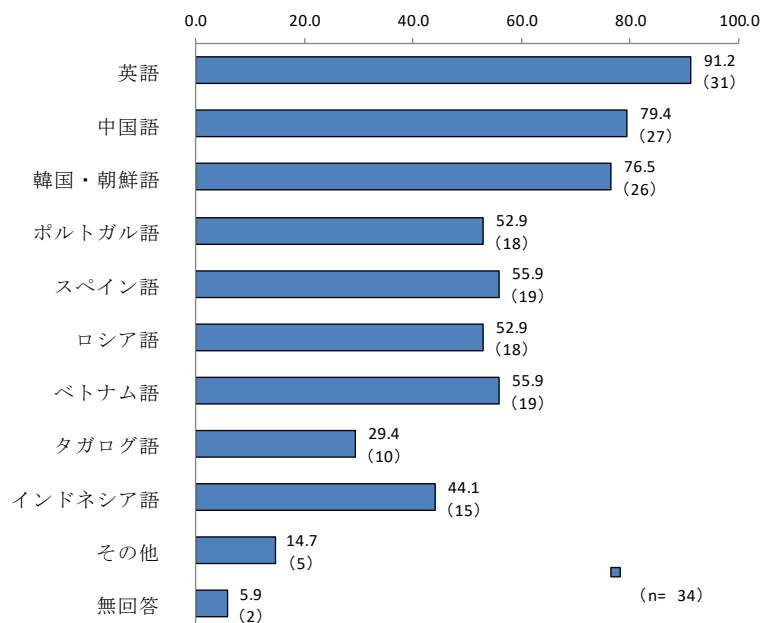
図表 I-2-6-2 タブレット端末等に備わっている機能



(6) - 3 翻訳機能の対応言語 (MA)

翻訳機能の対応言語について聞いたところ、「英語」が91.2%で最も高く、次いで「中国語」が79.4%と続いている。

図表 I-2-6-3 翻訳機能の対応言語

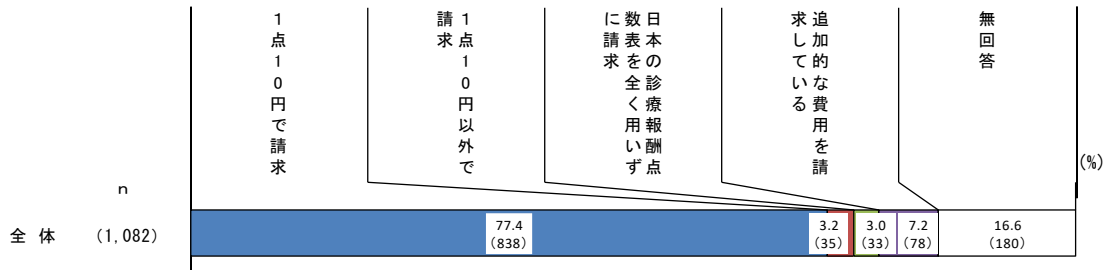


3. 医療費等について

(1) 医療費の請求方法 (SA)

医療費の請求方法について聞いたところ、「1点10円で請求」が77.4%で最も高く、次いで「追加的な費用を請求している」が7.2%と続いている。

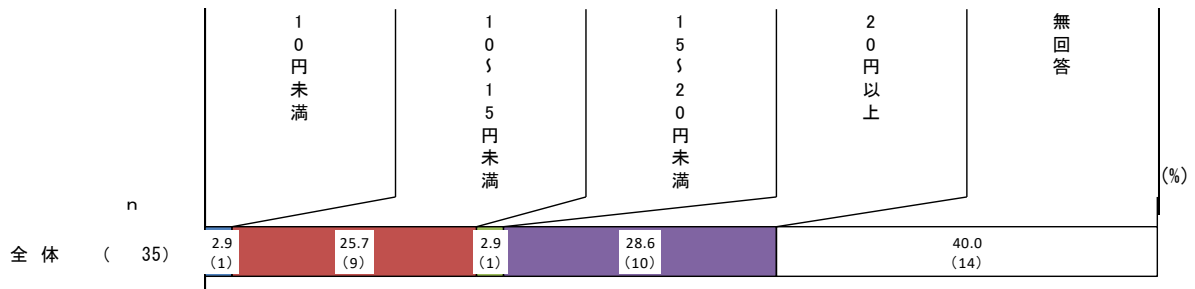
図表 I-3-1 医療費の請求方法



(1) - 1 診療報酬点数「1点」あたりの金額 (FA)

『1点10円以外で請求』と回答した施設に診療報酬点数「1点」あたりの金額について聞いたところ、「20円以上」が28.6%で最も高く、次いで「10～15円未満」が25.7%と続いている。

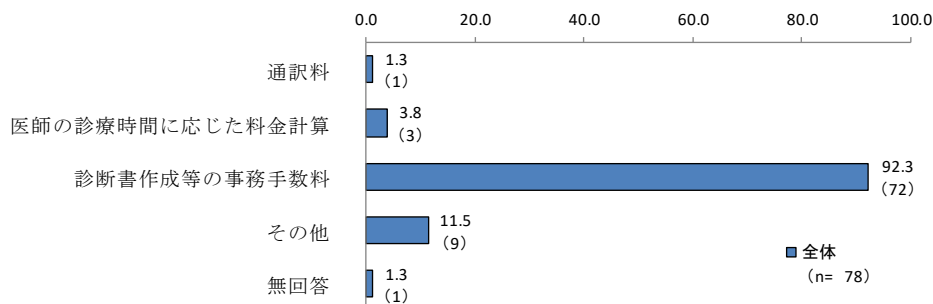
図表 I-3-1-1 診療報酬点数「1点」あたりの金額



(1) - 2 追加的費用の内容 (MA)

追加的費用の内容について聞いたところ、「診断書作成等の事務手数料」が92.3%で最も高く、次いで「医師の診療時間に応じた料金計算」が3.8%と続いている。

図表 I-3-1-2 追加的費用の内容



(1) - 3 追加請求の金額 (FA)

通訳料の具体的な金額について回答があったのは、1回あたりの通訳料で1件(100.0%)となっており、その請求金額は2000.00円(1回あたり)となっている。

図表 I-3-1-3 追加請求の金額

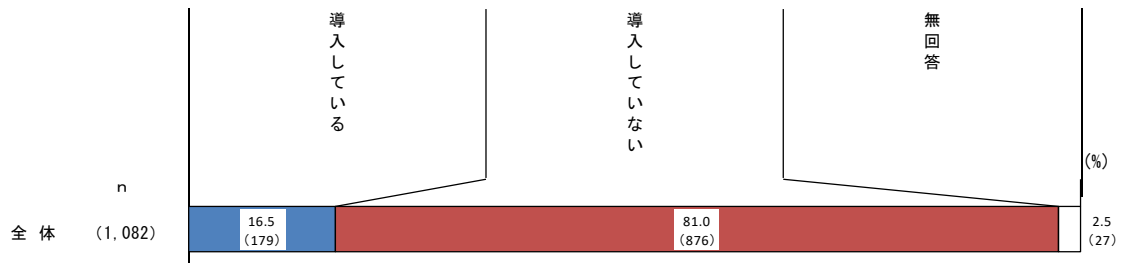
1回あたりの通訳料			
	通訳料を 追加請求して いる病院数	金額の 回答有	1回あたりの 通訳料の平均 (円)
全体	1	1	20000.00
	100.0	100.0	
10分あたりの通訳料			
	全体	回答有	10分あたりの 請求金額(平 均)
全体	1	0	0.00
	100.0	0.0	

4. キャッシュレス決済について

(1) カード（クレジットカード・デビットカード）を利用した決済の導入状況（SA）

カードを利用した決済の導入状況について聞いたところ、「導入している」が16.5%、「導入していない」が81.0%となっている。

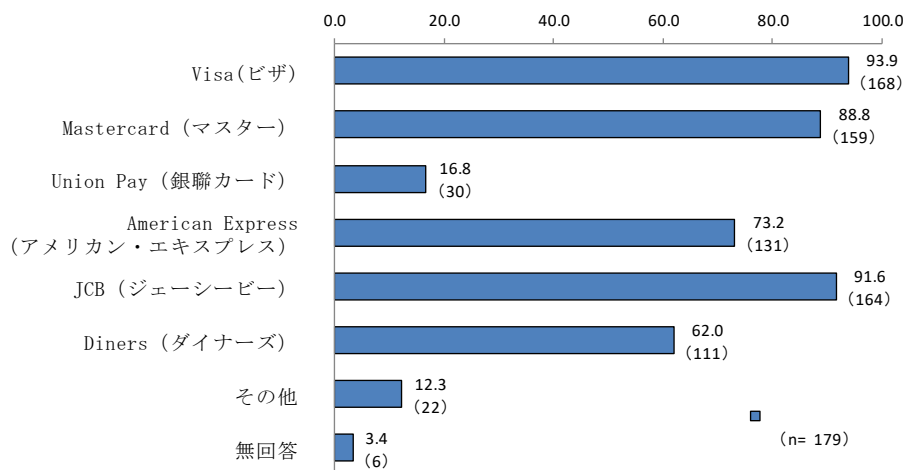
図表 I-4-1 カード（クレジットカード・デビットカード）を利用した決済の導入状況



(1) - 1 導入している対応ブランド（MA）

導入している対応ブランドについて聞いたところ、「Visa（ビザ）」が93.9%で最も高く、次いで「JCB（ジェーシービー）」が91.6%と続いている。

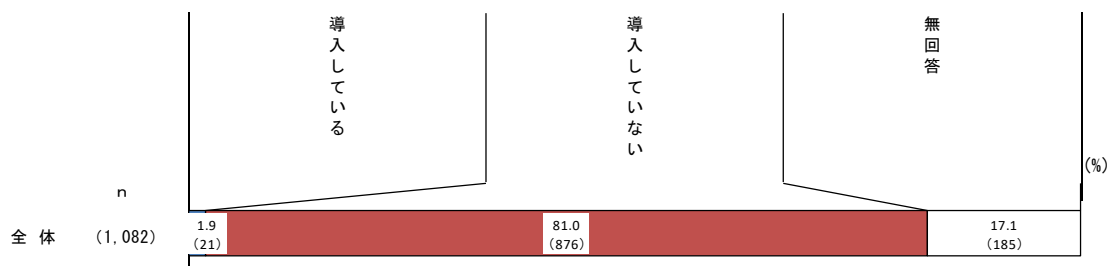
図表 I-4-1-1 導入している対応ブランド



(2) 非接触カードを利用した決済の導入状況 (SA)

非接触カードを利用した決済の導入状況について聞いたところ、「導入している」が1.9%、「導入していない」が81.0%となっている。

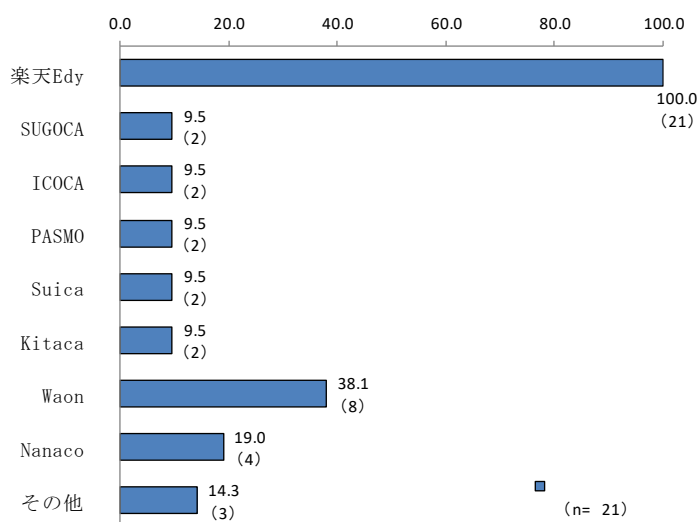
図表 I-4-2 非接触カードを利用した決済の導入状況



(2) - 1 対応している電子マネー (MA)

対応している電子マネーについて聞いたところ、「楽天Edy」が100.0%で最も高く、次いで「Waon」が38.1%と続いている。

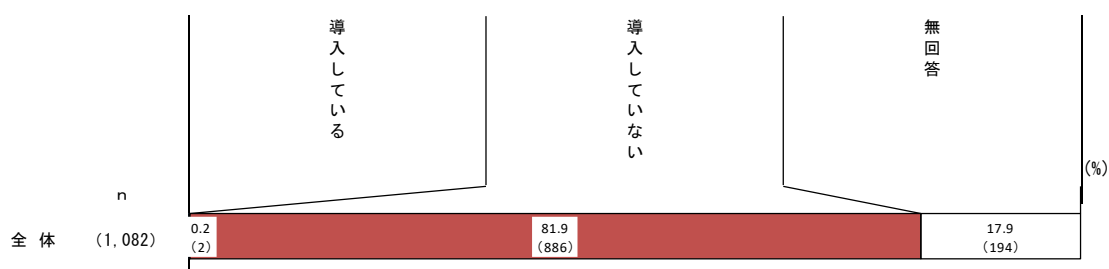
図表 I-4-2-1 対応している電子マネー



(3) QRコードを利用した決済の導入状況 (SA)

QRコードを利用した決済の導入状況について聞いたところ、「導入している」が0.2%、「導入していない」が81.9%となっている。

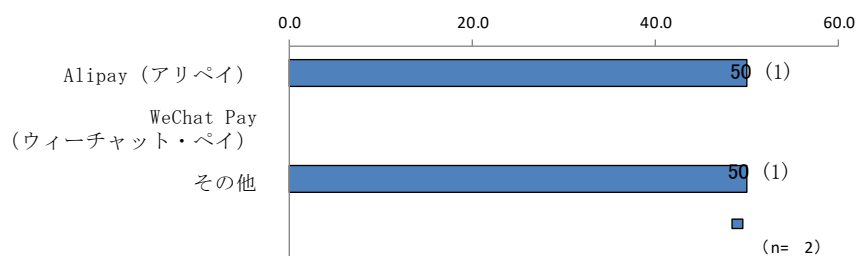
図表 I-4-3 QRコードを利用した決済の導入状況



(3) - 1 対応しているサービス (MA)

対応しているサービスについて聞いたところ、「Alipay (アリペイ)」が50.0%となっている。

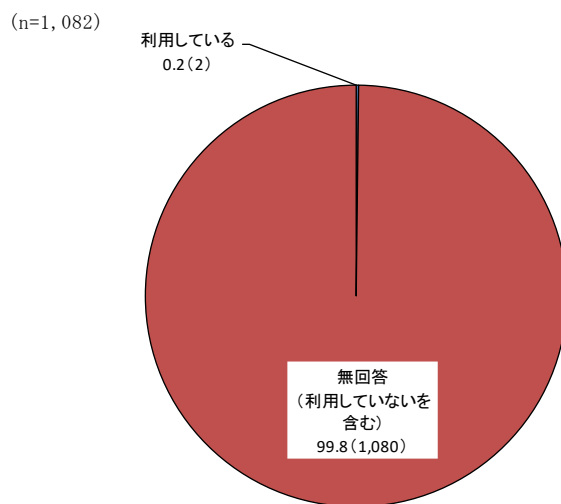
図表 I-4-3-1 対応しているサービス



(4) その他の決済サービスの利用状況 (FA)

その他の決済サービスの利用状況について聞いたところ、「利用している」が0.2%、「無回答（利用していないを含む）」が99.8%となっている。

図表 I-4-4 その他の決済サービスの導入状況

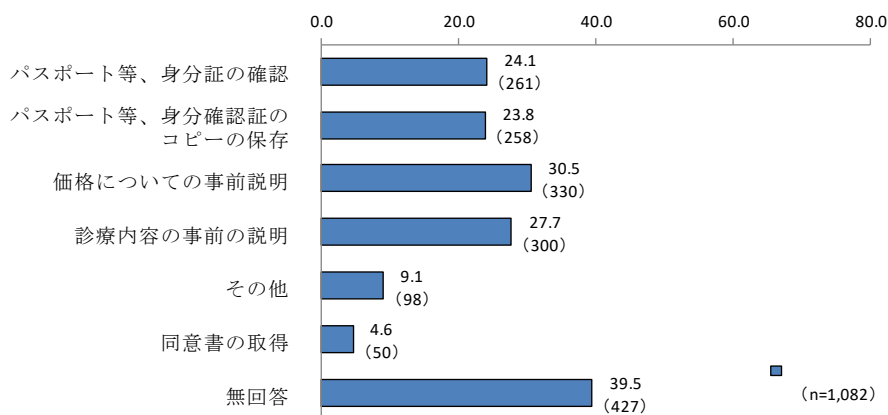


5. 未収金等への対策について

(1) 外国人患者に対して実施している取組 (MA)

外国人患者に対して実施している取組について聞いたところ、「価格についての事前説明」が30.5%で最も高く、次いで「診療内容の事前の説明」が27.7%と続いている。

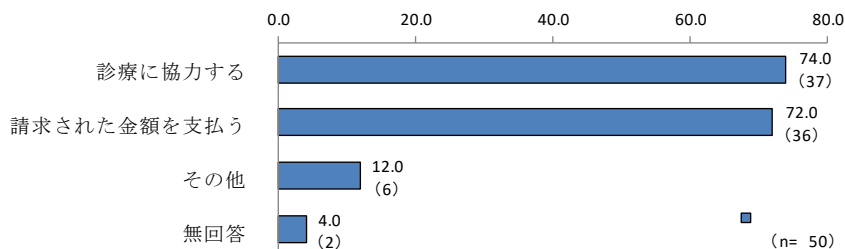
図表 I-5-1 外国人患者に対して実施している取組



(1) - 1 同意書の同意内容 (MA)

外国人患者に『同意書の取得』を実施している施設に同意書の同意内容について聞いたところ、「診療に協力する」が74.0%で最も高く、次いで「請求された金額を支払う」が72.0%と続いている。

図表 I-5-1-1 同意書の同意内容

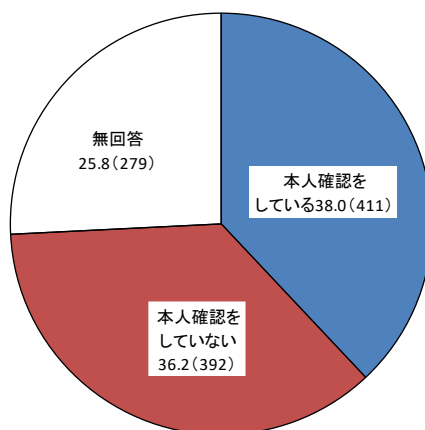


(2) 在留外国人への本人確認実施の有無 (SA)

在留外国人への本人確認実施の有無について聞いたところ、「本人確認をしている」が38.0%、「本人確認をしていない」が36.2%となっている。

図表 I-5-2 在留外国人への本人確認実施の有無

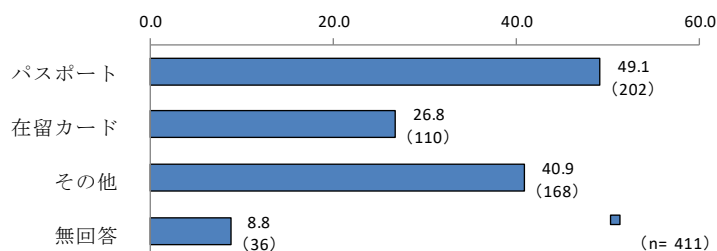
(n=1,082)



(2) - 1 本人確認時に提示を求めているもの (MA)

本人確認時に提示を求めているものについて聞いたところ、「パスポート」が49.1%で最も高く、次いで「在留カード」が26.8%と続いている。

図表 I-5-2-1 本人確認時に提示を求めているもの

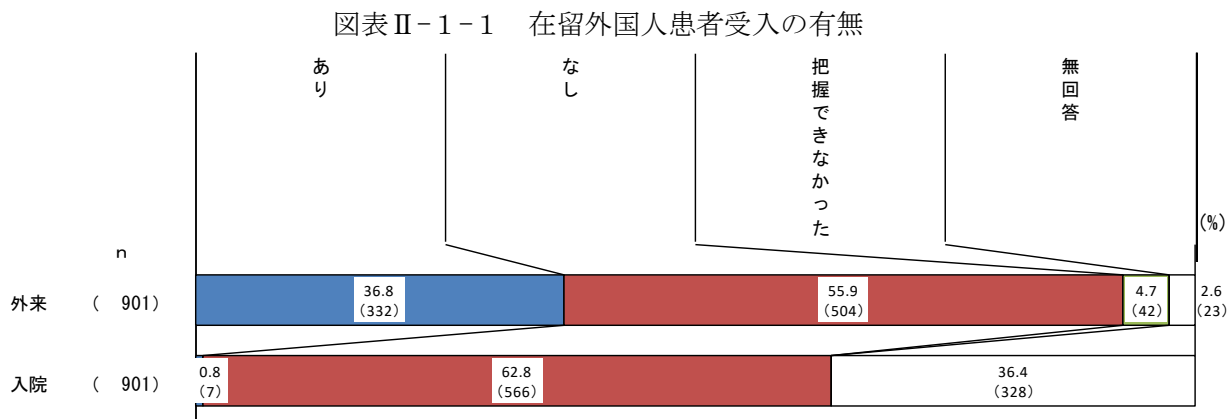


II. 調査票 B 結果

1. 外国人患者の受入実績

(1) 在留外国人患者受入の有無 (SA)

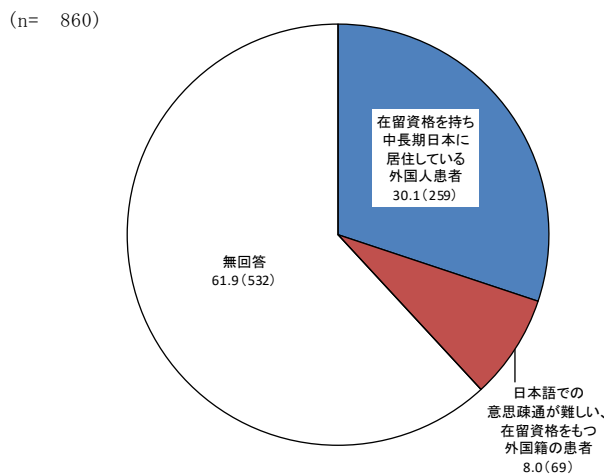
在留外国人患者受入の有無について聞いたところ、『外来』では「あり」が36.8%、「なし」が55.9%、「把握できなかった」が4.7%となっており、『入院』では「あり」が0.8%、「なし」が62.8%となっている。



(1) - 1 在留外国人患者の把握方法 (SA)

在留外国人患者の把握方法について聞いたところ、「在留資格を持ち中長期日本に居住している外国人患者」が30.1%、「日本語での意思疎通が難しい、在留資格を持つ外国籍の患者」が8.0%となっている。

図表 II-1-1-1 把握している在留外国人患者



(1) - 2 受け入れた在留外国人患者の延べ人数 (FA)

受け入れた在留外国人患者の延べ人数について回答があったのは、外来で284件(85.5%)、入院で1件(14.3%)となっており、延べ人数はそれぞれ29,381人(外来)、5人(入院)、平均人数はそれぞれ105.04人(外来)、5.00人(入院)となっている。

図表Ⅱ-1-1-2 受け入れた在留外国人患者の延べ人数

外来					
	回答者全体	有効回答 機関数	無回答	受入患者総数 (人)	1医療機関 あたりの 患者数(人)
全体	332	284	48	29,831	105.04
	100.0	85.5	14.5		
入院					
	回答者全体	有効回答 機関数	無回答	受入患者総数 (人)	1医療機関 あたりの 患者数(人)
全体	7	1	6	5	5.00
	100.0	14.3	85.7		

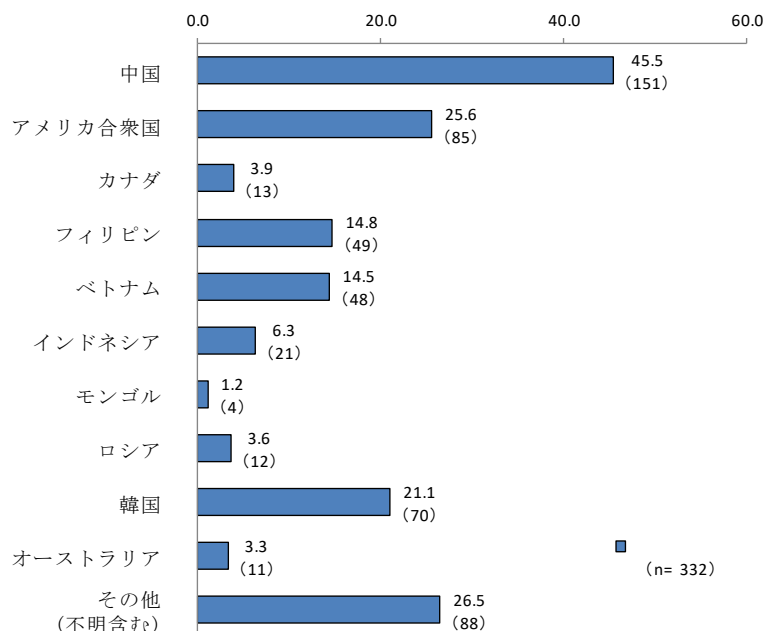
※表中の「1医療機関あたりの患者数」は、「受入患者総数」を「有効回答期間数」割って算出している。

(1) - 3 受け入れた在留外国人患者の国籍 (MA)

受け入れた在留外国人患者の国籍について聞いたところ、「中国」が45.5%で最も高く、次いで「アメリカ合衆国」が25.6%と続いている。

また、国籍別在留外国人患者の総数については、下表の通りとなっている。

図表Ⅱ-1-1-3 受け入れた在留外国人患者の国籍



図表Ⅱ-1-1-3-1 国籍別在留外国人患者の総数

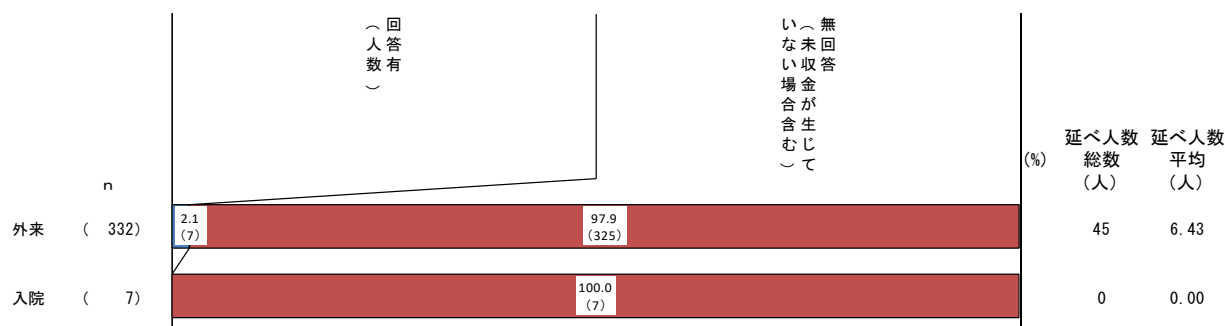
	中国	アメリカ合衆国	カナダ	フィリピン	ベトナム	インドネシア	モンゴル	ロシア	韓国	オーストラリア	その他 (不明含む)
総数 (人)	405	345	18	83	75	38	5	12	134	13	277
平均 (人)	2.68	4.06	1.38	1.69	1.56	1.81	1.25	1.00	1.91	1.18	3.1

※表中の「総数」は各国籍で回答のあった人数の合計、「平均」は「総数」を各国籍に回答した施設数で割って算出している。

(1) - 4 未収金を生じた在留外国人患者 (FA)

未収金を生じた在留外国人患者数について回答があったのは、外来で2.1%、入院で0.0%となっており、外来の延べ人数は45人、平均人数は6.43人となっている。

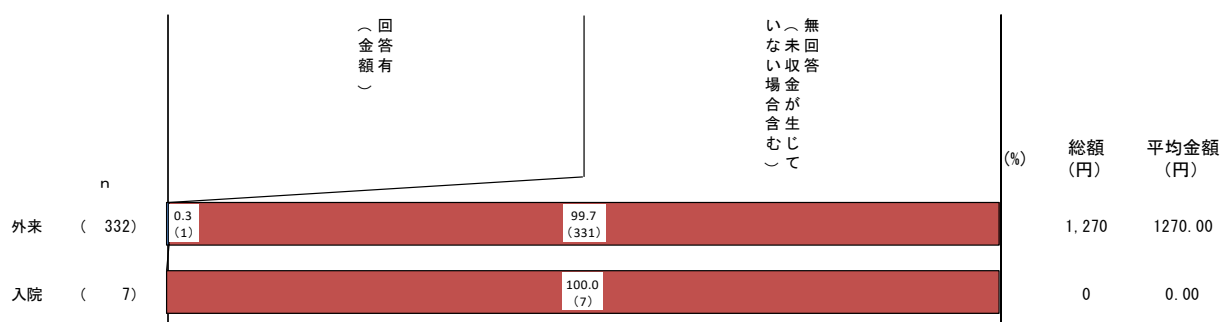
図表Ⅱ-1-1-4-1 未収金を生じた在留外国人患者 (人数)



※表中の「延べ人数平均」は、「延べ人数総数」を「回答有」の機関数で割って算出している。

未収金の合計金額について回答があったのは、外来で0.3%、入院で0.0%となっており、外来の総額は1,270円、平均金額は1270.00円となっている。

図表Ⅱ-1-1-4-2 未収金を生じた在留外国人患者 (金額)



※表中の「平均金額」は、機関数で割って算出している。

(1) - 5 公的医療保険利用の有無（在留外国人）(FA)

在留外国人患者の公的医療保険利用の有無について聞いたところ、外来では「あり」と回答があった施設数は262件で、人数の総数が1,063人、平均が4.06人、「なし」と回答があった施設数は41件で、人数の総数が176人、平均が4.29人となっている。

また、入院では「あり」と回答があった施設数は1件で、人数の総数が1人、平均が1.00人、「なし」と回答があった施設数は15件で、人数の総数が15人、平均が15.00人となっている。

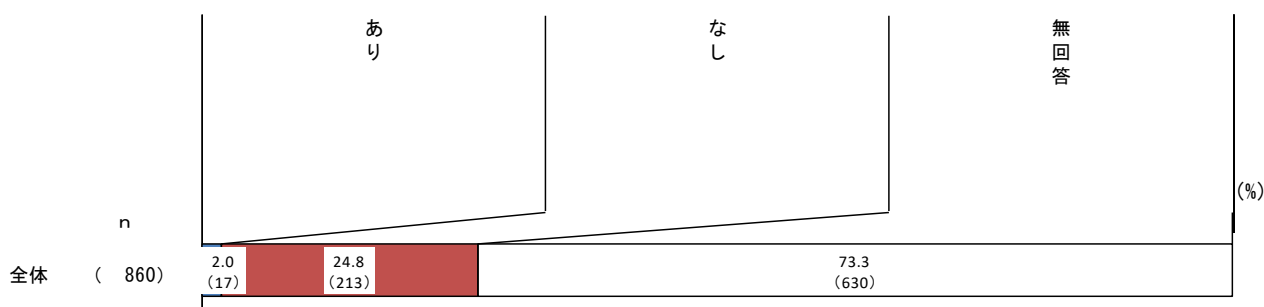
図表Ⅱ-1-1-5 公的医療保険利用の有無（在留外国人）

	外来			入院		
	施設数 (件)	総数 (人)	平均 (人)	施設数 (件)	総数 (人)	平均 (人)
あり	262	1,063	4.06	あり	1	1.00
なし	41	176	4.29	なし	15	15.00

(1) - 6 民間医療保険利用の有無（在留外国人）(SA)

在留外国人患者の民間医療保険利用の有無について聞いたところ、「あり」が2.0%、「なし」が24.8%となっている。

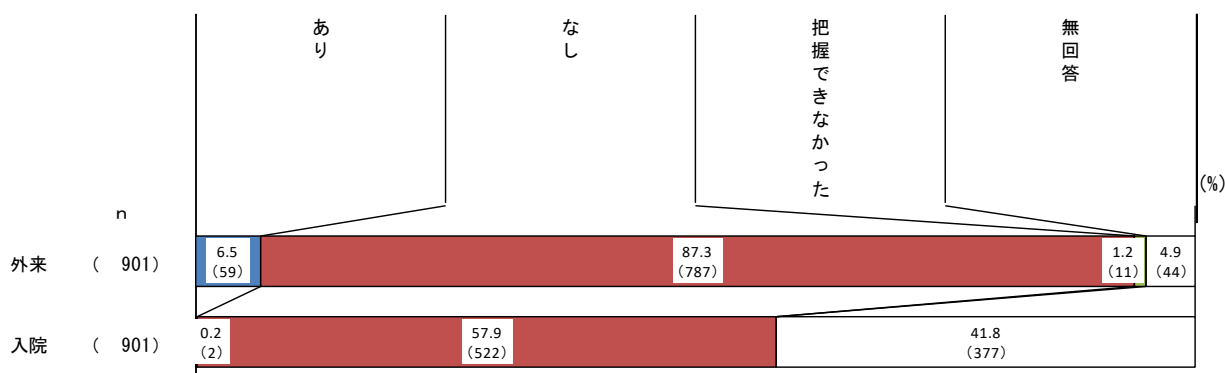
図表Ⅱ-1-1-6 民間医療保険利用の有無（在留外国人）



(2) 訪日外国人患者（医療渡航を除く）受入の有無（SA）

訪日外国人患者（医療渡航を除く）受入の有無について聞いたところ、『外来』では「あり」が6.5%、「なし」が87.3%、「把握できなかった」が1.2%となっており、『入院』では「あり」が0.2%、「なし」が57.9%となっている。

図表Ⅱ-1-2 訪日外国人患者（医療渡航を除く）受入の有無



(2) - 1 受け入れた訪日外国人患者（医療渡航を除く）の延べ人数（FA）

受け入れた訪日外国人患者（医療渡航を除く）の延べ人数について回答があったのは、外来で49件（83.1%）、入院は0件（0.0%）となっており、外来の延べ人数は181人、平均人数は3.69人となっている。

図表Ⅱ-1-2-1 受け入れた訪日外国人患者（医療渡航を除く）の延べ人数

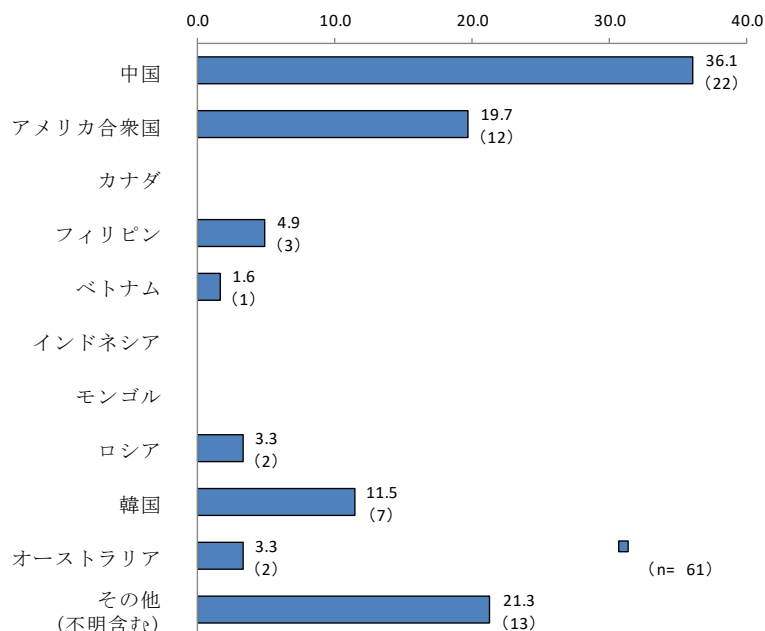
外来					
	回答者全体	有効回答 機関数	無回答	受入患者総数 (人)	1医療機関 あたりの 患者数 (人)
全体	59	49	10	181	3.69
	100.0	83.1	16.9		
入院					
	回答者全体	有効回答 機関数	無回答	受入患者総数 (人)	1医療機関 あたりの 患者数 (人)
全体	2	0	2	0	0.00
	100.0	0.0	100.0		

(2) - 2 受け入れた訪日外国人患者（医療渡航を除く）の国籍（MA）

受け入れた訪日外国人患者（医療渡航を除く）の国籍について聞いたところ、「中国」が36.1%で最も高く、次いで「アメリカ合衆国」が19.7%と続いている。

また、国籍別訪日外国人患者（医療渡航を除く）の総数については、下表の通りとなっている。

図表Ⅱ-1-2-2 受け入れた訪日外国人患者（医療渡航を除く）の国籍



図表Ⅱ-1-1-3-1 国籍別在留外国人患者の総数

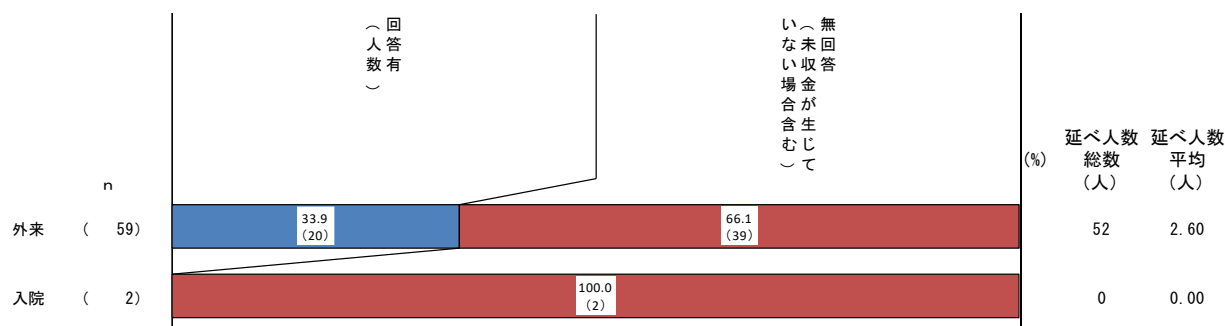
	中国	アメリカ合衆国	カナダ	フィリピン	ベトナム	インドネシア	モンゴル	ロシア	韓国	オーストラリア	その他 (不明含む)
総数 (人)	43	38	0	3	1	0	0	2	11	3	58
平均 (人)	1.95	3.17	0.00	1.00	1.00	0.00	0.00	1.00	1.57	1.50	4.5

※表中の「総数」は各国籍で回答のあった人数の合計、「平均」は「総数」を各国籍に回答した施設数で割って算出している。

(2) - 3 未収金を生じた訪日外国人患者（医療渡航を除く）（FA）

未収金を生じた訪日外国人患者（医療渡航を除く）数について回答があったのは、外来で 33.9%、入院は 0.0% となっており、外来の延べ人数は 52 人、平均人数は 2.60 人となっている。

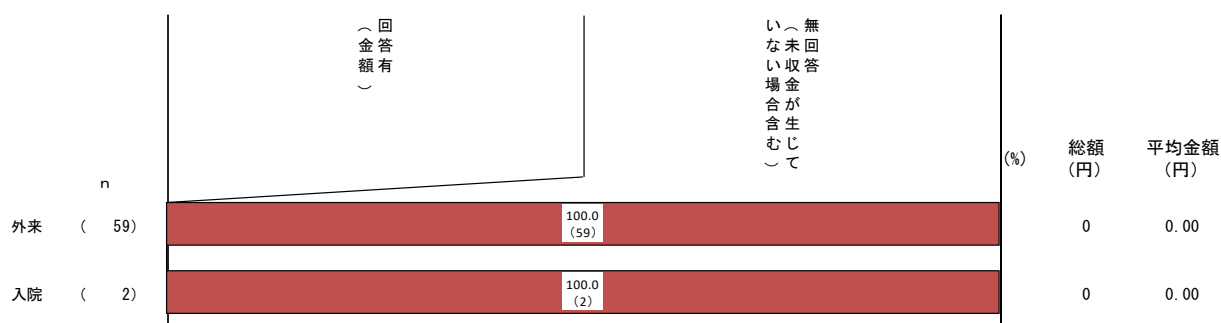
図表Ⅱ-1-2-3-1 未収金を生じた訪日外国人患者（医療渡航を除く）（人数）



※表中の「延べ人数平均」は、「延べ人数総数」を「回答有」の機関数で割って算出している。

未収金の合計金額について回答があったのは、外来、入院ともに 0.0% となっている。

図表Ⅱ-1-2-3-2 未収金を生じた訪日外国人患者（医療渡航を除く）（金額）



※表中の「平均金額」は、機関数で割って算出している。

(2) - 4 公的医療保険利用の有無（訪日外国人患者（医療渡航を除く））(FA)

訪日外国人患者（医療渡航を除く）の公的医療保険利用の有無について聞いたところ、外来では「あり」と回答があった施設数は5件で、人数の総数が7人、平均が1.40人、「なし」と回答があった施設数は33件で、人数の総数が116人、平均が3.52人となっている。

また、入院では「あり」、「なし」とともに0人となっている。

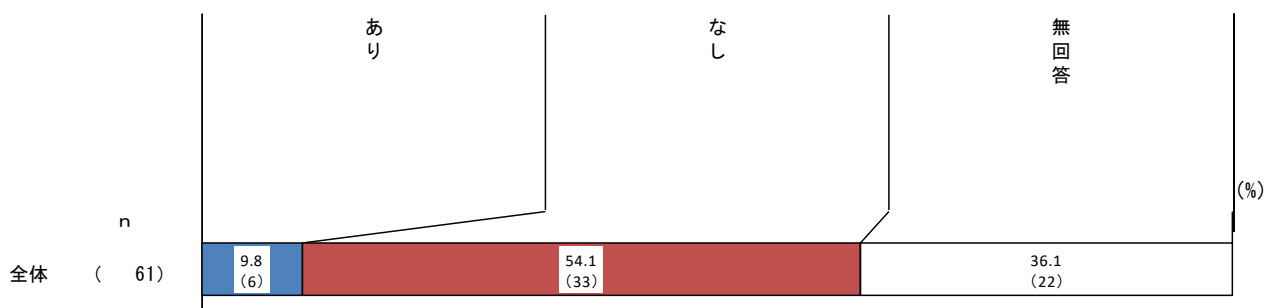
図表Ⅱ-1-2-4 公的医療保険利用の有無（訪日外国人患者（医療渡航を除く））

	外来			入院		
	施設数 (件)	総数 (人)	平均 (人)	施設数 (件)	総数 (人)	平均 (人)
あり	5	7	1.40	あり	0	0.00
なし	33	116	3.52	なし	0	0.00

(2) - 5 民間医療保険利用の有無（訪日外国人患者（医療渡航を除く））(SA)

訪日外国人患者（医療渡航を除く）の民間医療保険利用の有無について聞いたところ、「あり」が9.8%、「なし」が54.1%となっている。

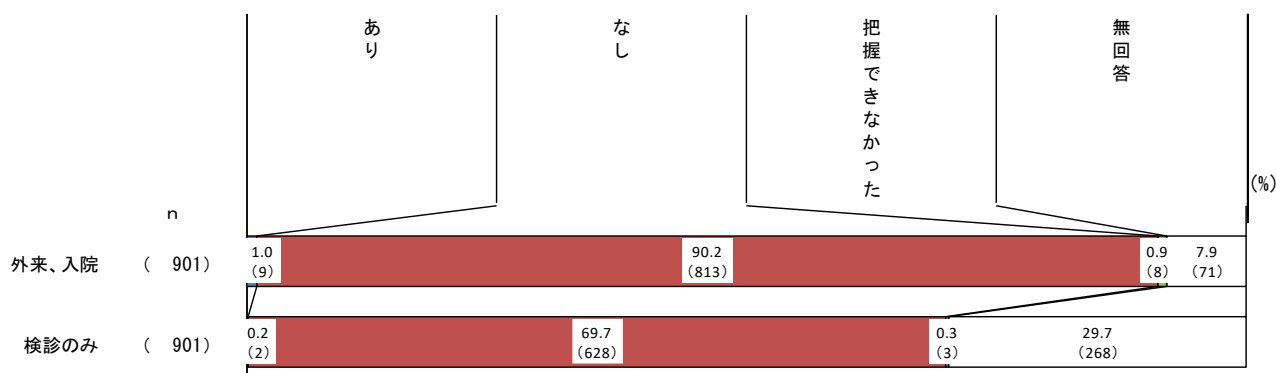
図表Ⅱ-1-2-5 民間医療保険利用の有無（訪日外国人患者（医療渡航を除く））



(3) 訪日外国人患者（医療目的）受入の有無（SA）

訪日外国人患者（医療目的）受入の有無について聞いたところ、『外来、入院』では「あり」が1.0%、「なし」が90.2%、「把握できなかった」が0.9%となっており、『検診のみ』では「あり」が0.2%、「なし」が69.7%、「把握できなかった」が0.3%となっている。

図表Ⅱ-1-3 訪日外国人患者（医療目的）受入の有無



(3) - 1 受け入れた訪日外国人患者（医療目的）の延べ人数（FA）

受け入れた訪日外国人患者（医療目的）の延べ人数について回答があったのは、外来、入院で5件（55.6%）、検診のみで2件（100.0%）となっており、延べ人数はそれぞれ8人（外来、入院）、12人（検診のみ）、平均人数はそれぞれ1.60人（外来、入院）、6.00人（検診のみ）となっている。

図表Ⅱ-1-3-1 受け入れた訪日外国人患者（医療目的）の延べ人数

外来、入院					
	回答者全体	有効回答機関数	無回答	受入患者総数 (人)	1医療機関あたりの患者数 (人)
全体	9	5	4	8	1.60
	100.0	55.6	44.4		
検診のみ					
	回答者全体	有効回答機関数	無回答	受入患者総数 (人)	1医療機関あたりの患者数 (人)
全体	2	2	0	12	6.00
	100.0	100.0	0.0		

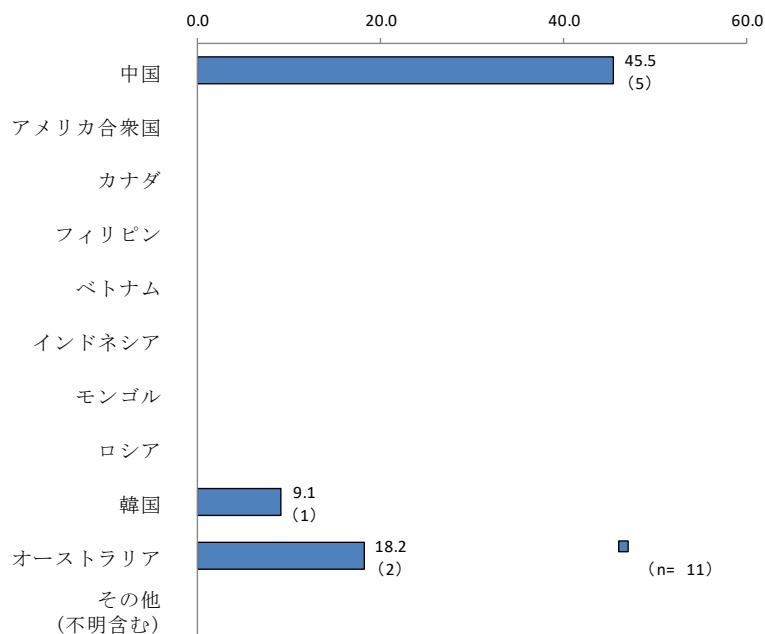
※表中の「1医療機関あたりの患者数」は、「受入患者総数」を「有効回答機関数」割って算出している。

(3) - 2 受け入れた訪日外国人患者（医療目的）の国籍（MA）

受け入れた在留外国人患者の国籍について聞いたところ、「中国」が45.5%で最も高く、次いで「オーストラリア」が18.2%と続いている。

また、国籍別在留外国人患者の総数については、下表の通りとなっている。

図表Ⅱ-1-3-2 受け入れた訪日外国人患者（医療目的）の国籍



図表Ⅱ-1-1-3-1 国籍別在留外国人患者の総数

	中国	アメリカ合衆国	カナダ	フィリピン	ベトナム	インドネシア	モンゴル	ロシア	韓国	オーストラリア	その他 (不明含む)
総数 (人)	14	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0
平均 (人)	2.80	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.00	1.00	0.0

※表中の「総数」は各国籍で回答のあった人数の合計、「平均」は「総数」を各国籍に回答した施設数で割って算出している。

(3) - 3 受け入れた訪日外国人患者（医療目的）の ICD 分類（FA）

受け入れた訪日外国人患者（医療目的）の ICD 分類の総数及び平均については、下表の通りとなっている。

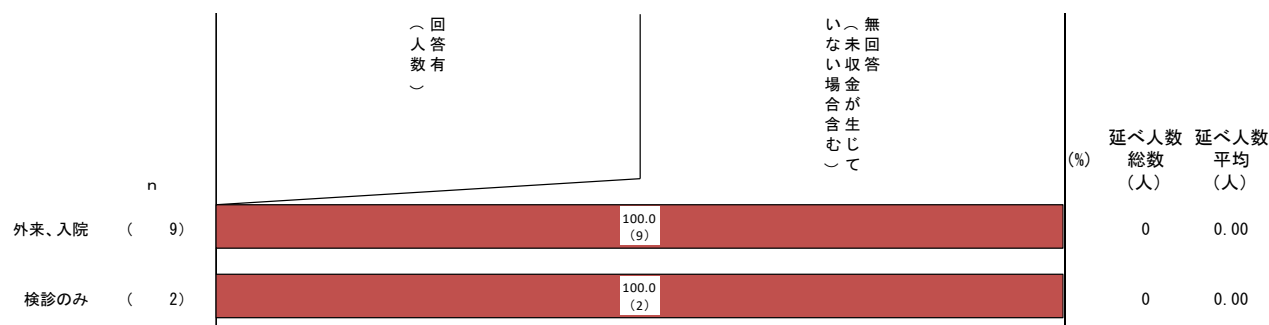
図表Ⅱ-1-3-3 受け入れた訪日外国人患者（医療目的）の ICD 分類

	回答 機関数 (件)	総数 (人)	平均 (人)
悪性新生物 (C00-C97)	0	0	0.00
呼吸器系疾患 (J00-J99)	0	0	0.00
筋骨格系及び 結合組織疾患 (M00-M94)	0	0	0.00
循環器系疾患 (I00-I99)	1	5	5.00
妊娠、分娩及び産褥 (000-099)	0	0	0.00
消化器系疾患 (K00-K94)	1	1	1.00
眼及び付属器の疾患、 耳及び乳用突起の疾患 (H00-H95)	0	0	0.00
腎尿路生殖系疾患 (N00-N99)	0	0	0.00
損傷、中毒及びその他 の外因の影響 (S00-T98)	0	0	0.00
血液及び造血器の疾患 並びに免疫機構の障害 (D50-D89)	0	0	0.00
その他 (不明含む)	0	0	0.00

(3) - 4 未収金を生じた訪日外国人患者（医療目的）(FA)

未収金を生じた訪日外国人患者（医療目的）数について回答があった病院はなかった。

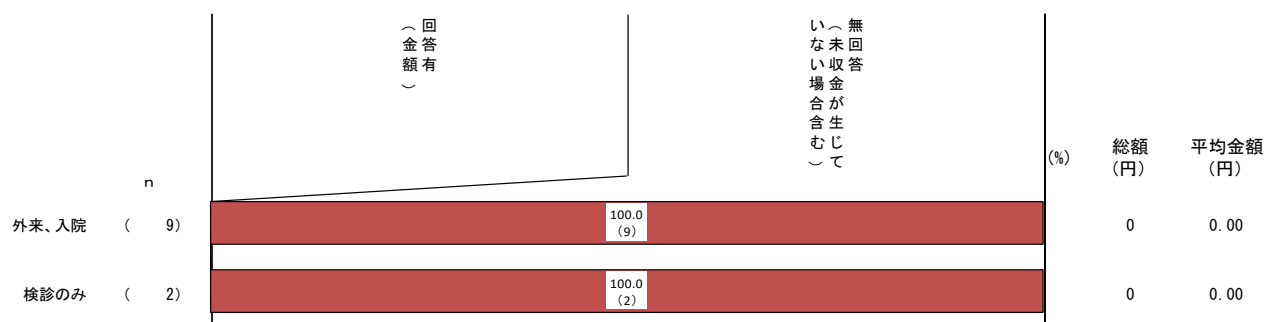
図表Ⅱ-1-3-4 未収金を生じた訪日外国人患者（医療目的）



※表中の「延べ人数平均」は、「延べ人数総数」を「回答有」の機関数で割って算出している。

未収金の合計金額について回答があった病院はなかった。

図表Ⅱ-1-3-4 未収金を生じた訪日外国人患者（医療目的）



※表中の「平均金額」は、機関数で割って算出している。

(3) - 5 公的医療保険利用の有無（訪日外国人患者（医療目的））（FA）

訪日外国人患者（医療目的）の公的医療保険利用の有無について聞いたところ、外来、入院では「あり」と回答があった施設数は2件で、人数の総数が2人、平均が1.00人、「なし」と回答があった施設数は1件で、人数の総数が0人となっている。

また、検診のみでは「なし」と回答があった施設数は1件で、人数の総数が5人、平均が5.00人、「あり」と回答があった施設数は0件で、人数の総数が0人となっている。

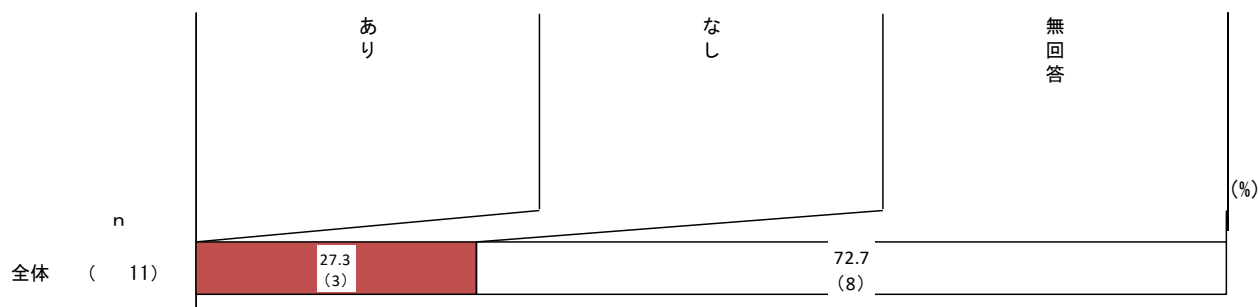
図表Ⅱ-1-3-5 公的医療保険利用の有無（訪日外国人患者（医療目的））

	外来、入院			検診のみ			
	施設数 (件)	総数 (人)	平均 (人)		施設数 (件)	総数 (人)	平均 (人)
あり	2	2	1.00	あり	0	0	0.00
なし	1	0	0.00	なし	1	5	5.00

(3) - 6 民間医療保険利用の有無（訪日外国人患者（医療目的））（SA）

訪日外国人患者（医療目的）の民間医療保険利用の有無について聞いたところ、「なし」が27.3%となっている。

図表Ⅱ-1-3-6 民間医療保険利用の有無（訪日外国人患者（医療目的））



2. 未収金を生じた患者について

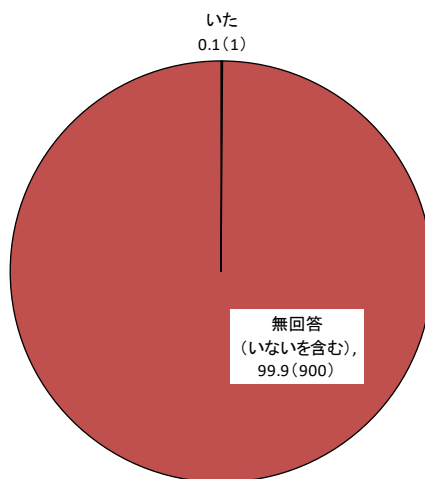
(1) 未収金を生じた患者の有無 (FA)

未収金を生じた患者の有無について聞いたところ、「いた」が0.1%、「無回答 (いないを含む)」が99.9%となっている。

また、各分類ごとの請求金額と未収金額については、下表の通りである。

図表Ⅱ-2-1 未収金を生じた患者の有無

(n= 901)



図表Ⅱ-2-1-1 請求金額と未収金額

請求金額				未収金額					
	病院数	請求金額総計 (円)	平均金額 (円)		病院数	未収金額総計 (円)	平均金額 (円)		
	全体	1	1,270	1270.00		全体	1	1,270	1270.00
患者 分類	在留外国人	1	1,270	1270.00	患者 分類	在留外国人	1	1,270	1270.00
	訪日外国人	0	0	-		訪日外国人	0	0	-
	医療目的訪日	0	0	-		医療目的訪日	0	0	-
	不明	0	0	-		不明	0	0	-
	無回答	0	0	-		無回答	0	0	-
状況	入院	0	0	-	状況	入院	0	0	-
	外来	1	1,270	1270.00		外来	1	1,270	1270.00
	無回答	0	0	-		無回答	0	0	-
補 填 有 無	有	0	0	-	補 填 有 無	有	0	0	-
	無	1	1,270	1270.00		無	1	1,270	1270.00
	無回答	0	0	-		無回答	0	0	-

<卷末資料>

調査票

**医療機関における外国人患者の受入に係る実態調査
調査票A 医療機関における受入体制に関する調査票**

- ・本調査は、外国人患者受入れ体制の状況等について実態を把握し、今後の体制整備のための基礎資料を得る目的で行うものです。
- ・本調査の調査票は、全国の病院及び抽出された診療所を対象とした調査票A及びBと、地域周産期母子医療センター及び総合周産期母子医療センターを対象とした調査票Cから構成されています。地域周産期母子医療センター及び総合周産期母子医療センターは調査票A、B及びCを、それ以外の病院及び診療所は調査票A及びBにご回答ください。
- ・この調査票は、貴院における外国人患者受入れ体制の状況等についてお尋ねするもの（調査票A）です。
- ・本調査票においては、**特に別の記載がある場合を除き平成30年9月1日時点の状況をお答えください。**

1. 基本情報

1-1. 貴院の基本情報を太枠内にご記入ください。

フリガナ				電話(代表)		
医療機関名				ファクシミリ		
所在地	〒		－			
許可病床数		床				
総患者数	平成29年度(2017年4月1日～2018年3月31日)の患者数を外来・入院別に「延べ数」でご記入下さい。(日本人・外国人を問わず)			外来		名
				入院		名

1-2. 医療機関の種別について、以下から貴院に該当するもの全てにレ点をご記入ください。

<input type="checkbox"/>	特定機能病院
<input type="checkbox"/>	地域医療支援病院
<input type="checkbox"/>	第2次救急医療機関
<input type="checkbox"/>	救命救急センター
<input type="checkbox"/>	災害拠点病院
<input type="checkbox"/>	総合周産期母子医療センター
<input type="checkbox"/>	地域周産期母子医療センター
<input type="checkbox"/>	診療所
<input type="checkbox"/>	歯科診療所
<input type="checkbox"/>	外国人受入れ環境整備事業の対象医療機関(※1)
<input type="checkbox"/>	訪日外国人旅行者受入可能な医療機関(※2)
<input type="checkbox"/>	ジャパンインターナショナルホスピタルズ(※3)
<input type="checkbox"/>	JMIP認証病院(※4)

- ※1 これまで厚生労働省が行ってきた、「外国人患者受入れ環境整備推進事業」で整備された医療機関。
- ※2 訪日外国人受け入れ医療機関として都道府県から観光庁に登録された医療機関。
- ※3 一般社団法人Medical Excellence JAPANにより推奨されている医療機関。
- ※4 一般財団法人日本医療教育財団により認証された医療機関。

1-3. 貴院が標榜している診療科目を以下の中から全て選びし点をご記入ください。

<input type="checkbox"/>	内科	<input type="checkbox"/>	外科	<input type="checkbox"/>	産婦人科
<input type="checkbox"/>	呼吸器内科	<input type="checkbox"/>	呼吸器外科	<input type="checkbox"/>	産科
<input type="checkbox"/>	循環器内科	<input type="checkbox"/>	心臓血管外科	<input type="checkbox"/>	婦人科
<input type="checkbox"/>	消化器内科（胃腸内科）	<input type="checkbox"/>	乳腺外科	<input type="checkbox"/>	リハビリテーション科
<input type="checkbox"/>	腎臓内科	<input type="checkbox"/>	気管食道外科	<input type="checkbox"/>	放射線科
<input type="checkbox"/>	神経内科	<input type="checkbox"/>	消化器外科（胃腸外科）	<input type="checkbox"/>	麻酔科
<input type="checkbox"/>	糖尿病内科（代謝内科）	<input type="checkbox"/>	泌尿器科	<input type="checkbox"/>	病理診断科
<input type="checkbox"/>	血液内科	<input type="checkbox"/>	肛門外科	<input type="checkbox"/>	臨床検査科
<input type="checkbox"/>	皮膚科	<input type="checkbox"/>	脳神経外科	<input type="checkbox"/>	救急科
<input type="checkbox"/>	アレルギー科	<input type="checkbox"/>	整形外科	<input type="checkbox"/>	歯科
<input type="checkbox"/>	リウマチ科	<input type="checkbox"/>	形成外科	<input type="checkbox"/>	矯正歯科
<input type="checkbox"/>	感染症内科	<input type="checkbox"/>	美容外科	<input type="checkbox"/>	小児歯科
<input type="checkbox"/>	小児科	<input type="checkbox"/>	眼科	<input type="checkbox"/>	歯科口腔外科
<input type="checkbox"/>	精神科	<input type="checkbox"/>	耳鼻いんこう科		
<input type="checkbox"/>	心療内科	<input type="checkbox"/>	小児外科		

2. 外国人患者に対応する体制について

2-1. 外国人を受け入れる体制の整備状況について伺います。担当部署、マニュアルについて以下の質問にお答えください。

1 外国人患者対応の専門部署	<input type="checkbox"/>	1 部署あり ・ 2 部署なし ・ 3 部署はないものの専門職員あり		
a. 所属職員（上で3を選択した場合は担当職員）の人数（※）	<input type="text"/>	人		
2 外国人対応マニュアルの整備状況	<input type="checkbox"/>	1 整備されている ・ 2 整備されていない		
↳ (1の場合) 利用できる職員の範囲	<input type="checkbox"/>	1 全ての職員が利用できる ・ 2 一部の職員が利用できる		
↳ (2の場合) 利用できる職員部門（該当するもの全てにレ点）	<input type="checkbox"/>	外国人患者対応の専門部署	<input type="checkbox"/>	受付
	<input type="checkbox"/>	その他（右欄に具体的に記入）		

※ 所属職員については、2-2における外国人向け医療コーディネーターの役割を果たしている場合でも、専門部署に所属している場合はこちらに記載ください。

2-2. 外国人向け医療コーディネーターについて以下の質問にお答えください。

※ 「外国人向け医療コーディネーター」とは「外国人患者を受け入れるための院内や院外関係者との調整を中心となってコーディネートする役割を担う職員」をさします。

※ ここでは、多言語対応のみの役割を担う職員は「外国人向け医療コーディネーター」には該当いたしません。「2-3. 医療通訳」の項目に記載ください。

外国人向け医療コーディネーター	<input type="checkbox"/>	1 配置している ・ 2 配置していない								
a. コーディネーターの人数	<input type="text"/>	人								
b. 専任・兼任の別	<input type="checkbox"/>	1 専任、兼任とも配置 ・ 2 専任のみ ・ 3 兼任のみ								
↳ (1または3の場合) 兼職（該当すべてにレ点）	<input type="checkbox"/>	医師	<input type="checkbox"/>	看護職	<input type="checkbox"/>	その他医療関係有資格者	<input type="checkbox"/>	事務職員	<input type="checkbox"/>	その他
↳ 専任・兼任それぞれの職員の人数	<input type="text"/>	専任	<input type="text"/>	名	<input type="text"/>	兼任	<input type="text"/>	名		
c. 常勤・非常勤の別	<input type="checkbox"/>	1 常勤、非常勤とも配置 ・ 2 常勤のみ ・ 3 非常勤のみ								
↳ 常勤・非常勤それぞれの職員の人数	<input type="text"/>	常勤	<input type="text"/>	名	<input type="text"/>	非常勤	<input type="text"/>	名		
d. 週の中でコーディネーターがカバーしている範囲（平日、休日）	<input type="checkbox"/>	1 平日、休日関わらずカバー ・ 2 平日のみ 3 そのほか（下欄に具体的に記入）								
e. コーディネーターがカバーしている時間帯	<input type="checkbox"/>	1 24時間 ・ 2 勤務時間帯（日勤帯）のみ 3 そのほか（下欄に具体的に記入）								
f. コーディネーターの役割（該当するもの全てにレ点）	<input type="checkbox"/>	医療者のサポート	<input type="checkbox"/>	トラブルの際に窓口となって対応	<input type="checkbox"/>	院内の連携調整				
<input type="checkbox"/>	院外の関係機関との連携調整	<input type="checkbox"/>	組織の課題の解決策の提示	<input type="checkbox"/>	組織の課題の解決策の実行					
<input type="checkbox"/>	その他（右欄に具体的に記入）									
<input type="checkbox"/>	多言語対応									
↳ (多言語対応を行っている場合) 対応言語（該当するもの全てにレ点）										
<input type="checkbox"/>	英語	<input type="checkbox"/>	中国語	<input type="checkbox"/>	韓国・朝鮮語					
<input type="checkbox"/>	ポルトガル語	<input type="checkbox"/>	スペイン語	<input type="checkbox"/>	ロシア語					
<input type="checkbox"/>	ベトナム語	<input type="checkbox"/>	タガログ語	<input type="checkbox"/>	インドネシア語					
<input type="checkbox"/>	その他（下欄に具体的に記入）									

2-3. 医療通訳について伺います。ここでは、医療通訳者を医療機関に配置することについて伺います。

※ 医療コーディネーターが多言語対応を担当している場合、当該コーディネーターについては2-2に記載いただき、本問2-3については、医療コーディネーター以外の職員について記載ください。

医療通訳	<input type="checkbox"/>	1 配置している・2 配置していない			
a. 医療通訳の人数	<input type="checkbox"/>	人			
b. 専任・兼任の別	<input type="checkbox"/>	1 専任、兼任とも配置・2 専任のみ・3 兼任のみ			
(1 または3 の場合) 兼職 (該当すべてにレ点)					
	<input type="checkbox"/>	医師			
	<input type="checkbox"/>	看護職			
	<input type="checkbox"/>	その他医療関係有資格者			
	<input type="checkbox"/>	事務職員			
	<input type="checkbox"/>	その他			
専任・兼任それぞれの職員の人数	専任 <input type="checkbox"/>	名 兼任 <input type="checkbox"/>			
c. 常勤・非常勤の別	<input type="checkbox"/>	1 常勤、非常勤とも配置・2 常勤のみ・3 非常勤のみ			
常勤・非常勤それぞれの職員の人数	常勤 <input type="checkbox"/>	名 非常勤 <input type="checkbox"/>			
d. 週の中で医療通訳がカバーしている範囲 (平日、休日)	<input type="checkbox"/>	1 平日、休日関わらずカバー・2 平日のみ 3 そのほか (下欄に具体的に記入)			
<input type="text"/>					
e. 医療通訳がカバーしている時間帯	<input type="checkbox"/>	1 24時間・2 勤務時間帯 (日勤帯) のみ 3 そのほか (下欄に具体的に記入)			
<input type="text"/>					
f. 医療通訳が対応している言語 (該当するもの全てにレ点)					
<input type="checkbox"/>	英語	<input type="checkbox"/>	中国語	<input type="checkbox"/>	韓国・朝鮮語
<input type="checkbox"/>	ポルトガル語	<input type="checkbox"/>	スペイン語	<input type="checkbox"/>	ロシア語
<input type="checkbox"/>	ベトナム語	<input type="checkbox"/>	タガログ語	<input type="checkbox"/>	インドネシア語
<input type="checkbox"/>	その他 (下欄に具体的に記入)				
<input type="text"/>					

2-4. 医療通訳者以外の多言語対応体制について伺います。電話通訳（遠隔通訳）について以下の質問にお答えください。

1 電話通訳（遠隔通訳）		1 利用している ・ 2 利用していない	
a. 利用しているサービス名（事業者名）			
b. 電話通訳（遠隔通訳）がカバーしている範囲（平日、休日）		1 平日、休日問わずカバー ・ 2 平日のみ 3 そのほか（下欄に具体的に記入）	
c. 電話通訳（遠隔通訳）がカバーしている時間帯		1 24時間 ・ 2 日勤帯のみ 3 そのほか（下欄に具体的に記入）	
d. 電話通訳（遠隔通訳）が対応している言語（該当するもの全てにレ点）			
<input type="checkbox"/>	英語	<input type="checkbox"/>	中国語
<input type="checkbox"/>	ポルトガル語	<input type="checkbox"/>	スペイン語
<input type="checkbox"/>	ベトナム語	<input type="checkbox"/>	タガログ語
<input type="checkbox"/>	韓国・朝鮮語	<input type="checkbox"/>	ロシア語
<input type="checkbox"/>	インドネシア語	<input type="checkbox"/>	
その他（下欄に具体的に記入）			
2. その他、貴院において多言語に対応するために行っている他の取組がありましたら、下欄に具体的にご記入ください。			

2-5. 院内案内図、院内表示について以下の質問にお答えください。

院内案内図、院内表示の状況		<input type="checkbox"/>	1 多言語化している	・	<input type="checkbox"/>	2 多言語化していない
a. 院内案内図、院内表示が対応している言語（該当するもの全てにレ点）						
<input type="checkbox"/>	英語	<input type="checkbox"/>	中国語	<input type="checkbox"/>	韓国・朝鮮語	
<input type="checkbox"/>	ポルトガル語	<input type="checkbox"/>	スペイン語	<input type="checkbox"/>	ロシア語	
<input type="checkbox"/>	ベトナム語	<input type="checkbox"/>	タガログ語	<input type="checkbox"/>	インドネシア語	
<input type="checkbox"/>	その他（下欄に具体的に記入）					

2-6. 外国人患者の受入に資するタブレット端末、スマートフォン端末の利用状況について伺います。

外国人患者の受入に資するタブレット端末、又はスマートフォン端末		<input type="checkbox"/>	1 医療機関として導入している				・	<input type="checkbox"/>	2 導入していない、又は医療従事者が個人で使用している	
a. （導入している場合） 外国人への対応に用いているアプリ										
b. （導入している場合）端末を利用できる職員部門（該当するもの全てにレ点）		<input type="checkbox"/>	外国人患者対応の専門部署		<input type="checkbox"/>	受付				
		<input type="checkbox"/>	診療部門							
		<input type="checkbox"/>	その他（右欄に具体的に記入）							
c. 端末に備わっている機能（該当するもの全てにレ点）										
<input type="checkbox"/>	マニュアル、説明書等、資料の表示		<input type="checkbox"/>	決済機能						
<input type="checkbox"/>	翻訳機能		<input type="checkbox"/>	その他（右欄に具体的に記入）						
翻訳機能を備えている場合、対応言語を選択ください。（該当するもの全てにレ点）										
<input type="checkbox"/>	英語	<input type="checkbox"/>	中国語	<input type="checkbox"/>	韓国・朝鮮語					
<input type="checkbox"/>	ポルトガル語	<input type="checkbox"/>	スペイン語	<input type="checkbox"/>	ロシア語					
<input type="checkbox"/>	ベトナム語	<input type="checkbox"/>	タガログ語	<input type="checkbox"/>	インドネシア語					
<input type="checkbox"/>	その他（下欄に具体的に記入）									

3. 医療費等について

訪日外国人に対する医療費の請求方法について、以下の1～4から該当するものにレ点を記入し、記載に従って右欄で補足ください。

1		日本の診療報酬点数表を基準とし、1点10円で請求している。	
2		日本の診療報酬点数表を基準とし、1点10円以外で計算して請求している。	
		診療報酬点数「1点」＝	円に相当
3		日本の診療報酬点数表を全く用いずに請求している。（下欄に具体的な計算方法等を記入ください）	
4		1,2の他、追加的な費用を請求している。（該当する項目を以下の（1）～（4）から全て選択しレ点を記入）	
	(1)	通訳料（具体的な請求方法を以下に記入ください）	
		1回の通訳での請求額＝	円
		10分あたりの請求額＝	円
		その他（右欄に具体的に記入ください）	
	(2)	医師の診療時間に応じた料金計算（下欄に具体的に記入ください）	
	(3)	診断書作成料等の事務手数料（下欄に具体的に記入ください）	
	(4)	その他（下欄に具体的に記載ください）	

4. キャッシュレス決済について

キャッシュレス決済の導入状況について以下の設問にお答えください。

1. カード（クレジットカード、デビットカード）を利用した決済		<input type="checkbox"/>	1 導入している	・	2 導入していない
(導入している場合) 対応ブランド（該当するもの全てにレ点）					
<input type="checkbox"/>	Visa(ビザ)	<input type="checkbox"/>	Mastercard (マスター)	<input type="checkbox"/>	Union Pay (銀聯カード)
<input type="checkbox"/>	American Express (アメリカン・エクスプレス)	<input type="checkbox"/>	JCB (ジェーシーピー)	<input type="checkbox"/>	Diners (ダイナース)
<input type="checkbox"/>	その他（下欄に具体的に記入）				
2. 非接触カードを利用した決済		<input type="checkbox"/>	1 導入している	・	2 導入していない
(導入している場合) 対応している電子マネー（該当するもの全てにレ点）					
<input type="checkbox"/>	楽天Edy	<input type="checkbox"/>	SUGOCA	<input type="checkbox"/>	ICOCA
<input type="checkbox"/>	PASMO	<input type="checkbox"/>	Suica	<input type="checkbox"/>	Kitaca
<input type="checkbox"/>	Waon	<input type="checkbox"/>	Nanaco	<input type="checkbox"/>	その他（下欄に具体的に記入）
3. QRコードを利用した決済		<input type="checkbox"/>	1 導入している	・	2 導入していない
(導入している場合) 対応しているサービス（該当するもの全てにレ点）					
<input type="checkbox"/>	Alipay (アリペイ)	<input type="checkbox"/>	WeChat Pay (ウィーチャット・ペイ)	<input type="checkbox"/>	その他（下欄に具体的に記入）
4. そのほかの決済サービスを利用している場合右欄にチェックし、下欄に具体的に記入してください。					<input type="checkbox"/>

5. 未収金等への対策

5-1

未収金等に対する対策として、貴院で訪日外国人患者に対する診療に際し実施している取組について、以下の中から該当するものを全て選択し、設問にお答えください。

※ ただし、必ずしも未収金等の対策として行っているものでなくても、訪日外国人に対して行っている取組であれば、選択していただいて差支えありません。例えば、身分証の確認等は医療安全にも寄与するものと考えられます。

<input type="checkbox"/>	パスポート等、身分証の確認	<input type="checkbox"/>	パスポート等、身分確認証のコピーの保存	<input type="checkbox"/>	価格についての事前説明
<input type="checkbox"/>	診療内容の事前の説明				
<input type="checkbox"/>	その他（右欄に具体的に記入）				
<input type="checkbox"/>	同意書の取得				
（同意書を取得している場合）同意の内容（該当するもの全てにレ点）					
<input type="checkbox"/>	診療に協力する	<input type="checkbox"/>	請求された金額を支払う		
<input type="checkbox"/>	その他（下欄に具体的に記入）				

5-2

貴院での在留外国人に対する本人確認について、以下の設問にお答えください。

外国人患者に対する本人確認の有無	<input type="checkbox"/>	1 本人確認をしている ・ 2 本人確認をしていない		
(1 の場合) 確認の際に提示を求めているもの (該当するもの全てにレ点)	<input type="checkbox"/>	パスポート	<input type="checkbox"/>	在留カード
	<input type="checkbox"/>	その他（右欄に具体的に記入）		

6. その他

本調査結果について、都道府県において課題解決を検討するための参考として頂くよう、厚生労働省が取りまとめた上で、**都道府県、厚生労働省科学研究事業に共有することを同意されない場合にレ点。**

7. ご担当者様の情報

差し支えなければ、ご担当者様の情報（必要時、本調査に関することや外国人患者受入れに関すること等をお伺いする際のご連絡先）をご記入ください。複数の方が担当された場合は、代表者様の情報をご記入ください。

フリガナ		電話番号	
お名前		ファクシミリ	
ご所属・役職			
メールアドレス			

**医療機関における外国人患者の受入に係る実態調査
調査票B 外国人患者の受入に関する調査票**

- 本調査は、外国人患者受入れ体制の状況等について実態を把握し、今後の体制整備のための基礎資料を得る目的で行うものです。
- 本調査の調査票は、全国の病院及び抽出された診療所を対象とした調査票A及びBと、地域周産期母子医療センター及び総合周産期母子医療センターを対象とした調査票Cから構成されています。地域周産期母子医療センター及び総合周産期母子医療センターは調査票A、B及びCを、それ以外の病院及び診療所におかれては調査票A及びBにご回答ください。
- この調査票は、貴院における外国人患者受入れの現状等についてお尋ねするもの（調査票B）です。
- 本調査票においては、**特に別の記載がある場合を除き平成30年10月1日～10月31日に受診した外国人についてお答えください。**

1. 基本情報

1-1. 貴院の基本情報を太枠内にご記入下さい。

フリガナ				電話(代表)	
				ファクシミリ	
医療機関名					
所在地	〒		-		

2. 外国人患者の受入実績について

平成30年10月1日～10月31日の期間に受け入れた外国人患者について以下の質問にお答えください。

なお、在留外国人、訪日外国人、医療を目的に訪日した外国人については、以下の定義に基づきご回答ください。

- ・在留外国人：
 - 在留資格を持ち（在留カード所持者）、日本に中長期居住している外国人患者。
 - なお、在留資格を持っている外国人の多くは保険証を所持しています。日本語での意思疎通が難しい在留外国人は、「日本語での意思疎通が難しい、日本に居住している外国籍の患者」を選択下さい。
- ・訪日外国人（医療渡航を除く）：
 - 観光等の目的で日本に短期間訪日している外国人。ただし、下記の「医療を目的に訪日した外国人」を除く。
- ・医療を目的に訪日した外国人：訪日外国人のうち、日本に入国する前に、医療機関と調整した上で来日した外国人。

※保険証を所持していても、在留外国人であるかどうかについては必ずしも容易に確認できないことから、**把握できる限り**で記載ください。

※「未収金を生じた患者」については、診療の対価を請求したにも関わらず、請求日より**1か月**を経ても診療費の全額を支払っていない患者を指すこととします。

		外来				入院			
A 在留外国人患者	1 受入れの有無	1 あり・2 なし・3 把握できなかった				1 あり・2 なし・3 把握できなかった			
	(3の場合) 把握できなかった理由								
	(1または2の場合) 把握している在留外国人患者	1 在留資格を持ち中長期日本に居住している外国人患者 2 日本語での意思疎通が難しい、在留資格をもつ外国籍の患者							
	2 (1で受入れ「あり」の場合) 期間内の延べ患者数	(延べ患者数) <input type="text"/> 名				(延べ患者数) <input type="text"/> 名			
		概数を把握している場合（番号を記入）				概数を把握している場合（番号を記入）			
		<input type="text"/>	1. 5名以内	3. 11～20名	<input type="text"/>	1. 5名以内	3. 11～20名		
		<input type="text"/>	2. 6～10名	4. 21名以上	<input type="text"/>	2. 6～10名	4. 21名以上		
	3 受け入れた外国人の国籍について以下に該当する外国人の人数をお答えください。また、以下にあげた国以外の国籍の外国人を受け入れた場合、その国籍と人数を「その他」の欄に記載ください。								
	中国	<input type="text"/> 名	ベトナム	<input type="text"/> 名	ロシア	<input type="text"/> 名			
	アメリカ合衆国	<input type="text"/> 名	インドネシア	<input type="text"/> 名	韓国	<input type="text"/> 名			
カナダ	<input type="text"/> 名	モンゴル	<input type="text"/> 名	オーストラリア	<input type="text"/> 名				
フィリピン	<input type="text"/> 名								
その他	<input type="text"/>								
4 受け入れた患者のうち、未収金を生じた患者	(延べ患者数) <input type="text"/> 名				(延べ患者数) <input type="text"/> 名				
└ 未収金の合計金額（円）	<input type="text"/> 円				<input type="text"/> 円				
5 公的医療保険利用の有無	あり <input type="text"/> 名				あり <input type="text"/> 名				
	なし <input type="text"/> 名				なし <input type="text"/> 名				
└ 「あり」のうち保険種別	国民健康保険	<input type="text"/> 名	健康保険（※1）（被保険者）	<input type="text"/> 名	健康保険（※2）（被扶養者）	<input type="text"/> 名	その他	<input type="text"/> 名	
6 民間医療保険利用の有無	<input type="text"/>	あり	<input type="text"/>	なし					

(※1) 企業等に勤務している方で、協会けんぽや健康保険組合の保険証を所持している方。

(※2) 企業等に勤務している方に扶養されている方で、協会けんぽや健康保険組合の保険証を所持している方。

		外来				入院							
B 訪日外国人（医療渡航を除く）	1 受入れの有無	1 あり・2 なし・3 把握できなかった				1 あり・2 なし・3 把握できなかった							
	(3の場合) 把握できなかった理由												
	2 (1で受入れ「あり」の場合) 期間内の延べ患者数	(延べ患者数)				名		(延べ患者数)				名	
		概数を把握している場合（番号を記入）											
				1. 5名以内		3. 11～20名				1. 5名以内		3. 11～20名	
				2. 6～10名		4. 21名以上				2. 6～10名		4. 21名以上	
	3	受け入れた外国人の国籍について以下に該当する外国人の人数をお答えください。また、以下にあげた国以外の国籍の外国人を受け入れた場合、その国籍と人数を「その他」の欄に記載ください。											
		中国		名	ベトナム		名	ロシア		名			
		アメリカ合衆国		名	インドネシア		名	韓国		名			
		カナダ		名	モンゴル		名	オーストラリア		名			
	フィリピン		名										
	その他												
4	受け入れた患者のうち、	(延べ患者数)				名		(延べ患者数)				名	
	未収金の合計金額（円）					円						円	
5	公的医療保険利用の有無	あり				名		あり				名	
		なし				名		なし				名	
6	民間医療保険利用の有無	国民健康保険		名	健康保険（※1）（被保険者）		名	健康保険（※2）（被扶養者）		名	その他		名
		あり			なし								

(※1) 企業等に勤務している方で、協会けんぽや健康保険組合の保険証を所持している方。

(※2) 企業等に勤務している方に扶養されている方で、協会けんぽや健康保険組合の保険証を所持している方。

		外来、入院（健診のみものを除く）				健診のみもの（外来、入院を問わない）							
C 医療を目的に訪日した外国人	1 受入れの有無	1 あり・2 なし・3 把握できなかった				1 あり・2 なし・3 把握できなかった							
	(3の場合) 把握できなかった理由												
	2 (1で受入れ「あり」の場合) 期間内の延べ患者数	(延べ患者数)				名		(延べ患者数)				名	
		概数を把握している場合（番号を記入）											
				1. 5名以内		3. 11～20名				1. 5名以内		3. 11～20名	
				2. 6～10名		4. 21名以上				2. 6～10名		4. 21名以上	
	3	受け入れた外国人の国籍について以下に該当する外国人の人数をお答えください。また、以下にあげた国以外の国籍の外国人を受け入れた場合、その国籍と人数を「その他」の欄に記載ください。											
		中国		名	ベトナム		名	ロシア		名			
		アメリカ合衆国		名	インドネシア		名	韓国		名			
		カナダ		名	モンゴル		名	オーストラリア		名			
	フィリピン		名										
	その他												
4	受け入れた外国人の診断のICD分類について以下に該当する外国人の人数をお答えください。また、以下にあげた診断以外の診断を受け入れた外国人を受け入れた場合、その診断と人数を「その他」の欄にICD-10に基づき記載ください。												
	悪性新生物 (C00-C97)		名	循環器系疾患 (I00-I99)		名	腎尿路生殖系疾患 (N00-99)		名				
	呼吸器系疾患 (J00-J99)		名	妊娠、分娩及び産褥 (O00-O99)		名	損傷、中毒及びその他の外因の影響 (S00-T98)		名				
	筋骨格系及び結合組織疾患 (M00-M94)		名	消化器系疾患 (K00-K94)		名	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 (D50-D89)		名				
				眼及び付属器の疾患、耳及び乳様突起の疾患 (H00-H95)		名							
	その他												
5	受け入れた患者のうち、未収金を生じた患者	(延べ患者数)				名		(延べ患者数)				名	
	未収金の合計金額 (円)					円						円	
6	公的医療保険利用の有無	あり				名		あり				名	
		なし				名		なし				名	
	「あり」のうち保険種別	国民健康保険		名	健康保険 (※1) (被保険者)		名	健康保険 (※2) (被扶養者)		名	その他		名
7	民間医療保険利用の有無	あり				なし							

(※1) 企業等に勤務している方で、協会けんぽや健康保険組合の保険証を所持している方。

(※2) 企業等に勤務している方に扶養されている方で、協会けんぽや健康保険組合の保険証を所持している方。

5. 未収金を生じた患者の詳細について

平成30年10月1日～10月31日の期間に受け入れた外国人患者のうち、未収金を生じた患者のそれぞれについて、以下の表にご記入ください。

	国籍	患者分類 (以下から選択) ①：在留外国人 ②：訪日外国人(医療渡航を除く) ③：医療を目的に訪日した外国人	入院/ 外来	(入院の場合) 入院日数 (日)	診断名	請求金額 (総額、円)	未収となった 金額 (円)	医療機関が 加入する 保険による 未収金の補填 (有、無)
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
21								
22								
23								
24								
25								

6. その他

本調査結果について、都道府県において課題解決を検討するための参考として頂くよう、厚生労働省が取りまとめた上で、**都道府県、厚生労働省科学研究事業に共有することを同意されない場合にレ点。**

7. ご担当者様の情報

差し支えなければ、ご担当者様の情報（必要時、本調査に関することや外国人患者受入れに関すること等をお伺い
する際のご連絡先）をご記入ください。複数の方が担当された場合は、代表者様の情報をご記入ください。

フリガナ		電話番号	
お名前		ファクシミリ	
ご所属・役職			
メールアドレス			

医療機関における外国人患者の受入に係る実態調査
調査票C 周産期医療に係る外国人患者受入れの現状に関する調査票

- ・本調査は、外国人患者受入れ体制の状況等について実態を把握し、今後の体制整備のための基礎資料を得る目的で行うものです。
- ・本調査の調査票は、全国の病院及び抽出された診療所を対象とした調査票A及びBと、地域周産期母子医療センター及び総合周産期母子医療センターを対象とした調査票Cから構成されています。地域周産期母子医療センター及び総合周産期母子医療センターは調査票A、B及びCを、それ以外の病院及び診療所におかれては調査票A及びBにご回答ください。
- ・この調査票は、貴院における周産期医療に係る外国人患者受入れの現状等についてお尋ねするもの（調査票C）です。
- ・本調査票においては、**特に別の記載がある場合を除き平成29年度（平成29年4月1日～平成30年3月31日）**に受け入れた患者について以下の質問にお答えください。

1. 基本情報

1-1. 貴院の基本情報を太枠内にご記入下さい。

フリガナ				電話(代表)	
				ファクシミリ	
医療機関名					
所在地	〒		-		

2. 外国人患者の受入実績について

平成29年度（平成29年4月1日～平成30年3月31日）に受け入れた患者について以下の質問にお答えください。
 なお、訪日外国人については、以下の定義に基づきご回答ください。

- ・ 訪日外国人（医療渡航を除く）：
 観光等の目的で日本に短期間訪日している外国人。（日本に居住していない）

2-1. 妊娠12週以降に分娩に至った妊婦		例
a. うち、訪日外国人であった者		1 あり ・ 2 なし ・ 3 把握していない
(a. が1「あり」の場合) その例数		例
2-2. 妊娠12週より前の流産に対して手術を実施した患者（人工流産を除く）		例
a. うち、訪日外国人であった者		1 あり ・ 2 なし ・ 3 把握していない
(a. が1「あり」の場合) その例数		例
2-3. 異所性妊娠の手術を実施した患者		例
a. うち、訪日外国人であった者		1 あり ・ 2 なし ・ 3 把握していない
(a. が1「あり」の場合) その例数		例

3. 訪日外国人に係る周産期医療の患者それぞれの詳細について

3-1 平成29年度（平成29年4月1日～平成30年3月31日）に受け入れた、妊娠12週以降に分娩にいたった妊婦のうち、
訪日外国人である者のそれぞれについての情報を以下の表にご記入ください。

	国籍	年齢	分娩 週数 (週)	病名① (入院の主たる 原因)	病名② (入院の主たる 原因)	分娩方法 (①～④から選択) ①正常経産分娩 ②異常経産分娩 ③予定帝王切開 ④緊急帝王切開	生産 又は 死産※	退院 までに 要した 日数 (日)	請求 金額 の総額 (円)	未収 金の 有無	通訳 手配 の有無	旅行者 保険加 入の有 無	旅行者保険 による診療 費の補填の 有無
1													
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													

※ ここで言う「死産」とは、「妊娠12週以降22週未満の流産又は妊娠22週以降の死産」を言う。

3-2 平成29年度（平成29年4月1日～平成30年3月31日）に受け入れた、妊娠12週より前の流産に対して手術を実施した患者（人工流産を除く）のうち、訪日外国人である者のそれぞれについての情報を以下の表にご記入ください。

	国籍	年齢	退院までに要した日数	請求金額の総額 (円)	未収金の有無	(未収金がある場合) その金額 (円)	通訳手配の有無	旅行者保険加入の有無	旅行者保険による診療費の補填の有無
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									

3-3 平成29年度（平成29年4月1日～平成30年3月31日）に受け入れた、異所性妊娠の手術を実施した患者のうち、訪日外国人である者のそれぞれについての情報を以下の表にご記入ください。

	国籍	年齢	退院までに要した日数	請求金額の総額 (円)	未収金の有無	(未収金がある場合) その金額 (円)	通訳手配の有無	旅行者保険加入の有無	旅行者保険による診療費の補填の有無
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									

3-4 平成29年度（平成29年4月1日～平成30年3月31日）に受け入れた、訪日外国人が分娩した新生児のそれぞれについての情報を以下の表にご記入ください。

	母の国籍	年齢	小児科医の分娩立ち会いの有無	在胎週数(週)	分娩方法 (①～④から選択) ①正常経産分娩 ②異常経産分娩 ③予定帝王切開 ④緊急帝王切開	NICU入院の有無	(NICUに入院した場合)NICUの入院日数(日)	退院までに要した日数(日)	請求金額の総額(円)	未収金の有無	(未収金がある場合)その金額(円)	旅行者保険加入の有無	旅行者保険による診療費の補填の有無
1													
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
16													
17													
18													
19													
20													

6. その他

本調査結果について、都道府県において課題解決を検討するための参考として頂くよう、厚生労働省が取りまとめた上で、**都道府県、厚生労働省科学研究事業に共有することを同意されない場合**にレ点。

7. ご担当者様の情報

差し支えなければ、ご担当者様の情報（必要時、本調査に関することや外国人患者受入れに関すること等をお伺い
する際のご連絡先）をご記入ください。複数の方が担当された場合は、代表者様の情報をご記入ください。

フリガナ		電話番号	
お名前		ファクシミリ	
ご所属・役職			
メールアドレス			

※上記は病院用の調査票（診療所用調査票については、該当期間が異なるが質問内容は同様のため省略）